

◎指示があるまで開かないこと。

(令和7年2月8日 9時30分～12時15分)

## 注 意 事 項

- 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間45分である。
- 解答方法は次のとおりである。

- (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。  
(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医師免許を付与する

のはどれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのは

どれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「b」であるから答案用紙の**(b)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
101 (a) ● (c) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	●
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	(e)

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の**(a)**と**(e)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
102 ● (b) (c) (d) ●

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	●
(b)	(b)
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	●

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3)

103 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9

正解は「90」であるから①は答案用紙の⑨を②は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	①	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	●	
	②	●	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

答案用紙②の場合、

103	①	②
	①	●
	②	①
	③	②
	④	③
	⑤	④
	⑥	⑤
	⑦	⑥
	⑧	⑦
	⑨	⑧
	●	⑨



119A7

一般

□□□□

潰瘍性大腸炎に特徴的な所見はどれか。

- a 敷石像                      b 縦走潰瘍                      c 全層性炎症  
d 難治性痔瘻                      e 連続性病変

119A8

一般

□□□□

尿路結石症の予防で正しいのはどれか。

- a 低カルシウム食が推奨される。  
b 予防法は結石成分によらず同じである。  
c 野菜と果実の摂取量を制限することが推奨される。  
d 食事によるナトリウム摂取量を制限する必要はない。  
e 1日尿量が2,000mL以上となるように水分摂取が推奨される。

119A9

一般

□□□□

肩関節脱臼で正しいのはどれか。

- a 横隔神経麻痺の合併が多い。                      b 肩関節周囲炎の原因となる。  
c 後方に脱臼することが多い。                      d 再脱臼は若年者で生じやすい。  
e 肩関節内転位で脱臼することが多い。

119A10

一般

□□□□

薬剤と尿細管作用部位の組合せで正しいのはどれか。

- a SGLT2阻害薬 ————— 近位尿細管  
b 抗アルドステロン薬 ————— Henleの上行脚  
c サイアザイド系利尿薬 ————— 集合管  
d バソプレシンV2受容体拮抗薬 ————— 遠位尿細管  
e ループ利尿薬 ————— Henleの下行脚

119A11

一般

□□□□

妊娠7週の腹腔鏡所見（別冊No.1）を別に示す。

この疾患と最も関係がある病原体はどれか。

- a *Chlamydia pneumoniae*    b *Chlamydia trachomatis*    c *Gardnerella vaginalis*  
d *Treponema pallidum*        e *Trichomonas vaginalis*

別 冊  
No. 1

119A12

一般

□□□□□

随時血糖250mg/dLを示す非妊娠者で糖尿病の診断基準を満たすのはどれか。2つ選べ。

- a 尿糖陽性                      b 尿蛋白陽性                      c HbA1c 6.7%  
d 尿ケトン体陽性              e 口渇, 多飲, 多尿の症状

119A13

一般

□□□□□

Brugada 症候群における突然死のリスクファクターはどれか。2つ選べ。

- a 喫煙歴：あり                      b 既往歴：糖尿病  
c 既往歴：原因不明の失神あり      d 家族歴：父親が43歳で突然死  
e アレルギー歴：抗菌薬でアレルギーあり

119A14

一般

□□□□□

65歳以上で定期接種の対象となるワクチンはどれか。2つ選べ。

- a 風疹ワクチン                      b B型肝炎ワクチン                      c 髄膜炎菌ワクチン  
d 肺炎球菌ワクチン              e インフルエンザワクチン

119A15

臨床

□□□□□

58歳の男性。自宅近くの医療機関で頭部CT異常を指摘され来院した。6ヵ月前から頭痛が出現した。意識は清明。身長168cm、体重60kg。脈拍64/分、整。血圧110/80mmHg。視力、視野に異常を認めない。頭部単純MRIのT1強調冠状断像(別冊No.2A)とT2強調矢状断像(別冊No.2B)を別に示す。

次に行うべき検査はどれか。

- a 内分泌検査                      b 徒手筋力検査                      c 認知機能検査  
d 腹部CT検査                      e 脳脊髄液検査

別冊  
No. 2 A,B

119A16

臨床

□□□□□

10歳の女子。感冒時に行われた血液検査で肝障害を指摘され紹介受診した。自覚症状はない。身長137cm, 体重36kg。体温36.8℃。脈拍76/分, 整。血圧104/70mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸部リンパ節を触知しない。腹部は平坦, 軟で, 右肋骨弓下に肝を1cm触知する。脾は触知しない。尿所見: 蛋白(-), 糖(-), 潜血(-)。尿中Cu排泄量200  $\mu$ g/日(基準80未満)。血液所見: 赤血球409万, Hb 12.1g/dL, 白血球8,100, 血小板33万。血液生化学所見: AST 156U/L, ALT 245U/L, LD 308U/L(基準145~270), Cu 25  $\mu$ g/dL(基準68~128), セルロプラスミン12mg/dL(基準21~37)。免疫血清学所見: CRP 0.1mg/dL, HBs抗原陰性, HCV抗体陰性, 抗EBV VCA IgM抗体陰性, 抗EBV VCA IgG抗体陰性。

この疾患でみられる所見はどれか。

- a 円錐角膜                      b 視神経萎縮                      c 水晶体混濁  
d Kayser-Fleischer 輪            e 桜実紅斑 (cherry red spot)

119A17

臨床

□□□□□

14歳の女子。卵巣腫瘍に対する治療後の検査結果と今後の方針について説明を受けるため両親とともに来院した。約3ヵ月前に右卵黄嚢腫瘍の診断で, 右付属器摘出術と大網切除術を実施した。その後, シスプラチン, エトポシド, ブレオマイシン併用の化学療法を3週ごとに4回施行した。 $\alpha$ -フェトプロテイン (AFP) は術前28,500ng/mL(基準20以下)から化学療法後10ng/mLまで低下し, 造影CTを含む全ての検査結果で異常を認めず, 寛解の判定となった。最終月経は8週間前で, その後再開していない。

今後, 定期診察時に毎回行うのが適切でないのはどれか。

- a 腹部触診                      b 月経の聴取                      c 腹部造影CT  
d 腹部超音波検査              e 腫瘍マーカー測定

119A18

臨床

□□□□□

57歳の男性。1ヵ月前からの両側耳閉感を主訴に来院した。右鼻腔ファイバースコープ像(別冊No.3A)と頭頸部造影CT(別冊No.3B)を別に示す。組織生検の結果は扁平上皮癌であった。

この疾患で正しいのはどれか。

- a 転移を伴うことは少ない。                      b EBウイルスが原因となる。  
c 欧米では高頻度にみられる。                      d 急性中耳炎を併発しやすい。  
e 早期癌で見つかることが多い。

別 冊  
No. 3 A,B

119A19

臨床

□□□□□

52歳の女性。健康診断の胸部X線写真で異常を指摘され来院した。3ヵ月前から咳嗽が出現していたが医療機関を受診していなかった。既往歴に特記すべきことはない。職業は小学校教員。胸部単純CTで右肺上葉に気管支拡張病変と空洞を認めた。患者は喀痰検体を提出し帰宅した。同日の夕方、細菌検査室から喀痰抗酸菌染色が陽性であると医師に報告があった。

この時点で医師が行う対応で正しいのはどれか。

- a 勤務先に連絡する。      b 保健所に報告する。      c 抗結核薬を投与する。  
d 自宅待機を指示する。      e 患者にN95マスクを着用させる。

119A20

臨床

□□□□□

54歳の男性。痒痒を伴う体幹と四肢の皮疹とを主訴に来院した。20年前から頭痛に対してNSAIDを頓用している。2年前から6ヵ月に1回程度、同様の皮疹が同じ部位に生じ、約2週間で自然消褪して、色素沈着が残るようになった。3日前にNSAIDを内服後、いつもと同じ部位に皮疹が出現した。薬剤リンパ球刺激試験でNSAIDは陽性であった。体幹の写真(別冊No.4)を別に示す。診断はどれか。

- a 固定薬疹                      b 尋常性乾癬                      c 薬剤性過敏症症候群  
d Gibertばら色秕糠疹      e Stevens-Johnson症候群

別 冊  
No. 4

119A21

臨床

□□□□□

38歳の女性。尿検査の異常を指摘され来院した。3年前に2型糖尿病と診断され、自宅近くの医療機関にて内服治療中である。糖尿病網膜症はない。2年前に尿潜血陽性を指摘された。3ヵ月前から尿蛋白も認め、精査のため紹介受診した。身長152cm、体重76kg。血圧124/70mmHg。口蓋扁桃に腫大を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿に圧痕性浮腫を認めない。尿所見：蛋白2+、潜血2+、尿蛋白/Cr比1.8g/gCr、尿沈渣に赤血球20～29/HPF。血液所見：赤血球383万、Hb 11.6g/dL、Ht 36%、白血球7,300、血小板25万。血液生化学所見：総蛋白7.0g/dL、アルブミン4.0g/dL、AST 24U/L、ALT 30U/L、LD 155U/L(基準124～222)、 $\gamma$ -GT 20U/L(基準9～32)、尿素窒素16mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、尿酸5.7mg/dL、血糖98mg/dL、HbA1c 6.1% (基準4.9～6.0)、総コレステロール170mg/dL、トリグリセリド97mg/dL、Na 142mEq/L、K 4.0mEq/L、Cl 107mEq/L。免疫血清学所見：CRP 0.1mg/dL、抗核抗体陰性、血清補体値(CH<sub>50</sub>) 35U/mL(基準30～40)。腎生検のPAS染色標本(別冊No.5)を別に示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a IgA腎症                      b 糖尿病腎症                      c 急性間質性腎炎  
d 巣状分節性糸球体腎炎      e 膜性増殖性糸球体腎炎

別 冊  
No. 5



119A24

臨床

□□□□□

20歳の女性。痒痒を伴う体幹と四肢の皮疹を主訴に来院した。全身に皮疹が出現し、痒痒で夜も眠れていない。既往歴にアレルギー性鼻炎がある。エビ、豚肉、卵および牛乳のアレルギーがある。乳児期から痒痒を伴う皮疹が左右対称性に生じ、消長を繰り返している。小児期は頭部および顔面に紅斑、鱗屑および漿液性丘疹を生じていた。学童期は肘窩や膝窩などに掻破痕を伴う苔癬化局面を形成した。弟に同様の皮膚症状がある。掻破による痒疹と苔癬化局面が全身に多発している。背部の皮疹の写真(別冊No.8)を別に示す。血液所見：赤血球468万、Hb 13.9g/dL、Ht 42%、白血球11,300(桿状核好中球10%、分葉核好中球52%、好酸球17%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球14%)、血小板45万。血液生化学所見：LD 276U/L(基準124~222)。免疫血清学所見：CRP 0.3mg/dL、IgE 13,384IU/mL(基準170以下)。病変部の病理検査で表皮内に異型リンパ球の浸潤を認めない。

皮膚症状に対する適切な治療はどれか。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| a 抗菌薬内服       | b コルヒチン内服     |
| c 活性型ビタミンD3外用 | d 抗ロイコトリエン薬内服 |
| e 副腎皮質ステロイド外用 |               |

別冊  
No. 8

119A25

臨床

□□□□□

日齢20の男児。哺乳量の低下と発熱とを主訴に母親に連れられて来院した。在胎39週3日、体重3,120gで出生した。昨日から哺乳量の低下があり、本日38.6℃の発熱を認めた。顔色不良で大泉門は膨隆し、易刺激性があった。血液所見：赤血球412万、Hb 12.1g/dL、Ht 36%、白血球25,000(桿状核好中球15%、分葉核好中球65%、単球10%、リンパ球10%)、血小板15万。血液生化学所見：血糖98mg/dL、Na 136mEq/L、K 4.5mEq/L、Cl 100mEq/L。CRP 13.8mg/dL。脳脊髄液所見：細胞数4,200/mm<sup>3</sup>(基準0~2)(単核球22%、多形核球78%)、蛋白80mg/dL(基準15~45)、糖5mg/dL(基準50~75)。

原因菌で考えられるのはどれか。

- |                                   |   |                                 |
|-----------------------------------|---|---------------------------------|
| a <i>Haemophilus influenzae</i>   | b <i>Neisseria meningitidis</i>         | c <i>Pseudomonas aeruginosa</i> |
| d <i>Streptococcus pneumoniae</i> | e <i>Streptococcus agalactiae</i> (GBS) |                                 |

119A26

臨床

□□□□□

60歳の女性。心窩部痛を主訴に来院した。昨夜、大量飲酒後に激しい心窩部痛があり、軽快しないため受診した。生来健康である。飲酒は焼酎4合/日を30年間。意識は清明。体温37.2℃。脈拍100/分、整。血圧160/92mmHg。呼吸数20/分。腸雑音は減弱している。心窩部に圧痛を認めるが反跳痛や筋性防御を認めない。血液所見：赤血球420万、Hb 12.2g/dL、Ht 38%、白血球12,800、血小板22万。血液生化学所見：総蛋白6.8g/dL、アルブミン4.2g/dL、総ビリルビン1.0mg/dL、直接ビリルビン0.4mg/dL、AST 40U/L、ALT 62U/L、LD 240U/L (基準124～222)、アミラーゼ2,048U/L (基準44～132)、尿素窒素22mg/dL、クレアチニン1.1mg/dL、Na 136mEq/L、K 4.0mEq/L、Cl 104mEq/L。CRP 1.6mg/dL。

この患者で重症度判定に必要な画像検査はどれか。

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| a 腹部造影CT              | b 腹部超音波検査          |
| c 超音波内視鏡検査            | d 磁気共鳴胆管膵管撮影〈MRCP〉 |
| e 内視鏡的逆行性胆管膵管造影〈ERCP〉 |                    |

119A27

臨床

□□□□□

45歳の男性。飲酒の量が多いのではないかと心配した妻に連れられて来院した。初回飲酒は20歳、次第に飲酒回数と量が増え、30歳ごろから連日飲酒するようになった。最近数ヵ月間の飲酒量は、日本酒1升/日で会社に行くことができなくなっていたという。診察時、アルコール臭が強く意識がもうろうとしている。身長175cm、体重58kg。脈拍80/分、整。血圧140/82mmHg。眼球運動障害と失調性歩行を認める。血液所見：赤血球368万、Hb 10.9g/dL、Ht 37%、白血球3,800、血小板11万。血液生化学所見：総蛋白5.5g/dL、アルブミン2.9g/dL、総ビリルビン1.2mg/dL、直接ビリルビン0.6mg/dL、AST 88U/L、ALT 76U/L、LD 177U/L (基準124～222)、ALP 103U/L (基準38～113)、 $\gamma$ -GT 302U/L (基準13～64)、アミラーゼ135U/L (基準44～132)、CK 342U/L (基準59～248)、アンモニア40  $\mu$ g/dL (基準18～48)、尿素窒素12mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、尿酸10.9mg/dL、血糖88mg/dL、HbA1c 6.1% (基準4.9～6.0)、Na 131mEq/L、K 4.4mEq/L、Cl 97mEq/L。

追加の血液検査結果を待たずに、この患者に投与すべきなのはどれか。

- |      |      |      |         |          |
|------|------|------|---------|----------|
| a 亜鉛 | b 鉄剤 | c 葉酸 | d ビタミンD | e ビタミンB1 |
|------|------|------|---------|----------|

119A28

臨床

□□□□□

70歳の男性。発熱と喀痰を主訴に来院した。7日前に発熱が出現し、自宅近くの診療所を受診したところインフルエンザと診断された。治療によって一旦は解熱したが、昨日から再び発熱したため受診した。既往歴に糖尿病がある。意識は清明。体温38.9℃。脈拍120/分、整。血圧90/62mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub> 92% (room air)。呼吸音は胸部全体でcoarse cracklesを聴取する。血液所見：赤血球466万、Hb 13.9g/dL、Ht 47%、白血球19,300 (桿状核好中球5%、分葉核好中球83%、好酸球1%、好塩基球0%、単球1%、リンパ球10%)、血小板26万。血液生化学所見：血糖180mg/dL、HbA1c 8.2% (基準4.9～6.0)。CRP 15mg/dL。胸部単純CT (別冊No.9A)と喀痰Gram染色標本 (別冊No.9B)を別に示す。血液培養検査でも同じ微生物が検出された。

原因微生物はどれか。

- a *Candida albicans*                      b *Legionella pneumophila*                      c *Mycoplasma pneumoniae*  
d *Pseudomonas aeruginosa*                      e *Staphylococcus aureus*

別冊  
No. 9 A,B

119A29

臨床

□□□□□

生後18時間の男児。呼吸心拍モニターのアラームが鳴ったため、診察している。在胎31週、体重1,600g、Apgarスコア7点(1分)、9点(5分)で出生した。早産と低出生体重児のためNICUに入院した。生後18時間ごろに呼吸心拍モニターのアラームが1～2分鳴ったが自然に改善した。診察中、呼吸心拍モニターのアラームは鳴っていない。体温37.0℃。心拍数140/分、整。血圧70/40mmHg。呼吸数50/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。皮膚は赤く、チアノーゼは認めない。大泉門は開大している。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。アラームが鳴っていた時の心拍数、SpO<sub>2</sub>および胸郭の動きを記録した呼吸心拍モニター画面 (別冊No.10)を別に示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a Fallot四徴症                      b 一過性多呼吸                      c II度房室ブロック  
d 未熟児無呼吸発作                      e Wilson-Mikity症候群

別冊  
No. 10

119A30

臨床

□□□□□

64歳の女性。空腹時の動悸と発汗を主訴に来院した。1ヵ月前から、朝食後に外出すると、昼食前に空腹感とともに動悸、発汗および手指振戦を自覚している。これらの症状は甘いものを摂取すると改善する。既往歴に脂質異常症、耐糖能異常、慢性甲状腺炎および胆石症があり、脂質異常症に対してスタチンを内服している。身長156cm、体重62kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧142/88mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。甲状腺を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液生化学所見：AST 28U/L、ALT 32U/L、 $\gamma$ -GT 72U/L（基準9～32）、血糖110mg/dL、HbA1c 6.1%（基準4.9～6.0）、総コレステロール182mg/dL、トリグリセリド180mg/dL、HDLコレステロール38mg/dL、TSH 1.2  $\mu$ U/mL（基準0.2～4.0）、FT<sub>4</sub> 1.4ng/dL（基準0.8～2.2）。

症状の原因と関連するのはどれか。

- a 高血圧症                      b 更年期障害                      c 血糖値の異常  
d スタチン内服                      e 慢性甲状腺炎

119A31

臨床

□□□□□

80歳の男性。胸痛を主訴に救急車で搬入された。2週間前から階段昇降で胸部絞扼感が出現していたが、3分程度の安静で改善していた。1週間前からは平地歩行でも階段昇降と同じ強度の胸部絞扼感が出現するようになった。本日は朝食後に冷汗を伴う強い胸痛を自覚し、自宅近くの診療所を受診した。12誘導心電図でST低下を指摘され、当院に救急車で搬入された。胸部症状は持続しており、12誘導心電図でST低下が持続している。糖尿病、高血圧および脂質異常症でかかりつけ医に通院中である。喫煙は20本/日を50年間。身長162cm、体重60kg。心拍数76/分、整。血圧140/60mmHg。血液所見：赤血球465万、Hb 13.3g/dL、Ht 42%、白血球9,600、血小板23万。血液生化学所見：CK 300U/L（基準59～248）、クレアチニン0.8mg/dL、空腹時血糖141mg/dL、HbA1c 7.4%（基準4.9～6.0）、トリグリセリド145mg/dL、LDLコレステロール141mg/dL。心筋トロポニンT迅速検査陽性。

この患者に対する検査で適切なものはどれか。

- a 運動負荷心電図検査      b 冠動脈CT                      c 心臓MRI  
d 心臓カテーテル検査      e 薬物負荷心筋血流シンチグラフィ

119A32

臨床

□□□□□

78歳の男性。頸部リンパ節腫大を主訴に来院した。頸部リンパ節生検の結果、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫と診断された。血液所見：赤血球470万、Hb 14.1g/dL、Ht 44%、白血球6,800（分葉核好中球52%、好酸球1%、好塩基球0%、単球6%、リンパ球41%）、血小板27万。血液生化学所見：総蛋白6.9g/dL、アルブミン3.8g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、直接ビリルビン0.2mg/dL、AST 28U/L、ALT 16U/L、LD 243U/L（基準124～222）。免疫血清学的所見：CRP 0.8mg/dL、HBs抗原陰性、HBc抗体陽性、HBs抗体陽性、HCV抗体陰性。

リンパ腫の治療前に追加して測定すべき検査項目はどれか。

- a HBc抗原                      b HBe抗原                      c HBe抗体  
d HBV-DNA 定量                      e HCV-RNA 定量

119A33

臨床

□□□□□

75歳の男性。嘔吐を主訴に来院した。3日前から排便と排ガスがなく、徐々に腹部膨満感が出現してきた。今朝から水分もとれず、便臭を伴う嘔吐をしたため救急外来を受診した。意識は清明。体温36.9℃。脈拍112/分、整。血圧150/80mmHg。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。眼瞼結膜は軽度貧血様である。腹部膨満を認める。腹部全体に圧痛は認めるが、反跳痛や筋性防御は認めない。血液所見：赤血球320万、Hb 9.0g/dL、Ht 30%、白血球9,800、血小板25万。血液生化学所見：アルブミン2.9g/dL、AST 25U/L、ALT 15U/L、尿素窒素25mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL。CRP 3.5mg/dL。腹部X線写真(別冊No.11)を別に示す。

次に行うのはどれか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| a FDG-PET    | b 腹部MRI      |
| c 腹部造影CT     | d 上部消化管内視鏡検査 |
| e 下部消化管内視鏡検査 |              |

別冊  
No. 11

119A34

臨床

□□□□□

65歳の男性。血痰を主訴に来院した。2年前から労作時の息苦しさや咳嗽とを自覚していたがそのままにしていた。数日前から痰に少量の血液が混じるようになったため受診した。喫煙は20本/日を45年間。意識は清明。身長172cm、体重43kg。体温37.2℃。脈拍96/分、整。血圧124/68mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 93% (room air)。心音に異常を認めず、呼吸音は右胸部にcoarse cracklesを聴取する。血液所見：赤血球468万、Hb 12.2g/dL、Ht 37%、白血球12,300(桿状核好中球10%、分葉核好中球64%、好酸球1%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球18%)、血小板34万。免疫血清学所見：CRP 3.2mg/dL、 $\beta$ -D-グルカン35pg/mL(基準10以下)。喀痰の抗酸菌塗抹検査は陰性。Sabouraud寒天培地では糸状菌が検出された。胸部単純CT(別冊No.12)を別に示す。

診断はどれか。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| a カンジダ症         | b アスペルギルス症   |
| c クリプトコックス症     | d ニューモシスチス肺炎 |
| e アレルギー性気管支肺真菌症 |              |

別冊  
No. 12

119A35

臨床

□□□□

48歳の女性。息切れを主訴に来院した。6ヵ月前から労作時の息切れを自覚するようになり徐々に悪化してきた。最近では軽労作でも息切れが激しく、さらに動悸も自覚するようになったため受診した。7歳時に発熱と関節痛が続き小学校を長期間欠席した。その際に輪のような形の赤い皮疹が出現したことを記憶している。5年前に子宮体癌の手術歴がある。数日前から、う歯治療を実施している。喫煙は20歳から10本/日を5年間、以後は禁煙している。飲酒は機会飲酒。父は80歳時に急性心筋梗塞で死亡。母は78歳時に脳梗塞で死亡。意識は清明。体温36.2℃。脈拍92/分、不整。血圧124/82mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 95% (room air)。軽度の頸静脈の怒張を認める。心音はI音が亢進し、心尖部で拡張中期ランブルを聴取する。両肺にcoarse cracklesを聴取する。両下肢に軽度の浮腫を認める。血液所見：赤血球460万、Hb 13.3g/dL、Ht 42%、白血球12,800、血小板21万。血液生化学所見：CK 61U/L (基準41～153)、尿素窒素12mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、BNP 189pg/mL (基準18.4以下)、CRP 0.1mg/dL。経胸壁心エコー検査の傍胸骨長軸像(別冊No.13)を別に示す。

この患者の疾患の発症に関与している病歴はどれか。

- a 7歳時の発熱                      b 5年前の子宮体癌                      c 数日前のう歯治療  
d 過去の喫煙歴                      e 父親の心筋梗塞

別 冊  
No. 13

119A36

臨床

□□□□

日齢12の女児。新生児マスキリングで異常を認めため、両親に連れられて来院した。在胎41週、体重3,275g、Apgarスコア9点(1分)、9点(5分)で出生した。完全母乳栄養である。3日前から哺乳力が低下し、排便は2日に1回の黄色顆粒便である。来院時は活気がなく、泣き声は微弱であった。身長52cm、体重3,312g。体温36.4℃。脈拍144/分、整。血圧88/42mmHg。呼吸数48/分。SpO<sub>2</sub> 97% (room air)。毛細血管再充満時間2秒。皮膚は乾燥しており、黄染を認める。大泉門は径1.5cmでやや陥凹しており、小泉門は開大している。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。臍ヘルニアを認める。腸雑音に異常を認めない。

診断のために行うX線撮影の部位はどれか。

- a 頭蓋骨                      b 肋骨                      c 手根骨                      d 腰椎                      e 大腿骨遠位端

119A37

臨床

□□□□□

67歳の男性。労作時の息切れを主訴に来院した。1週間前から労作時の息切れ、右頸部から顔面の腫脹が出現したため自宅近くの診療所を受診した。胸部X線写真で右肺野に異常陰影を指摘されたため紹介受診した。胸痛や腹痛はない。意識は清明。身長168cm、体重69kg。体温36.5℃。脈拍84/分、整。血圧138/78mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。頸静脈の怒張を認める。両側鎖骨上窩に径1～2cmのリンパ節を複数触知する。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見に異常を認めない。血液生化学所見で、腎機能と肝機能に異常を認めない。ProGRP 124pg/mL (基準81以下)。胸部X線写真 (別冊No.14A) と胸部単純CT (別冊No.14B) とを別に示す。FDG-PETを施行し、右縦隔・肺門リンパ節と一塊となった腫瘍、多発肺転移および多発肝転移を認めた。気管支鏡検査を施行し腫瘍からの穿刺細胞診で小細胞肺癌と診断された。

今後の対応で次に行うべきなのはどれか。

- a 手術による腫瘍減量
- b 薬物による抗癌治療
- c 肝転移への放射線治療
- d 肺癌遺伝子異常の検索
- e PD-L1蛋白質発現の検索

別冊  
No. 14 A,B

119A38

臨床

□□□□□

56歳の男性。吐血を主訴に夜間救急外来を受診した。夕食後から悪心が出現し、就寝前に暗赤色の吐血があり来院した。25年前に肝障害を指摘され、以後毎年の健康診断で指摘されているが、受診していなかった。喫煙歴はない。飲酒は日本酒4合/日を30年間。意識は清明。体温36.0℃。脈拍112/分、整。血圧80/50mmHg。眼瞼結膜に貧血を認める。眼球結膜に黄染を認めない。口腔内は乾燥している。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。左肋骨弓下に脾を2cm触知する。腸雑音に異常を認めない。血液所見：赤血球274万、Hb 7.8g/dL、Ht 28%、白血球9,200、血小板7.2万。緊急上部消化管内視鏡の食道像 (別冊No.15) を別に示す。

適切な治療はどれか。

- a 開腹止血術
- b クリッピング
- c ステント留置術
- d 内視鏡的結紮術
- e バルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術 (BRTO)

別冊  
No. 15



119A42

臨床

□□□□□

25歳の男性。排尿時痛を主訴に来院した。昨日から強い排尿時痛と尿道口に膿性分泌物を認めるため受診した。定期的に性交渉を行うパートナーがいる。尿所見：蛋白(-)，糖(-)，沈渣に赤血球1～4/HPF，白血球100以上/HPF。Gram染色の鏡検でGram陰性双球菌を認める。

この疾患で正しいのはどれか。

- a 潜伏期間は2～3週間である。                      b パートナーの治療は不要である。  
c 1回感染すると終生免疫を獲得する。              d ニューキノロン系抗菌薬を投与する。  
e 確定診断には核酸増幅検査が用いられる。

119A43

臨床

□□□□□

8カ月の女児。発熱と右下肢を動かさなくなったことを主訴に来院した。2日前から寝返りをしなくなり、おむつ交換の際に痛がるようになった。昨夜39.1℃の発熱があり、今朝から右下肢を動かさなくなったため受診した。身長67.5cm，体重8,100g。体温38.9℃。右下肢を他動的に動かすと痛み、啼泣する。赤沈42mm/1時間。血液所見：Hb 11.2g/dL，白血球18,500(桿状核好中球15%，分葉核好中球70%，好酸球1%，好塩基球1%，単球2%，リンパ球12%)，血小板37万。CRP 15mg/dL。股関節のX線写真(別冊No.16A)と股関節単純MRIの脂肪抑制T2強調冠状断像(別冊No.16B)とを別に示す。

行うべき対応はどれか。

- a 牽引治療                      b 切開排膿術                      c NSAID投与  
d 股関節ギプス固定              e グルココルチコイドの股関節内注入

別冊  
No. 16 A,B

119A44

臨床

□□□□

76歳の女性。息切れを主訴に救急車で搬入された。2日前から風邪気味で食欲が低下していた。夜間に座位で呼吸が苦しそうなところを家族が気づき、救急車を要請した。既往歴に高血圧症があり、降圧薬を服薬している。意識は清明。身長150cm、体重38kg。体温35.8℃。心拍数92/分、整。血圧164/92mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub> 95%（リザーバー付マスク10L/分 酸素投与下）。全身にるいそうを認める。眼瞼結膜に軽度の貧血を認める。頸静脈の怒張を認める。心音に異常は認めず、肺野背側下部にcoarse cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に冷感を認める。下肢に軽度の浮腫を認める。血液所見：赤血球415万、Hb 9.8g/dL、Ht 40%、白血球9,200、血小板15万。血液生化学所見：アルブミン2.8g/dL、総ビリルビン1.1mg/dL、AST 26U/L、ALT 30U/L、CK 82U/L（基準41～153）、尿素窒素18mg/dL、クレアチニン1.2mg/dL、血糖84mg/dL、HbA1c 6.2%（基準4.9～6.0）、Na 132mEq/L、K 4.0mEq/L、BNP 422pg/mL（基準18.4以下）。CRP 2.4mg/dL。心電図でI度房室ブロックを認める。胸部X線写真で心胸郭比56%、肺うっ血を認める。心エコー検査で、軽度の全周性の心肥大を認めるが、左室駆出率は65%と正常である。入院後、5日間で病状は落ち着いてきており、食事は摂取出来ている。体重36kg。脈拍60/分、整。血圧130/80mmHg。SpO<sub>2</sub> 97%（room air）である。

この患者に対する治療で適切なのはどれか。

- a 輸血                                      b 酸素療法                                      c β遮断薬の内服  
d 高カロリー輸液                              e 心臓リハビリテーション

119A45

臨床

□□□□

37歳の男性。人が変わったように多弁になっていることを心配した妻に付き添われて来院した。既往歴にてんかんがあるが、最後のけいれん発作は18歳で以降の服薬歴はない。15歳時、カルバマゼピンを服用してから2週間後に40℃の発熱、体表面の30%以上の紅斑とびらん、及び口腔内全体と陰部にびらんを生じ、服用を中止したことがある。26歳時にうつ状態となり精神科の通院歴がある。大学卒業後に現在の会社に就職し、業績を評価され1ヵ月前に課長に昇進した。その直後から、高級な服を複数新調し、次々と企画を立て、元々は無口であったが陽気に話し続けるようになった。意識は清明。身長172cm、体重54kg（1ヵ月前は57kg）。バイタルサイン、血液検査、生化学検査および甲状腺機能検査に異常を認めない。

治療薬はどれか。

- a ジアゼパム                                      b イミプラミン                                      c 炭酸リチウム  
d フェニトイン                                      e カルバマゼピン

119A46

臨床

□□□□□

48歳の女性。ふらつきと複視を主訴に来院した。10日前に38℃の発熱と咽頭痛が出現したため、自宅近くの診療所で総合感冒薬の処方を受け、7日前に症状が改善した。2日前からテレビの画面が二重に見えることに気付いた。昨日から歩行時にふらついて転びそうになることが増えてきたため受診した。意識は清明。体温36.5℃。脈拍68/分、整。血圧120/68mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経診察では、両眼とも垂直、水平方向の眼球運動制限を認め、正面視以外で複視を自覚する。眼振は認めない。四肢筋力は正常だが、四肢腱反射はすべて消失している。Babinski徴候は陰性。膝腫試験は両側とも拙劣で、歩行は可能だが歩隔は広く不安定である。感覚障害は認めない。尿所見と血液所見に異常を認めない。

この患者と同様の発症機序と考えられるのはどれか。

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| a 重症筋無力症         | b 多発性硬化症            |
| c 進行性核上性麻痺       | d Guillain-Barré症候群 |
| e 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉 |                     |

119A47

臨床

□□□□□

70歳の男性。全身倦怠感を主訴に来院した。2週間前から全身倦怠感が持続し、2日前に家族から顔色不良を指摘されたため受診した。眼瞼結膜は貧血様で、眼球結膜に黄染を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。皮膚に点状出血や皮疹を認めない。血液所見：赤血球170万、Hb 5.2g/dL、Ht 15%、網赤血球5%、白血球2,800（芽球0%、分葉核好中球30%、好酸球1%、単球2%、リンパ球67%）、血小板8.8万。血液生化学所見：総蛋白6.7g/dL、アルブミン3.6g/dL、総ビリルビン0.7mg/dL、AST 26U/L、ALT 22U/L、LD 140U/L（基準124～222）、尿素窒素14mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、Fe 80 μg/dL、総鉄結合能〈TIBC〉300 μg/dL（基準290～390）、フェリチン110ng/mL（基準20～120）、エリスロポエチン10mIU/mL（基準4.2～23.7）。骨髓は過形成で、骨髓塗抹標本での芽球割合は0.3%で3系統の造血細胞に異形成を高頻度に認めた。骨髓細胞の染色体は正常核型であった。

適切な治療はどれか。

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| a 血漿交換                 | b 赤血球輸血            |
| c グルココルチコイド投与          | d トロンボポエチン受容体作動薬投与 |
| e 顆粒球コロニー刺激因子〈G-CSF〉投与 |                    |

119A48

臨床

□□□□□

53歳の男性。肺癌の手術のため入院中である。3日前に右上葉肺癌に対して右肺上葉切除術を行った。術後、胸腔ドレーンからの空気漏れは認めず、昨日、胸腔ドレーンを抜去した。本日、排便時にいきんだところ、呼吸困難が出現した。体温36.6℃。脈拍80/分、整。血圧128/76mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 94% (room air)。胸部X線写真(別冊No.17)を別に示す。

この患者でみられる身体所見はどれか。

- a 動揺胸郭                      b 頸部の発赤                      c 腹部の圧痛  
d 右側胸部の熱感              e 右側胸部の握雪感

別冊  
No. 17

119A49

臨床

□□□□□

30歳の経産婦(2妊1産)。妊娠20週、妊婦健康診査のために来院した。妊娠初期の経陰超音波像(別冊No.18)を別に示す。妊娠17週で2児の羊水量に差を認めたため、それ以降週1回の外来通院で経過観察されていた。胎児超音波検査で、第1児に羊水過多と胎児水腫を認め、第2児に羊水過少を認めた。

この疾患の原因はどれか。

- a 骨髄              b 臍帯              c 子宮              d 胎盤              e 羊膜

別冊  
No. 18

119A50

臨床

□□□□□

63歳の男性。歩行時のふらつきを主訴に来院した。3年前から田んぼのあぜ道を歩くとふらついて転ぶことが多くなった。同時期から便秘と尿失禁がみられるようになった。徐々に歩行時のふらつきが悪化し、歩行器を使うようになった。最近、書字動作がしにくくなり、物が揺れて見えるようになった。既往歴に胃潰瘍がある。家族歴に特記すべきことはない。身長164cm、体重52kg。体温36.3℃。臥位での脈拍64/分、血圧124/62mmHg。立位直後の脈拍68/分、血圧82/50mmHg。胸部と腹部とに異常を認めない。頭部単純MRIのT2強調矢状断像(別冊No.19A)とT2強調水平断像(別冊No.19B)とを別に示す。

この患者で認めるのはどれか。

- a Romberg徴候                      b 動眼神経麻痺  
c 膝踵試験拙劣                      d 手袋靴下型温痛覚障害  
e 固定姿勢保持困難〈asterixis〉

別冊  
No. 19 A,B





119A55

臨床

□□□□□

72歳の女性(4妊2産)。多量の性器出血を主訴に救急車で搬入された。2年前から帯下の増量と不正性器出血を自覚していたが、家族には相談していなかった。3ヵ月前から、出血量が増え、めまいも出現した。今朝トイレで多量の性器出血があり、家族が救急車を要請した。意識は清明。身長152cm、体重48kg。体温37.8℃。心拍数100/分、整。血圧110/74mmHg。腔鏡診で子宮頸部に易出血性の腫瘍を認めた。内診では腫瘍の可動性は不良で、両側で骨盤壁に及ぶ子宮傍結合組織浸潤を認めた。血液所見：赤血球238万、Hb 6.9g/dL、Ht 28%、白血球10,300、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白5.9g/dL、アルブミン2.4g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、AST 30U/L、ALT 26U/L、LD 250U/L(基準124~222)、尿素窒素60mg/dL、クレアチニン2.8mg/dL、Na 138mEq/L、K 5.4mEq/L、Cl 105mEq/L、CEA 3.8ng/mL(基準5以下)、CA125 28U/mL(基準35以下)、SCC 9.8ng/mL(基準1.5以下)。CRP 5.7mg/dL。子宮頸部組織診で扁平上皮癌と診断された。胸腹部単純CTで子宮頸部に径5cmの腫瘍を認め、遠隔転移を認めない。

この患者にまず行うべき治療はどれか。

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| a 放射線治療         | b 血管新生阻害薬  |
| c 広汎子宮全摘出術      | d シスプラチン動注 |
| e 免疫チェックポイント阻害薬 |            |

119A56

臨床

□□□□□

56歳の女性。見当識障害を主訴に家族に付き添われて来院した。1週間前から37℃台の発熱が続く、昨日から自宅のトイレの場所が分からなくなった。下痢と血便はない。意識レベルはJCS I-2。体温37.8℃。脈拍88/分、整。血圧144/88mmHg。両下肢に点状出血を認める。眼瞼結膜は貧血様で、眼球結膜に軽度黄染を認める。胸骨左縁第3肋間を最強点とするLevine 2/6の収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。尿所見：蛋白2+、潜血2+。血液所見：赤血球230万、Hb 7.1g/dL、Ht 20%、網赤血球5%、白血球8,890、血小板2.1万。末梢血塗抹標本で破碎赤血球を認める。PT-INR 1.0(基準0.9~1.1)、APTT 27.6秒(基準対照32.2)、FDP 9 $\mu$ g/mL(基準10以下)。血液生化学所見：総ビリルビン2.9mg/dL、直接ビリルビン0.7mg/dL、AST 48U/L、ALT 42U/L、LD 1,025U/L(基準124~222)、尿素窒素50mg/dL、クレアチニン1.9mg/dL。CRP 0.8mg/dL。

直ちに行うべき治療はどれか。

- |          |                    |         |
|----------|--------------------|---------|
| a 血漿交換   | b 血小板輸血            | c 抗菌薬投与 |
| d ヘパリン投与 | e トロンボポエチン受容体作動薬投与 |         |



119A59

臨床

□□□□□

69歳の女性。2週間前に受けた人間ドックの腹部超音波検査で胆嚢の異常を指摘され精査目的で来院した。自覚症状はない。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。家族歴に特記すべきことはない。身長164cm、体重57kg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部に異常所見を認めない。血液所見：赤血球507万、Hb 14.7g/dL、Ht 45%、白血球6,180。血液生化学所見：総蛋白6.8g/dL、アルブミン3.9g/dL、総ビリルビン0.6mg/dL、AST 16U/L、ALT 14U/L、LD 160U/L (基準124～222)、ALP 61U/L (基準38～113)、 $\gamma$ -GT 17U/L (基準9～32)、アミラーゼ51U/L (基準44～132)、尿酸窒素12mg/dL、クレアチニン0.8mg/dL、CEA 2.5ng/mL (基準5以下)、CA19-9 28U/mL (基準37以下)。CRP 1.0mg/dL。腹部造影CTで胆嚢内に腫瘤があり、精査のために行った超音波内視鏡検査の胆嚢像(別冊No.24)を別に示す。

この患者に行う治療はどれか。

- a 胆嚢摘出術                      b 放射線治療                      c 利胆薬投与  
d 薬物による抗癌治療          e 超音波検査による経過観察

別冊  
No. 24

119A60

臨床

□□□□□

13歳の女子。右膝周囲の痛みを主訴に来院した。3ヵ月前から右膝周囲の痛みが出現し、痛みが増強したため受診した。外傷の既往はない。身長152cm、体重42kg。BMI 18.1。体温36.5℃。右大腿遠位に軽度の腫脹と圧痛を認める。赤沈12mm/1時間。血液所見：Hb 12.8g/dL、白血球8,200、血小板26万。CRP 0.3mg/dL。右大腿遠位のX線写真(別冊No.25)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 生検                                      b 切開排膿術                      c アスピリン投与  
d 観血的整復固定術                  e ギプスシーネ固定

別冊  
No. 25

119A61

臨床

□□□□□

16歳の男子。発熱と皮疹を主訴に来院した。幼少期からアトピー性皮膚炎で治療を受けていたが、3ヵ月前から治療を中断していた。2日前から39.9℃の発熱があり、顔面に皮疹が出現し体幹にも拡大したため受診した。疼痛はない。顔面と体幹に小水疱、びらん及び紅斑を両側性に認めた。顔面の写真(別冊No.26)を別に示す。

原因で最も考えられるのはどれか。

- a サイトメガロウイルス                      b 単純ヘルペスウイルス  
c 水痘・帯状疱疹ウイルス                  d ヒトヘルペスウイルス6  
e Epstein-Barr (EB) ウイルス

別冊  
No. 26



119A64

臨床

□□□□□

73歳の女性。左足趾の痛みを主訴に来院した。6ヵ月前から約500mの歩行で左ふくらはぎの痛みが出現し、数分の安静で症状は消失していた。かかりつけ医から抗血小板薬が処方されていたが、2ヵ月前の靴ずれを契機に左第五足趾に潰瘍ができ、安静時も痛みが出現したため受診した。高血圧、糖尿病および脂質異常症で55歳から内服治療中である。体温37.0℃。脈拍96/分、整。血圧140/90mmHg（左右差なし）。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub> 95%（room air）。心音と呼吸音とに異常を認めない。両側大腿動脈の触知は良好だが左膝窩動脈、後脛骨および足背動脈の触知は減弱している。下腿に触れると、右より左が冷たい。左第五足趾に潰瘍を認め、周囲は発赤を伴い、圧痛を認める。左第一足趾に壊死を認める。血液生化学所見：血糖123mg/dL、HbA1c 6.6%（基準4.9～6.0）、HDLコレステロール30mg/dL、LDLコレステロール141mg/dL。CRP 2.5mg/dL。下肢の動脈造影検査で、左浅大腿動脈の閉塞を認める。

この患者に考慮すべき治療で誤っているのはどれか。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| a 下肢切断術          | b β遮断薬の投与  |
| c 外科的バイパス術       | d 経皮的血管形成術 |
| e プロスタグランジン製剤の投与 |            |

119A65

臨床

□□□□□

救急外来で小児を診察した研修医から指導医への報告を以下に示す。

研修医：「1歳の男児です。3日前から37℃台の発熱、咳嗽、鼻汁が出現し、夜中に咳嗽が増強したため来院しました。身長80.0cm、体重11kg。体温37.8℃。脈拍124/分、整。血圧88/56mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub>がroom airで95%です」

指導医：「どんな感じの咳ですか」

研修医：「オットセイが鳴くような咳です」

指導医：「呼吸状態はどうですか」

研修医：「胸骨上窩、鎖骨上窩に陥没呼吸がみられます」

指導医：「胸部の聴診所見はどうですか」

研修医：「吸気時に喘鳴を聴取します」

指導医：「治療はどうしますか」

これに続く研修医の返答で適切なのはどれか。

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| a 「人工呼吸管理を行います」      | b 「β <sub>2</sub> 刺激薬吸入を行います」 |
| c 「アドレナリン吸入を行います」    | d 「抗ヒスタミン薬静注を行います」            |
| e 「副腎皮質ステロイド吸入を行います」 |                               |

119A66

臨床

□□□□□

38歳の初産婦(1妊0産)。妊娠35週5日、2時間前から痛みを伴う持続的な子宮収縮を自覚し、来院した。意識は清明。体温36.8℃。脈拍92/分、整。血圧148/92mmHg。呼吸数20/分。来院時の内診で子宮口は4cm開大、児頭下降度はSP-2cm、陰鏡診で少量の出血を認めた。腹部超音波検査では胎児は頭位、推定体重2,100gで胎盤の肥厚像を認めた。胎児心拍数陣痛図(別冊No.29)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 吸引分娩                      b 経過観察                      c 子宮収縮薬投与  
d 帝王切開                      e ベタメタゾン投与

別 冊  
No. 29

119A67

臨床

□□□□□

10ヶ月の男児。嘔吐と血便を主訴に救急車で搬入された。昨日の正午から嘔吐を認め、本日の午後4時から胆汁性嘔吐になった。次第に元気がなくなり、血便も出現したため午後6時に母親が救急車を要請した。意識は混濁し、痛み刺激で開眼する。体温38.7℃。心拍数192/分、整。血圧60/40mmHg。呼吸数44/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。皮膚ツルゴールの低下と口唇の乾燥を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は軽度膨隆し、全体に硬く、打診で鼓音を認める。血液所見：赤血球468万、Hb 12.9g/dL、Ht 40%、白血球20,300、血小板15万。CRP 8.3mg/dL。腹部X線写真(別冊No.30A)と腹部超音波像(別冊No.30B)とを別に示す。

適切な治療はどれか。

- a 経過観察                      b 抗菌薬投与                      c 高圧浣腸  
d イレウス管留置              e 緊急手術

別 冊  
No. 30 A,B

119A68

臨床

□□□□□

3歳の男児。言葉の遅れを心配した両親に連れられて来院した。有意語は2歳6ヶ月に出現したが、2語文はなく、独特の抑揚のある発語やオウム返しがみられるという。保育園では集団行動が苦手で、友達と一緒に遊ばない。いつもと異なる道で登園しようとするとかんしゃくを起こす。診察室では、視線が合いにくく、落ち着きなく歩き回り、診察に応じようとしなない。

診察時の適切な対応はどれか。

- a 押さえつけて診察する。                      b 自由に行動させて観察する。  
c 着席するよう厳しく指示する。              d しつけが悪いと両親を注意する。  
e 行動が落ち着いた時期の再受診を両親に指示する。

119A69

臨床

□□□□□

63歳の男性。眼瞼下垂を主訴に来院した。1ヵ月前から物が二重に見えることを自覚していた。夕方になると眼瞼下垂がみられる。その他に自覚症状はない。血中抗アセチルコリン受容体抗体が陽性であった。胸部単純CT(別冊No.31)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 抗癌化学療法
- b 定位放射線治療
- c 縦隔リンパ節生検
- d シクロスポリン投与
- e 胸腺腫を含む拡大胸腺摘出術

別冊  
No. 31

119A70

臨床

□□□□□

56歳の女性。労作時の息切れを主訴に来院した。6ヵ月前に右下肢に浮腫を自覚したがそのままにしていた。2ヵ月前から両下肢に浮腫が出現し、1週間前から、労作時の息切れが増強したため受診した。意識は清明。体温36.7℃。脈拍80/分、整。血圧146/92mmHg。呼吸数30/分。SpO<sub>2</sub> 95% (room air)。座位で頸静脈の怒張を下顎付近まで認める。心音はI音は正常、II音肺動脈成分の亢進、胸骨左縁第3肋間にLevine 2/6の収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肋骨弓下に肝を2cm触知する。脾は触知しない。両下肢に圧痕性浮腫を認める。血液所見：赤血球504万、Hb 15.1g/dL、Ht 46%、血小板13万、PT-INR 1.2(基準0.9~1.1)、Dダイマー10.3 μg/mL(基準1.0以下)。血液生化学所見：アルブミン4.1g/dL、総ビリルビン1.9mg/dL、AST 31U/L、ALT 11U/L、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、BNP 98pg/mL(基準18.4以下)。CRP 1.0mg/dL。心電図(別冊No.32A)と胸部X線写真(別冊No.32B)とを別に示す。心エコー検査で、左室駆出率は68%、三尖弁閉鎖不全を認め、推定肺動脈収縮期圧は60mmHgであった。

診断のために行う検査はどれか。2つ選べ。

- a 胸部造影CT
- b 気管支鏡検査
- c 冠動脈造影検査
- d 経食道心エコー検査
- e 肺血流シンチグラフィ

別冊  
No. 32 A,B

119A71

臨床

□□□□□

54歳の女性。右前額部から鼻背にかけての疼痛を伴う皮疹を主訴に来院した。2日前から右前額部のピリピリする疼痛を自覚していた。昨夜から、前額部から右上眼瞼および鼻背に水疱を伴う集簇した皮疹が出現した。

患者への説明で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 「眼科の受診が必要です」                      b 「水疱を破る必要があります」  
 c 「昔かかった麻疹によるものです」              d 「シャワーを浴びるのは控えましょう」  
 e 「皮疹から他人に感染する可能性があります」

119A72

臨床

□□□□□

64歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。3年前から労作時の呼吸困難が出現し自宅近くの診療所から吸入抗コリン薬を処方されている。1ヵ月前から呼吸困難が増強したため紹介受診した。吸入薬は医師の指示どおり吸入できている。職業は60歳まで公務員で以後は無職。喫煙は20歳から61歳まで20本/日。身長168cm、体重41kg。体温36.2℃。脈拍68/分、整。血圧146/78mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 94% (room air)。6分間歩行試験でSpO<sub>2</sub>の最低値は92% (room air)であった。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。甲状腺腫大を認めない。気管の短縮を認める。心音に異常を認めない。両側胸部で呼吸音の減弱を認める。下腿に浮腫を認めない。血液所見：赤血球524万、Hb 15.6g/dL、白血球7,800 (桿状核好中球10%、分葉核好中球50%、好酸球1%、単球9%、リンパ球30%)、血小板21万。血液生化学所見に異常を認めない。CRP 0.1mg/dL。動脈血ガス分析 (room air) : pH 7.41, PaCO<sub>2</sub> 42Torr, PaO<sub>2</sub> 88Torr, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 24mEq/L。呼吸機能検査：% VC 85%, FEV<sub>1</sub>% 50%。胸部X線写真で両側横隔膜の平底化および両肺の過膨張を認める。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬の投与                                      b 免疫抑制薬の投与  
 c 呼吸リハビリテーション                      d ネーザルハイフロー療法  
 e 長時間作用性β<sub>2</sub>刺激薬吸入の追加

119A73

臨床

□□□□□

52歳の女性。暗いところで見えにくいことを主訴に来院した。既往歴に特記すべきことはない。姉も同様の症状がある。視力は右0.3 (1.0× - 1.5D)、左0.2 (0.9× - 2.0D)。両眼の眼底写真(別冊No.33)を別に示す。

診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a 色覚検査                                      b 視野検査                                      c 調節検査  
 d 両眼視機能検査                              e 網膜電図検査 (ERG)

別冊  
No. 33





119

B

◎指示があるまで開かないこと。

(令和7年2月8日 13時35分～15時10分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題にはaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医師免許を付与するのはどれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

正解は「b」であるから答案用紙の**ⓑ**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 a b c d e



101 a b c d e

答案用紙②の場合、

101      101

a      a

b      b

c      → c

d      d

e      e

119B1

一般

□□□□

疾患とその俗称の組合せで正しいのはどれか。

- a 鶏 眼 ————— うおのめ
- b 色素性母斑 ————— とびひ
- c 水 痘 ————— みずいぼ
- d 麦粒腫 ————— そばかす
- e 風 疹 ————— はしか

119B2

一般

□□□□

根拠に基づいた医療〈EBM〉を実践する過程に含まれないのはどれか。

- a 患者への適用
- b 文献情報の収集
- c 文献の批判的吟味
- d 患者の問題の定式化
- e 個人の経験に依存した判断

119B3

一般

□□□□

在宅医療で正しいのはどれか。

- a 緩和ケアは在宅医療の中で実施できる。
- b 緊急時に行う在宅医療は訪問診療と呼ばれる。
- c 使用した注射針は一般廃棄物として処理する。
- d わが国では病院よりも在宅で死亡する場合が多い。
- e 訪問看護を利用する場合は介護保険よりも医療保険が優先される。

119B4

一般

□□□□

老人性難聴で正しいのはどれか。

- a 耳鳴は伴わないことが多い。
- b 聴力低下は高音から始まる。
- c 伝音難聴を示すことが多い。
- d 補聴器の使用は極力避ける。
- e 純音聴力検査で左右非対称性の難聴を示す。

119B5

一般

□□□□

都道府県が設置主体でないのはどれか。

- a 児童相談所
- b 医療安全支援センター
- c 精神保健福祉センター
- d 地域医療支援センター
- e 地域包括支援センター



119B11

一般

□□□□

毛細血管内血液の還元ヘモグロビン濃度が5g/dL以上になると出現し、皮膚や粘膜が暗紫色になるのはどれか。

- a 黄疸      b 紅斑      c 紫斑      d 網状皮斑      e チアノーゼ

119B12

一般

□□□□

思春期の脊柱側弯症の身体診察でみられないのはどれか。

- a 肋骨隆起      b 胸椎の叩打痛      c 片側肩甲骨の突出  
d 肩の高さの左右差      e ウエストラインの非対称

119B13

一般

□□□□

女子の思春期で正しいのはどれか。

- a 初経は排卵性の月経である。      b 思春期まで卵胞数は増加する。  
c 初経前にゴナドトロピンは低下する。      d 大量のエストロゲンは骨端線を閉鎖させる。  
e 二次性徴は陰毛発育、乳房発育、初経の順に進む。

119B14

一般

□□□□

在宅医療・介護のサービスで医師の指示が必要でないのはどれか。

- a 訪問介護      b 訪問看護      c 訪問栄養指導  
d 訪問薬剤管理指導      e 訪問リハビリテーション

119B15

一般

□□□□

消化管位置異常のない患者で上部内視鏡検査を開始する際にとらせる体位はどれか。

- a 右側臥位      b 起座位      c 仰臥位      d 碎石位      e 左側臥位

119B16

一般

□□□□

急性中耳炎の症状で緊急に画像検査が必要なのはどれか。

- a 耳痛      b 耳漏      c 頭痛      d 難聴      e 発熱

119B17

一般

□□□□

透析導入されていない保存期末期腎不全患者の食事療法で制限が必要ないのはどれか。

- a リン      b 食塩      c 蛋白質      d カリウム      e エネルギー

119B18

一般

□□□□□

動脈採血に最も適しているのはどれか。

- a 総頸動脈                      b 鎖骨下動脈                      c 尺骨動脈  
d 大腿動脈                      e 膝窩動脈

119B19

一般

□□□□□

めまいを呈する疾患とその特徴の組合せで誤っているのはどれか。

- a Ménière病 ————— 難 聴  
b 小脳梗塞 ————— 運動失調  
c 聴神経腫瘍 ————— 聴力低下  
d 脳幹出血 ————— 視力低下  
e パニック症 ————— 動 悸

119B20

一般

□□□□□

妊婦が胎動を感じ始める妊娠週数はどれか。

- a 4                      b 12                      c 20                      d 28                      e 36

119B21

一般

□□□□□

血中FSH 54mIU/mL (基準5.2～14.4), 血中エストラジオール10pg/mL (基準25～75) の場合, 続発性無月経の原因部位はどれか。

- a 視 床                      b 視床下部                      c 下垂体                      d 副 腎                      e 卵 巢

119B22

一般

□□□□□

個人情報の医療機関から第三者への提供で, 本人の同意が必要なのはどれか。

- a 患者の職場からの照会への回答  
b 調剤薬局からの疑義照会への回答  
c 健康保険の審査支払機関からの照会への回答  
d 市役所からの生活保護受給者に係る病状調査への回答  
e 医療事故発生時の医療事故調査・支援センターへの報告

119B23

一般

□□□□

乳児で緊急処置を要するバイタルサインはどれか。

- a 体温 ————— 38.0℃
- b 脈拍 ————— 52/分
- c 血圧 ————— 76/52mmHg
- d 呼吸数 ————— 36/分
- e SpO<sub>2</sub> ————— 96% (room air)

119B24

一般

□□□□

わが国で心臓死の後に移植で提供できる臓器はどれか。

- a 肺
- b 角膜
- c 肝臓
- d 小腸
- e 心臓

119B25

一般

□□□□

診療所長の医師が、実際には行っていない従業員への診療の報酬を繰り返し請求していたことが発覚した。厚生労働大臣はこの医師の保険医登録を取り消す処分を行った。

処分にあって最も問題とされたのはどれか。

- a 情報開示
- b 法の遵守
- c 労働者保護
- d 経営の健全性
- e 情報セキュリティ

119B26

臨床

□□□□

65歳の男性。糖尿病のため教育入院中である。医師が病棟の廊下を歩いているときに、病室内から大きな音が聞こえた。急いで病室へ駆けつけると、患者がベッドサイドに倒れており、呼びかけに対して反応がない。

まず行うべき対応はどれか。

- a 応援を呼ぶ。
- b 頸椎を固定する。
- c 胸骨圧迫を開始する。
- d 呼吸の有無を確認する。
- e 頸動脈の拍動を確認する。

119B27

臨床

□□□□

9カ月の男児。9～10カ月健康診査のために両親に連れられて来院した。在胎38週、体重2,890g、頭位自然分娩で出生した。身長72.2cm、体重8,520g。座位は安定しているが、①座った状態から立位への移行はできない。つかまり立ちはできるが、②独りで歩けない。小さな玩具をつまむことができるが、③積み木を積むことはできない。自分の手を見つめるが、④視線が合わない。「アー」「ウー」などの発声はあるが、⑤「ママ」「パパ」などの意味のある言葉は言わない。

下線部のうち、発達の遅れが考えられるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

119B28

臨床

□□□□□

78歳の男性。安静時の強い呼吸困難のため、家族とともに救急外来を受診した。呼吸困難のため本人からは病歴の情報を十分に得ることができない。家族によると、昨日から体動時の呼吸困難を訴えていた。慢性閉塞性肺疾患のため5年前から自宅近くの診療所で在宅酸素療法（1L/分）が導入され、来院時は、1L/分の酸素を吸入している。意識は清明。体温36.8℃。脈拍96/分、整。血圧130/80mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub> 87%（鼻カニューラ1L/分 酸素投与下）。体格はやせ型。吸気時に肥大した胸鎖乳突筋が特に目立ち、口すぼめ呼吸をし、喘鳴が著明である。動脈血ガス分析（鼻カニューラ1L/分 酸素投与下）：pH 7.35, PaCO<sub>2</sub> 55Torr, PaO<sub>2</sub> 50Torr, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 30mEq/L。

初期対応で適切な酸素投与方法はどれか。

- a リザーバー付マスク 15L/分
- b リザーバー付マスク 10L/分
- c 鼻カニューラ 5L/分
- d 鼻カニューラ 2L/分
- e 鼻カニューラ 0.5L/分

119B29

臨床

□□□□□

30歳の初妊婦（1妊0産）。市販の妊娠検査薬が陽性であったため来院した。2年前に糖尿病と診断され、1年前から自宅近くの診療所でインスリン治療を受けている。最終月経は7週間前。月経周期は28日型、整。尿所見：蛋白（-）、糖（-）、ケトン体（-）。血液生化学所見：血糖92mg/dL, HbA1c 6.0%（基準4.9～6.0）。経膈超音波検査で子宮内に頭殿長〈CRL〉2.0cmの心拍動を有する胎児を認めた。妊婦は糖尿病に伴う胎児形態異常を心配している。

この妊婦への説明で適切なのはどれか。

- a 「人工妊娠中絶を勧めます」
- b 「胎児の形態異常は超音波検査で分かります」
- c 「インスリンから経口糖尿病薬に変更しましょう」
- d 「75g経口ブドウ糖負荷試験で耐糖能の再評価をしましょう」
- e 「胎児形態異常のリスクは糖尿病ではない方とほとんど変わりません」

119B30

臨床

□□□□□

80歳の女性。意識障害のため救急車で搬入された。家族によると、1週間前に左大腿に痛みを訴え、市販の痛み止めの内服と湿布薬貼布で様子を見ていた。2日前の夜に39.0℃の発熱を認め、昨日悪寒が出現した。本日、呼吸が荒くなり、意識がもうろうとしてきたため家族が救急車を要請した。来院時、意識レベルはJCS II -30。不穏状態である。身長148cm、体重58kg。体温39.0℃。心拍数144/分、整。血圧70/40mmHg。呼吸数40/分。SpO<sub>2</sub> 94%（フェイスマスク6L/分 酸素投与下）。左大腿部が腫脹し、皮膚表面は硬く暗赤色である。血液所見：赤血球375万、Hb 11.8g/dL、Ht 35%、白血球3,000、血小板7.7万、PT-INR 1.3（基準0.9～1.1）。血液生化学所見：総蛋白5.1g/dL、アルブミン1.9g/dL、AST 47U/L、ALT 62U/L、LD 253U/L（基準124～222）、CK 58U/L（基準41～153）、尿素窒素32mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、Na 130mEq/L、K 3.9mEq/L。CRP 28mg/dL。動脈血ガス分析（フェイスマスク6L/分 酸素投与下）：pH 7.51、PaCO<sub>2</sub> 18Torr、PaO<sub>2</sub> 80Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 15mEq/L。心電図は洞調律。胸部X線写真に異常を認めない。大腿部単純CT（別冊No.36）を別に示す。

初期対応で適切でないのはどれか。

- a 胃管留置                      b 気管挿管                      c 赤血球輸血  
d 血液培養検査                  e 乳酸リンゲル液輸液

別冊  
No. 36

119B31

臨床

□□□□□

76歳の男性。高血糖高浸透圧症候群のため1週間前から入院中である。本日、訪室した際に、呼びかけに反応がなかった。糖尿病以外の既往歴はなく、入院時の血糖は785mg/dLであったが、大量輸液とインスリン皮下注射で改善していた。直近数日の血糖は100～150mg/dLであった。意識レベルはJCS III -100。体温36.2℃。心拍数108/分、整。血圧138/82mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 99%（room air）。瞳孔は左右対称で対光反射は正常。顔面神経麻痺を認めない。指示には従えないものの四肢を動かしており、明らかな麻痺は認めない。

まず行うべき検査はどれか。

- a 血糖測定                      b 脳波検査                      c 頭部単純CT  
d 脳脊髄液検査                  e 動脈血ガス分析

119B32

臨床

□□□□□

75歳の男性。下行結腸癌術後、肝転移のため在宅療養中である。3年前に下行結腸癌で手術を受けた。1年前に肝転移を診断されたが、薬物による抗癌治療は選択しなかった。1ヵ月前から食欲不振が出現し、在宅で1日1,500mLの維持輸液が開始された。その後徐々にベッド上で過ごすことが多くなり、2週間前から両下腿の浮腫が増悪している。最近では喀痰が増えてきて、心配した妻から主治医が相談を受けた。妻と2人暮らしで、患者本人と妻は自宅での療養の継続と自宅での看取りを希望している。身長165cm、体重52kg。体温36.2℃。脈拍92/分、整。血圧90/60mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。呼吸音は両側胸部で減弱しており、coarse cracklesと軽度のwheezesを聴取する。心窩部に径4cmの有痛性の腫瘤を触知する。両下腿に著明な浮腫を認める。まず行うのはどれか。

- a 酸素投与                      b 輸液の減量                      c 緊急血液透析  
d 薬物による抗癌治療        e 下大静脈フィルター留置術

119B33

臨床

□□□□□

70歳の男性。小規模の鉄工所に勤務している。勤務中に自分の不注意で機械に手を挟まれて、大きなけがを負ったため病院を受診した。勤務先の鉄工所は安全教育を定期的に行っていた。正しいのはどれか。

- a 全額自己負担となる。                      b 医療扶助の給付対象となる。  
c 健康保険の給付対象となる。              d 後期高齢者医療制度の給付対象となる。  
e 労働者災害補償保険の給付対象となる。

119B34

臨床

□□□□□

以下は、50歳の男性が、ある疾患で入院し、退院後に語った内容である。

「先日、ある病気になって入院したんです。2週間くらいだるさが続いたので、かかりつけの診療所を受診したら総合病院に紹介してくれました。総合病院を受診したら、すぐに入院するよう言われて。ちょっと風邪が長引いているのかな、くらいの軽い気持ちで受診したので、気が動転してしまって、何がなんだかかわからないまま入院になりました。入院後は、血液や尿の検査、CTなどの検査を受けて、診断がついて、点滴で治療を受けて良くなりました。適切な診断と治療をくださった医師や入院生活を支えてくださった医療スタッフの皆さんには感謝しています。

ただ、少し不満もあって、総合病院を受診したときに、医師の話がよく理解できなくて、状況のみ込めずに不安でした。入院という言葉で気が動転してしまった上に、医師が専門用語をたくさん使うので、頭が混乱してしまいました。医師には患者の心理状態や理解力にも気を配って欲しいと思いました。

あと、入院したことで仕事への心配もありました。総合病院では、まず病気を治すことが最優先だと言われ、仕事に関する相談にもあまり応じてもらえませんでした。適切に治療して下さって、今は元気になったので、贅沢な悩みかもしれませんが…」

この事例で、問題があった医療の質の要素はどれか。

- a 安全性              b 公平性              c 適時性              d 有効性              e 患者中心性

119B35

臨床

□□□□

A 25-year-old man presented with abdominal pain which started two days ago. Yesterday, the pain was periodic and located around the periumbilical area. Today, the pain is persistent and localized in the right lower abdomen. His body temperature is 37.7°C, pulse rate 90/min, blood pressure 120/62mmHg, and respiratory rate 16/min. Physical examination shows rebound tenderness at the right lower abdomen.

Which one of the following should be performed next?

- a Abdominal CT
- b Central venous (CV) catheterization
- c Gastrointestinal endoscopy
- d Magnetic resonance cholangiopancreatography (MRCP)
- e Nasogastric tube insertion

119B36

臨床

□□□□

82歳の女性。膵癌肝転移のため緩和ケア病棟に入院中である。1週間前から食欲が低下し、徐々に食事摂取量が減少している。体重の変化はない。意識は清明。身長150cm、体重36kg。体温36.2℃。脈拍80/分、整。血圧108/58mmHg。皮膚のツルゴールは低下している。口腔内の衛生状態は不良で、乾燥している。腹部は平坦、軟である。下腿に浮腫を認めない。血液所見：赤血球320万、Hb 9.2g/dL、Ht 30%、白血球8,200、血小板23万。血液生化学所見：総蛋白5.8g/dL、アルブミン2.8g/dL、AST 24U/L、ALT 28U/L、尿素窒素28mg/dL、クレアチニン1.0mg/dL。栄養サポートチーム〈NST〉に介入依頼を行うことになった。

この患者に対するNSTの活動で正しいのはどれか。

- a 胃瘻造設を提案する。
- b 口腔ケアの実施を提案する。
- c 緩和ケアチームとは独立して活動する。
- d 体重が4kg以上減少してから介入する。
- e 栄養療法の実施にあたり主治医の許諾は不要である。

119B37

臨床

□□□□

53歳の男性。突然生じた強い左背部痛を主訴に救急車で搬入された。2年前から痛風で尿酸排泄促進薬を内服している。身長175cm、体重91kg。体温36.0℃。心拍数76/分、整。血圧162/92mmHg。呼吸数16/分。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。左肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白1+、糖(-)、潜血3+、沈渣に赤血球多数/HPF、白血球1~5/HPF。腹部超音波検査で左水腎症を認める。腹部X線写真で異常を認めない。

次に行うべき検査はどれか。

- a FDG-PET
- b 膀胱鏡検査
- c 腹部単純CT
- d 膀胱造影検査
- e 腎シンチグラフィ

119B38

臨床

□□□□□

80歳の男性。誤嚥性肺炎のため入院中である。入院翌日から①食事が再開され、その後、肺炎は改善し、入院7日目の昨日、②末梢静脈ラインからの点滴治療が終了となった。患者のベッド周囲には③離床センサーが設置され、患者はトイレ歩行時にナースコールで看護師を呼び、④看護師見守りの下で、⑤スリッパを履き、トイレまで歩いている。

下線部のうち、この患者の転倒のリスクファクターはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

119B39

臨床

□□□□□

39歳の女性。乳癌のため入院中である。4年前に乳癌と診断され、骨転移と肺転移を認めている。呼吸困難のため1ヵ月前に入院となった。SpO<sub>2</sub> 92%前後（鼻カニューラ3L/分 酸素投与下）で推移している。癌性疼痛緩和目的でオピオイドを含む数種類の鎮痛薬を点滴で使用している。数ヵ月の余命と告知されている。本人は1ヵ月後に予定されている子供の卒業式に出席することを希望している。

この患者への対応で正しいのはどれか。

- a 家族の意向の確認は不要である。                      b 酸素投与中は出席を見合わせる。  
c 移動に消防署の救急車を依頼する。                      d 学校への連絡は方針確定後に行う。  
e 多職種の関係者で対応を検討する。

119B40

臨床

□□□□□

70歳の男性。労作時の息切れを主訴に来院した。2ヵ月前から咳嗽が持続している。2週間前からは労作時の息苦しさも出現してきたため受診した。体温36.4℃。脈拍72/分、整。血圧130/76mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。胸部X線写真で右上縦隔に腫瘤陰影を認め、気管を圧排し、気管内腔の狭窄を認める。肺野に異常は認めない。

胸骨右縁付近で予測される聴診所見はどれか。

- a 喘鳴                      b 水泡音                      c 捻髪音                      d 胸膜摩擦音                      e 呼吸音減弱

119B41～42

臨床

□□□□

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

48歳の男性。健康診断で脂質異常を指摘され来院した。研修医が診察を行った。

現病歴：2年前から脂質異常を指摘されていたが自覚症状はなくそのままにしていた。①この1年間で体重が5kg増加したこともあり受診した。

既往歴：5年前から高血圧症に対して治療中。

生活歴：②妻（アレルギー性鼻炎で治療中）、長男と3人暮らし。喫煙歴はない。③飲酒は機会飲酒。

家族歴：④父が45歳時に心筋梗塞で死亡。

現 症：意識は清明。身長173cm，体重81kg。体温36.2℃。脈拍80/分，整。血圧144/98mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦，軟で，肝・脾を触知しない。⑤アキレス腱の肥厚を認める。

検査所見：血液所見：赤血球489万，Hb 14.9g/dL，Ht 43%，白血球8,900，血小板23万。血液生化学所見：総蛋白7.1g/dL，アルブミン3.8g/dL，総ビリルビン1.1mg/dL，AST 37U/L，ALT 39U/L，LD 155U/L（基準124～222），CK 88U/L（基準59～248），尿素窒素14mg/dL，クレアチニン1.0mg/dL，尿酸7.8mg/dL，血糖90mg/dL，HbA1c 5.6%（基準4.9～6.0），トリグリセリド185mg/dL，HDLコレステロール30mg/dL，LDLコレステロール172mg/dL。CRP 0.3mg/dL。

B41 下線部のうち、診察した研修医が指導医へ報告する際に重要でないのはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

B42 生活習慣改善の必要性を説明したところ、患者から「来週から通勤時に歩こうと思います」と発言があった。

この言動の行動変容ステージはどれか。

- a 無関心期      b 関心期              c 準備期              d 実行期              e 維持期

119B43~44

臨床

□□□□□

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

54歳の男性。脳ドックで異常を指摘され来院した。

現病歴：自覚症状はなかったが、今回初めて脳ドックを受診した。

既往歴：健康診断で血圧が高いと指摘をされていたがそのままにしていた。

生活歴：喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。週末はジムに通っている。妻と2人の子供の4人暮らし。

家族歴：母が62歳時に大腸癌で手術を受けた。

現症：意識は清明。身長166cm、体重72kg。体温36.4℃。脈拍80/分、整。血圧140/80mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。左頸部に血管雑音を聴取する。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部に異常を認めない。神経診察で異常を認めない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球450万、Hb 16.2g/dL、Ht 50%、白血球4,600、血小板32万。血液生化学所見：総蛋白7.1g/dL、アルブミン3.6g/dL、総ビリルビン0.6mg/dL、AST 23U/L、ALT 12U/L、LD 184U/L (基準124~222)、尿素窒素20mg/dL、クレアチニン1.0mg/dL、尿酸6.8mg/dL、空腹時血糖105mg/dL、HbA1c 5.2% (基準4.9~6.0)、トリグリセリド140mg/dL、HDLコレステロール42mg/dL、LDLコレステロール196mg/dL、Na 140mEq/L、K 4.2mEq/L、Cl 103mEq/L、Ca 9.8mg/dL。CRP 0.1mg/dL。頭部単純MRIで明らかな異常を認めない。頸部MRA (別冊No.37) を別に示す。

B43 この患者で発症する可能性が最も高いのはどれか。

- a Parkinson病                      b 一過性脳虚血発作                      c 緊張型頭痛  
d くも膜下出血                      e 髄膜炎

B44 病状の進行に関わるリスクファクターのうち、この患者が有するのはどれか。

- a 飲酒                      b 運動不足                      c 家族歴                      d 脂質異常症                      e 糖尿病

別冊  
No. 37

119B45~46

臨床

□□□□□

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

70歳の女性。心窩部痛を主訴に来院した。

現病歴：1週間前から空腹時に軽度の心窩部痛を自覚していたが、昨日から増悪したため受診した。

悪心はなく、食欲は保たれている。その他の症状として、1ヵ月前から持続性の腰痛がある。

既往歴：10年前から高血圧症でカルシウム拮抗薬を服用している。

生活歴：喫煙歴はない。食生活や体重に変化はない。

現 症：意識は清明。身長154cm、体重55kg。体温36.0℃。脈拍96/分、整。血圧108/56mmHg。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。眼瞼結膜は貧血様である。眼球結膜に黄染を認めない。甲状腺と頸部リンパ節を触知しない。心基部にLevine 1/6の収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦。腸雑音に異常を認めない。心窩部に圧痛を認める。肝・脾を触知しない。

医療面接は以下のように続いた。

医師「①お酒は飲まれますか」

患者「全く飲みません」

医師「②便の色はどうですか」

患者「流してしまって見ていないです」

医師「③健康診断は受けていますか」

患者「受けていません」

医師「④血圧の薬以外に何か服用をされていますか」

患者「腰痛に対して1ヵ月前から市販の鎮痛薬を飲んでいます」

医師「⑤自分の病気についてどう考えていますか」

患者「父が胃癌で亡くなったので、自分も胃癌なのではないかと心配です」

B45 下線部のうち、解釈モデルを問う質問はどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

B46 この患者の直腸指診で得られる便の性状で可能性が高いのはどれか。

- a 脂肪便                  b 水様便                  c 粘血便                  d 灰白色便                  e タール便

119B47~48 臨床

□□□□□

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

52歳の男性。全身倦怠感と発汗を主訴に来院した。

現病歴：2週間前から全身倦怠感を自覚し、2日前に職場の近くの診療所で血液検査を受けた。アルコール性肝障害と診断され、入院治療のため紹介受診した。今朝から発汗を自覚している。診察室に入室後は、手が震えて問診票にうまく記入できなかったことを気にしている。

既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：職業は会社員。喫煙は昨年まで加熱式たばこを20本/日。飲酒は仕事帰りに居酒屋でビール中ジョッキ2~3杯/日、休日は自宅で350mLの缶チューハイを3~4本/日。最近ではアルコール度数の高いものを選んで買っていた。休日に朝から飲酒していることを妻から注意されたことがある。2日前に診療所を受診した後は禁酒している。

家族歴：特記すべきことはない。

現 症：意識は清明。身長172cm、体重73kg。体温36.8℃。脈拍108/分、整。血圧132/80mmHg。皮膚は軽度湿潤しているが皮疹などは認めない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、波動を認めない。肝・脾を触知しない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球452万、Hb 14.5g/dL、白血球8,600、血小板20万、PT-INR 1.0(基準0.9~1.1)。血液生化学所見：総蛋白7.2g/dL、アルブミン4.6g/dL、IgG 1,210mg/dL(基準861~1,747)、IgA 682mg/dL(基準93~393)、IgM 96mg/dL(基準33~183)、総ビリルビン0.8mg/dL、AST 482U/L、ALT 416U/L、ALP 198U/L(基準38~113)、 $\gamma$ -GT 682U/L(基準13~64)、尿素窒素16mg/dL、クレアチニン0.8mg/dL、尿酸6.4mg/dL、血糖110mg/dL、TSH 2.0  $\mu$ U/mL(基準0.2~4.0)、FT<sub>4</sub> 1.8ng/dL(基準0.8~2.2)。免疫血清学所見：HBs抗原陰性、HCV抗体陰性。腹部超音波検査で脂肪肝を認める。

B47 この患者に認められるのはどれか。

- a 黄疸      b 振戦      c 腹水      d 肝腫大      e 手掌紅斑

B48 アルコール性肝障害の診断で入院となった。

投与すべき薬剤はどれか。

- a 降圧薬                      b 血糖降下薬                      c 抗甲状腺薬  
d 尿酸降下薬                      e ベンゾジアゼピン系薬

119B49~50

臨床



次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

18歳の女子。昼夜逆転の生活が続いているため両親に連れられて来院した。

**現病歴：**幼少時に発達の遅れや偏りは指摘されていない。高校1年生までは成績優秀だったが、2年生のころから意欲や集中力が低下し、成績が落ちた。3年生から不登校となり、高校中退後は引きこもりがちな生活を送っている。両親によると最近、自室から独り言や笑い声が聞こえる。

**既往歴：**特記すべきことはない。

**生活歴：**両親と3人暮らし。喫煙歴と飲酒歴はない。

**家族歴：**父がうつ病。

**現 症：**意識は清明。身長164cm、体重60kg。体温36.0℃。脈拍72/分、整。血圧122/66mmHg。呼吸数15/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。神経診察で異常を認めない。診察室ではそわそわと落ち着きなく歩き回り、質問に対して的外れな回答をすることもあり、会話が成立しにくい。「何となく悪いことが起きそうな気がする」「世界がなくなってしまう」「知らない人が自分を見ている」と言う。

**B49** この患者でみられる症状はどれか。

- a 心 気      b 妄 想      c 強迫観念      d 対人恐怖      e 予期不安

**B50** 診断はどれか。

- a うつ病                                      b 統合失調症                                      c パーソナリティ症  
d 自閉スペクトラム症                      e 双極症〈双極性障害〉

◎指示があるまで開かないこと。

(令和7年2月8日 16時00分～18時30分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

- (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。  
(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医師免許を付与する

のはどれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのは

どれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「b」であるから答案用紙の**(b)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
101 (a) ● (c) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	●
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	(e)

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の**(a)**と**(e)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
102 ● (b) (c) (d) ●

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	●
(b)	(b)
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	●

(2) (例3) では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3) の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e 都市部で勤務する義務

(例3) の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙のⒶとⒸとⒹをマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <p>103 Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>103 ● Ⓑ ● ● Ⓔ</p>	<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="border: none;"><tr><td style="padding-right: 20px;">103</td><td>103</td></tr><tr><td>Ⓐ</td><td>●</td></tr><tr><td>Ⓑ</td><td>Ⓑ</td></tr><tr><td>Ⓒ →</td><td>●</td></tr><tr><td>Ⓓ</td><td>●</td></tr><tr><td>Ⓔ</td><td>Ⓔ</td></tr></table>	103	103	Ⓐ	●	Ⓑ	Ⓑ	Ⓒ →	●	Ⓓ	●	Ⓔ	Ⓔ
103	103												
Ⓐ	●												
Ⓑ	Ⓑ												
Ⓒ →	●												
Ⓓ	●												
Ⓔ	Ⓔ												

(3) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9

(例4)の正解は「90」であるから①は答案用紙の⑨を②は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104 ① ⑨ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ●  
② ● ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

答案用紙②の場合、

104  
① ②  
⑨ ●  
① ①  
② ②  
③ ③  
④ ④  
⑤ ⑤  
⑥ ⑥  
⑦ ⑦  
⑧ ⑧  
● ⑨

119C1

一般

□□□□

健康日本21（第3次）で目標とされていないのはどれか。

- a 健康経営の推進
- b 救命救急センター数の増加
- c メンタルヘルス対策に取り組む事業場の増加
- d 利用者に応じた食事提供をしてくれる特定給食施設の増加
- e 「居心地がよく歩きたくなる」まちなかづくりに取り組む市町村数の増加

119C2

一般

□□□□

日本、韓国、イタリア、スウェーデン、ドイツの老年人口の割合の推移（別冊No.38）を別に示す。日本はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別冊  
No. 38

119C3

一般

□□□□

精神保健福祉センターの業務はどれか。

- a 要介護認定
- b 障害年金の認定
- c 麻薬の取り締まり
- d 心神喪失者の精神鑑定
- e 精神医療審査会の事務

119C4

一般

□□□□

地域住民の喫煙者割合を把握するため質問紙調査を行う。

偶然誤差と関連するのはどれか。

- a 喫煙の定義
- b 記名の有無
- c 質問の妥当性
- d 調査対象者数
- e 無作為抽出の有無

119C5

一般

□□□□

児童虐待の防止等に関する法律で児童虐待の定義に規定されていないのはどれか。

- a 性的虐待
- b 経済的虐待
- c 身体的虐待
- d 心理的虐待
- e ネグレクト

119C6

一般

□□□□□

介護保険による機能訓練で正しいのはどれか。

- a 介護福祉士が実施する。                      b 利用者は減少している。  
c 医師の指示が必要である。                  d 家事動作訓練が含まれる。  
e 特定機能病院で実施される。

119C7

一般

□□□□□

介護保険で正しいのはどれか。

- a 保険料は79歳まで支払う。                      b 保険料は全市町村で同じである。  
c 保険料は65歳から納付義務がある。              d サービス利用で自己負担は生じない。  
e 所得によって支払う保険料が異なる。

119C8

一般

□□□□□

病院搬入時にショックを合併する鈍的外傷患者のX線撮影で、胸部とともに撮影する部位はどれか。

- a 頭部              b 頸椎              c 腹部              d 骨盤              e 大腿骨

119C9

一般

□□□□□

医師法で5年間の保存義務が規定されているのはどれか。

- a 紹介状              b 処方箋              c 診療録              d 看護記録              e X線写真

119C10

一般

□□□□□

尿所見で、潜血3+、沈渣に赤血球1~4/HPFを示すのはどれか。

- a 腎梗塞                      b 膀胱癌                      c 尿路結石  
d 自己免疫性溶血性貧血      e 膜性増殖性糸球体腎炎

119C11

一般

□□□□□

思路障害はどれか。

- a 強迫観念              b 思考吹入              c 心気妄想              d 広場恐怖              e 減裂思考

119C12

一般

□□□□□

乳児の運動発達評価のうち、微細運動を評価する所見はどれか。

- a 首がすわる。                      b 手をみつめる。                      c 寝返りをする。  
d バイバイをする。                      e ガラガラをつかむ。

119C13

一般

□□□□

医療保険で利用可能なのはどれか。

- a 住宅改修                      b 訪問診療                      c 介護医療院  
d 福祉用具貸与                  e ショートステイ

119C14

一般

□□□□

感染症法に基づき就業制限の通知をできるのはどれか。

- a 産業医                          b 事業者                          c 主治医  
d 感染症専門医                  e 都道府県知事

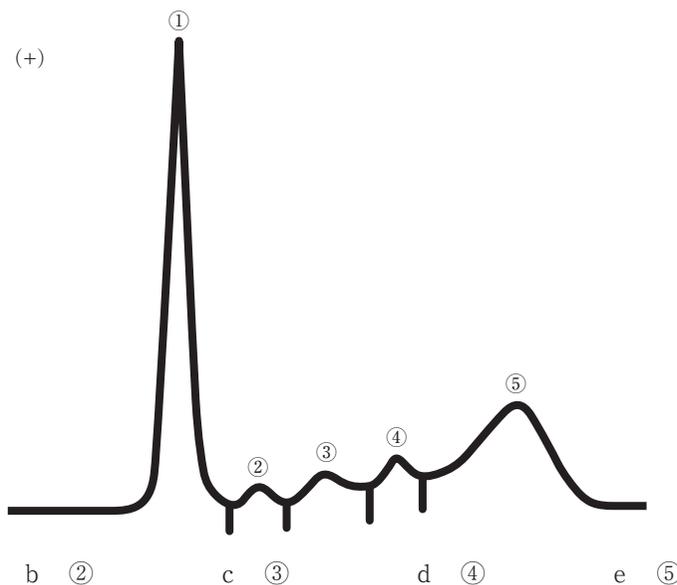
119C15

一般

□□□□

正常の血清蛋白電気泳動を以下に示す。

多発性骨髄腫で見られるM蛋白が出現する分画はどれか。



119C16

一般

□□□□

生物濃縮を受けやすい物質の特徴はどれか。

- a 沸点が高い。                      b 水溶性である。  
c 急性毒性が強い。                  d 化学的に不安定である。  
e 生体内で代謝されやすい。







119C30

一般

□□□□

下血を認めないのはどれか。

- a 大腸癌                                      b 潰瘍性大腸炎                                      c 虚血性大腸炎  
d 過敏性腸症候群                                      e 非閉塞性腸管虚血症〈NOMI〉

119C31

一般

□□□□

反復使用した場合、身体依存を形成するのはどれか。

- a LSD    b 大麻    c コカイン  
d アンフェタミン類    e ベンゾジアゼピン系薬

119C32

一般

□□□□

介護保険制度における主治医意見書に必ず記載するのはどれか。2つ選べ。

- a 家族歴    b 診断名    c アレルギー歴  
d ワクチン接種歴    e 日常生活の自立度

119C33

一般

□□□□

一般的な左冠動脈造影像(別冊No.39A)と右冠動脈造影像(別冊No.39B)を別に示す。  
心室中隔を灌流している冠動脈はどれか。2つ選べ。

- a 対角枝    b 右冠動脈    c 左回旋枝  
d 左主幹部    e 左前下行枝

別冊  
No. 39 A,B

119C34

一般

□□□□

抗リン脂質抗体症候群の徴候はどれか。2つ選べ。

- a 脳梗塞    b 不育症    c 早発閉経  
d 指尖陥凹性癬痕    e 口腔粘膜再発性潰瘍

119C35

一般

□□□□

肝内胆管癌のリスクファクターはどれか。3つ選べ。

- a 飲酒    b 肝内結石    c 経口避妊薬  
d 塩素系有機溶剤    e 原発性硬化性胆管炎

119C36

臨床

□□□□□

73歳の男性。息切れの増強を主訴に来院した。喫煙は20歳から70歳まで20本/日であったが、3年前から息切れのため禁煙している。既往歴に特記すべきことはない。職業歴に工場や鉱山での勤務歴がある。意識は清明。身長162cm、体重52kg。体温36.4℃。脈拍76/分、整。血圧142/76mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> (room air) は自立歩行で診察室入室直後は86%、安静座位で深呼吸後は89%。心音に異常を認めない。呼吸音は両側の背部でfine cracklesを聴取する。呼吸機能検査：% VC 88%、FEV<sub>1</sub>% 67%、% DLco 70%。鼻カニューラ2L/分 酸素投与下での6分間歩行試験でSpO<sub>2</sub>は90%以上を維持していた。簡易睡眠無呼吸検査の結果、軽度の睡眠時無呼吸が明らかとなった。心エコー検査で中等度の肺高血圧を認める。胸部X線写真(別冊No.40A)と胸部単純CT(別冊No.40B)とを別に示す。胸部CTで明らかな肺癌の合併を認めない。

この患者に対する在宅酸素療法で期待される効果はどれか。

- a 肺拡散能の改善  
b 肺癌の発症抑制  
c 細菌性肺炎の併発予防  
d 労作時呼吸困難の改善  
e 睡眠時無呼吸発作の減少

別冊  
No. 40 A,B

119C37

臨床

□□□□□

7歳の男児。嘔吐と下痢を主訴に母親に連れられて来院した。2日前から38℃の発熱、嘔吐及び1日8回の水様下痢が持続しており、経口水分摂取が困難なため入院した。入院時検査で便中ノロウイルス抗原が陽性であった。研修医がビニールエプロン、サージカルマスク、アイガード及びディスポーザブル手袋を着用し病室で診察をしていたところ、患児がプラスチック製テーブルの上に少量嘔吐した。研修医は嘔吐後の患児の状態が安定していることを確認後、①ペーパータオルで吐物を拭き取り、②ペーパータオルをビニール袋に入れて密封後に③医療廃棄物用のごみ箱に捨て、テーブルの上を④アルコール綿で拭いて消毒した。その後、ディスポーザブル手袋、アイガード、ビニールエプロン、サージカルマスクを医療廃棄物用のごみ箱に捨て、⑤自分の手を石鹸を用いて流水で洗浄した。

下線部のうち、対応で誤っているのはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

119C38

臨床

□□□□□

41歳の初産婦(1妊0産)。妊娠40週4日、陣痛発来のため入院した。陣痛発来から16時間後に子宮口が全開し、3時間経過した。身長160cm、体重65kg。体温36.9℃。血圧138/84mmHg。陣痛間欠時は閉眼し、陣痛発作時にのみ唸り声をあげる。神経診察で異常を認めない。陣痛周期は5～6分、持続時間は20秒であった。児頭下降度はSP±0cm、2時方向に小泉門を触知した。胎児心拍数陣痛図で、胎児心拍数基線は140bpm、基線細変動は中等度、徐脈はなく、一過性頻脈を認める。

次に行うのはどれか。

- a 吸引分娩                      b 経過観察                      c 帝王切開  
d 胎児圧出法                      e 子宮収縮薬投与

119C39

臨床

□□□□□

98歳の女性。家族から呼吸が止まったと往診依頼があった。5年前に脳梗塞を発症し、3年前から寝たきりとなり、訪問診療を受けている。本人の意向で積極的な治療は行わずに在宅看取りの方針であった。1ヵ月前からほとんど食事が摂れなくなり、体重が減少してきた。2週間前から傾眠状態となり、ここ数日は体を揺すっても反応がなかった。本日未明に依頼があり、早朝に往診した。家族によると4時間前に呼吸が止まったという。診察を行い、瞳孔散大、呼吸停止および心停止を確認した。背中にはわずかに死斑が出現し、顎関節には死後硬直が出現していた。身体に外傷はなく、るいそうと脱水所見を認めた。経過と死体所見から老衰による死亡と判断した。

死亡診断書の直接死因欄に記載するのはどれか。

- a 老衰      b 心不全      c 脳梗塞      d 呼吸不全      e 不詳の死

119C40

臨床

□□□□□

45歳の男性。労作時の息苦しさを主訴に来院した。3年前からカバンを持ったときに手を離しにくく、1年前からペットボトルのふたが開けにくいと感じるようになった。1ヵ月前からわずかな労作でも息苦しさをを感じるようになった。喫煙歴はない。意識は清明。身長168cm、体重48kg。体温36.5℃。脈拍68/分、整。血圧118/70mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。下腿に浮腫を認めない。胸鎖乳突筋の萎縮を認める。徒手筋力テストで筋力の低下があり、両下肢遠位筋は萎縮し、四肢の腱反射は低下している。母指球のハンマー叩打でミオトニアを認める。動脈血ガス分析 (room air) : pH 7.36, PaCO<sub>2</sub> 47Torr, PaO<sub>2</sub> 79Torr, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 26mEq/L。胸部X線写真に異常を認めない。

別に示す呼吸機能検査でのflow-volume曲線(別冊No.41①～⑤)のうち、この患者で予想されるのはどれか。

- a ①      b ②      c ③      d ④      e ⑤

別冊  
No. 41 ①～⑤

119C41

臨床

□□□□□

55歳の男性。建設作業員として勤務中、高所から転落して頭部を強打したため救急車で搬入された。急性硬膜下血腫と診断され、血腫除去術を受けた。左下肢に麻痺があるが、高次脳機能に問題はなく、杖を使って歩行できるようになったため、退院後の復職を検討している。在籍している会社からは、資材管理部門への配置転換を提案されている。

この患者の生活機能に関する評価を国際生活機能分類<ICF>で行った場合、会社の提案はどれに相当するか。

- a 活動      b 参加      c 環境因子  
d 個人因子      e 心身機能・身体構造

119C42

臨床

□□□□□

37歳の女性。めまいと右耳の難聴を主訴に来院した。6ヵ月前から回転性めまい発作を繰り返している。めまいの持続時間は30分から2時間程度で、めまいの際には、悪心、右耳の耳鳴および難聴を伴う。

別に示すオーディオグラム（別冊No.42①～⑤）のうちこの患者のオーディオグラムはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

別冊  
No. 42 ①～⑤

119C43

臨床

□□□□□

30歳の女性（0妊0産）。挙児を希望して産婦人科を受診した。月経周期は30～60日、不整。3年前から高血圧症でカルシウム拮抗薬を内服している。仕事は小学校の教師。1年前に結婚した。身長160cm、体重90kg。脈拍72/分、整。血圧130/80mmHg。

この患者の妊娠に向けた助言で適切なのはどれか。

- a 休職                      b 体重の減量                      c 妊娠の断念  
d 降圧薬の中止                      e 体外授精の開始

119C44

臨床

□□□□□

40歳の女性。性器出血の持続を主訴に来院した。5日前から性器出血を認め、2日前から下腹部痛も伴うようになった。最終月経は4週間前。月経周期は30～60日、不整、持続5日間。身長153cm、体重50kg。体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧118/64mmHg。呼吸数18/分。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

最初に行う対応はどれか。

- a 腹部単純CT                      b 妊娠反応検査                      c 経膈超音波検査  
d 子宮内膜組織診                      e プロゲステロン投与



119C49

臨床

□□□□□

日齢0の女児。妊娠経過は異常なく、在胎40週1日、体重2,260g、身長42cm。Apgarスコア6点(1分)、8点(5分)で自然分娩で出生した。出生後、後頭部の突出、耳介低位、口唇口蓋裂、小顎、背中の多毛および筋緊張の低下を認めた。心エコー検査で心室中隔欠損と動脈管開存症を認めた。今後両親に説明の上、染色体検査を予定している。顔貌の写真(別冊No.43A)と手指の写真(別冊No.43B)とを別に示す。

予想される染色体検査の結果はどれか。

- a 45, X                      b 46, XX                      c 47, XXX  
d 47, XX, +18              e 47, XX, +21

別冊  
No. 43 A,B

119C50

臨床

□□□□□

59歳の女性。がん検診で便潜血反応陽性を指摘され来院した。便通異常の自覚はない。意識は清明。身長152cm、体重46kg。体温36.1℃。脈拍64/分、整。血圧136/82mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音に異常を認めない。四肢に浮腫を認めない。下部消化管内視鏡検査のS状結腸像(別冊No.44)を別に示す。生検組織の病理検査で高分化腺癌と診断された。患者から「私の病気の場合、どこに転移しやすいのでしょうか」との質問があった。

この患者で最も転移の可能性が高い臓器はどれか。

- a 脳                      b 肺                      c 肝臓                      d 骨髄                      e 副腎

別冊  
No. 44

119C51

臨床

□□□□□

19歳の女性。無月経と倦怠感を主訴に来院した。1年前から体重の減量を目的に食事を減らすようになった。6ヵ月前から月経がなく、1ヵ月前から倦怠感を自覚しているため心配した母親とともに受診した。1年前と比較して体重は約10kg減少している。本人は減量に満足しておらずもう少し体重を減らしたいと考えている。意識は清明。身長160cm、体重40kg。体温36.0℃。脈拍56/分、整。血圧88/50mmHg。るいそうと下腿の軽度の圧痕性浮腫を認める。尿所見:蛋白(-)、糖(-)、ケトン体1+。妊娠反応陰性。血液所見:赤血球410万、Hb 12.0g/dL、Ht 40%、白血球3,200、血小板12万。血液生化学所見:AST 20U/L、ALT 18U/L、血糖82mg/dL、TSH 3.6 μU/mL(基準0.2~4.0)、LH 3mIU/mL(基準1.8~7.6)、FSH 4mIU/mL(基準5.2~14.4)、FT<sub>3</sub> 2.0pg/mL(基準2.3~4.3)、FT<sub>4</sub> 1.2ng/dL(基準0.8~2.2)、エストラジオール10pg/mL(基準25~75)。経膈超音波検査で子宮の軽度萎縮を認める。

対応で適切でないのはどれか。

- a 栄養管理                      b 心理療法                      c 家族への支援  
d 女性ホルモン投与              e 甲状腺ホルモン投与



119C55

臨床

□□□□□

44歳の男性。健康診断で初めて血圧高値を指摘され来院した。健康診断時の血圧は138/88mmHgであった。体重は20歳ごろから変わっていない。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。飲酒は月1回で日本酒0.5合（アルコール濃度15%）/回。健康診断後から毎日ジョギングを1時間している。身長162cm、体重58kg。BMI 22.0。脈拍68/分、整。血圧134/82mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下肢に浮腫を認めない。尿所見：蛋白（-）。血液生化学所見：クレアチニン0.7mg/dL、尿酸6.4mg/dL、空腹時血糖80mg/dL、HbA1c 5.4%（基準4.9～6.0）、総コレステロール196mg/dL、トリグリセリド100mg/dL、HDLコレステロール68mg/dL。食事内容の評価で、食塩摂取量5.5g/日、野菜摂取量200g/日。

この患者の生活習慣に対する指導で適切なものはどれか。

- a 「飲酒はやめましょう」                      b 「塩分を控えましょう」  
 c 「体重を減らしましょう」                      d 「運動量を増やしましょう」  
 e 「野菜を多く摂りましょう」

119C56

臨床

□□□□□

生後18時間の女児。在胎39週、体重2,900g、Apgarスコア8点（1分）、9点（5分）で頭位自然分娩で出生した。妊娠・分娩経過に異常はなかった。体温37.1℃。脈拍140/分、整。呼吸数48/分。SpO<sub>2</sub> 96%（room air）。皮膚は赤く、チアノーゼは認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で右肋骨弓下に肝を1cm触知するが、脾は触知しない。生後1時間から授乳を母乳で開始し、生後6時間にビタミンKを内服した。嘔吐は認めない。生後18時間に初めて排泄した便の写真（別冊No.45）を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 補液    b 母乳継続    c 経鼻胃管留置  
 d ビタミンK製剤静注                      e アレルギー用人工乳開始

別冊  
No. 45

119C57

臨床

□□□□□

62歳の男性。右眼の視野に見えにくい部分があることを主訴に来院した。既往歴として10年前に気管支喘息重積状態となり入院した。3年前から喘息発作を繰り返しており、総合病院の呼吸器内科外来に通院している。視力は右0.1 (1.0×-3.0D)、左0.2 (1.0×-2.5D)、眼圧は右27mmHg、左20mmHg。両眼の前眼部、中間透光体に異常を認めない。右眼の眼底写真(別冊No.46A)と視野検査の結果(別冊No.46B)とを別に示す。

適切な点眼薬はどれか。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| a 抗菌薬           | b β遮断薬       |
| c 副交感神経刺激薬      | d 副腎皮質ステロイド薬 |
| e プロスタグランディン関連薬 |              |

別冊  
No. 46 A,B

119C58

臨床

□□□□□

82歳の男性。全身倦怠感を主訴に来院した。2週間前から全身倦怠感が持続し2日前に家族から顔色不良を指摘されたため受診した。意識は清明。体温36.6℃。脈拍98/分、整。血圧138/80mmHg。血液所見：赤血球174万、Hb 5.4g/dL、Ht 16%、網赤血球1%、白血球1,800(分葉核好中球20%、好酸球1%、単球2%、リンパ球77%)、血小板8.2万。貧血に対して濃厚赤血球輸血を行ったが、輸血開始から2時間経過したところで呼吸困難を訴えた。意識は清明。体温37.0℃。脈拍132/分、整。血圧98/62mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 90% (room air)。再度行なった血液型検査では不適合を認めず、不規則抗体は陰性で交差適合試験(クロスマッチ)で異常を認めなかった。

原因で考えられるのはどれか。2つ選べ。

- |             |           |             |
|-------------|-----------|-------------|
| a アナフィラキシー  | b 間質性肺炎   | c ヘモクロマトーシス |
| d 輸血関連急性肺障害 | e 輸血後GVHD |             |

119C59~61

臨床

□□□□□

次の文を読み、59～61の問いに答えよ。

83歳の男性。意識消失を主訴に救急車で搬入された。

**現病歴**：15年前から高血圧症で治療中。約5年前から家族に難聴を指摘されている。3ヵ月前から労作や安静に無関係の動悸を自覚するようになり、通院中の診療所で心室期外収縮を指摘された。本日、自宅で意識消失し倒れたことに家族が気づき、救急車を要請した。意識は数秒で回復した。家族によると、搬入時の様子はいつもと変わらないという。

**既往歴**：74歳時に早期胃癌に対して内視鏡治療を施行。

**生活歴**：喫煙は20歳から74歳まで20本/日。飲酒は焼酎のお湯割りを1合/日。長男夫婦、孫1人と4人暮らし。

**家族歴**：父親は72歳時に胃癌で死亡。母親は78歳時に心筋梗塞で死亡。

**現症**：ベッドで臥位となっており、開眼している。難聴があるものの、大きな声で話しかけると、本日の日付や現在いる場所、自分の名前と年齢を正確に答え、医師が診察していることを理解している。身長172cm、体重59kg。体温35.6℃。心拍数56/分、整。血圧152/68mmHg。呼吸数16/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部に異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。神経診察では指示に従って四肢を動かすことができ、明らかな麻痺は認めない。

**C59** この患者の来院時のGlasgow Coma Scale (GCS) はどれか。

- a E4 V5 M6                      b E4 V5 M5                      c E4 V5 M4  
d E3 V4 M6                      e E3 V4 M5

**C60** この患者の診察で適切でないのはどれか。

- a 耳元で話すようにする。                      b 複雑な言い回しを避ける。  
c プライバシーに配慮する。                      d 本人からの問診は省略する。  
e 筆談による意思疎通も併用する。

**C61** 診察中に患者は再び意識消失し、数秒後に回復した。意識消失時の心拍数は14/分、不整、血圧は90/56mmHg、呼吸数は16/分、心電図モニターの波形(別冊No.47)を別に示す。その後家族に詳細な病歴聴取をしたところ、今回のような数秒間の意識消失を5回以上認めていたことが明らかになった。

次に行うべき治療はどれか。

- a 胸骨圧迫                      b 緊急ペーシング                      c リドカイン静注  
d アドレナリン静注                      e カルディオバージョン

別冊  
No. 47

119C62~64

臨床

□□□□

次の文を読み、62～64の問いに答えよ。

58歳の男性。発熱と意識障害のため救急車で搬入された。

現病歴：昨日38.0℃の発熱があったため仕事を休み、市販の解熱鎮痛薬を内服して自宅で様子をみていた。今朝はベッドで横になったままで呼びかけに反応がなかったため、家族が救急車を要請した。

既往歴：21歳時に交通外傷のため左腎臓と脾臓を摘出した。

生活歴：会社員で事務作業が主体。喫煙歴はない。飲酒はビール350mL/日を週2回。52歳の妻、20歳台の息子2人と4人暮らし。ペットは飼育していない。ワクチン接種歴は確認できない。

家族歴：父は78歳時に心筋梗塞で死亡。同居している家族に特記すべきことはない。

現 症：意識レベルはJCSⅢ-200。身長170cm，体重62kg。体温38.8℃。心拍数128/分，整。血圧76/52mmHg。呼吸数30/分。SpO<sub>2</sub> 91%（リザーバー付マスク10L/分 酸素投与下）。皮膚は湿潤で著明な発汗を認める。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めず，頭頸部にはその他の異常も認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦，軟で，肝を触知しない。左側腹部に手術痕を認める。両側足趾に暗紫色の色調変化を認める。下腿に浮腫を認めない。

検査所見：血液所見：赤血球490万，Hb 13.2g/dL，Ht 39%，白血球2,000（骨髄球5%，後骨髄球13%，桿状核好中球38%，分葉核好中球41%，好酸球0%，好塩基球0%，単球1%，リンパ球2%），血小板6.2万，PT-INR 1.4（基準0.9～1.1），フィブリノゲン426mg/dL（基準186～355），Dダイマー30 μg/mL（基準1.0以下）。血液生化学所見：総蛋白5.9g/dL，アルブミン2.8g/dL，総ビリルビン2.7mg/dL，直接ビリルビン1.8mg/dL，AST 197U/L，ALT 149U/L，LD 351U/L（基準124～222），ALP 109U/L（基準38～113），γ-GT 60U/L（基準13～64），アミラーゼ44U/L（基準44～132），CK 460U/L（基準59～248），尿素窒素40mg/dL，クレアチニン2.1mg/dL，血糖98mg/dL，Na 130mEq/L，K 3.4mEq/L，Cl 101mEq/L，Ca 7.5mg/dL，乳酸28mg/dL（基準5～20）。CRP 30mg/dL。動脈血ガス分析（リザーバー付マスク10L/分 酸素投与下）：pH 7.33，PaCO<sub>2</sub> 28Torr，PaO<sub>2</sub> 84Torr，HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 18mEq/L。

血液培養採取と同時に静脈路を確保し，輸液と抗菌薬投与を開始したが，血圧が低下した状態が続いている。

C62 次に投与すべきなのはどれか。

- a 血小板製剤                      b ニトログリセリン                      c ノルアドレナリン  
d グルココルチコイド              e 重炭酸ナトリウム液

C63 入院時に採取した血液培養が陽性となった。血液培養ボトル内容のGram染色標本（別冊No.48）を別に示す。

考えられる原因微生物はどれか。

- a *Clostridium perfringens*    b *Enterococcus faecium*  
c *Haemophilus influenzae*    d *Neisseria meningitidis*  
e *Streptococcus pneumoniae*

C64 集中治療が継続されたが患者は入院4日目に死亡した。家族に病理解剖について説明したところ承諾され、実施することとなった。

正しいのはどれか。

- a 解剖終了後は遺体を家族に返還する。
- b 解剖に使用した器具は全て廃棄する。
- c 解剖を実施したことを警察に届け出る。
- d 解剖に関わった医療従事者は予防抗菌薬を内服する。
- e 死亡診断書は病理解剖報告書が完成した後に発行する。

別冊  
No. 48

### 119C65~67 臨床

□□□□□

次の文を読み、65～67の問いに答えよ。

30歳の男性。左前胸部痛と呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴：格闘技の選手。試合中に左前胸部を蹴られ、試合会場近くの病院を受診した。

既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：一人暮らし。喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴：父が大腸癌。

現症：来院時、意識は清明。身長180cm、体重98kg。体温36.4℃。脈拍96/分、整。血圧102/72mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 97% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内に異常を認めない。甲状腺と頸部リンパ節とを触知しない。左前胸部に痛みを訴え、皮下出血を認める。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。神経診察で異常を認めない。

検査所見：血液所見：赤血球489万、Hb 14.2g/dL、Ht 44%、白血球11,200。血液生化学所見：総蛋白6.9g/dL、アルブミン4.2g/dL、AST 36U/L、ALT 32U/L、LD 338U/L (基準124～222)、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.8mg/dL、Na 139mEq/L、K 4.2mEq/L、Cl 103mEq/L。動脈血ガス分析 (room air)：pH 7.43、PaCO<sub>2</sub> 43Torr、PaO<sub>2</sub> 84Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 28mEq/L。胸部単純CT (別冊No.49)を別に示す。

C65 この患者でみられる所見はどれか。

- a 呼気時間の延長
- b 左呼吸音の減弱
- c 左胸部の wheezes
- d 頸静脈の吸気時怒張
- e 左胸部打診での鼓音

C66 その後総合病院へ搬入された。搬入後の状態は意識清明で、体温36.4℃、脈拍132/分、整、血圧92/52mmHg、呼吸数30/分、SpO<sub>2</sub> 92% (room air)であった。酸素5L/分をマスクで投与し静脈路を確保して輸液を開始した。初回のCTから2時間後の搬送先の病院での胸部造影CTの肺野条件 (別冊No.50A)と縦隔条件 (別冊No.50B)とを別に示す。

搬送先の病院での胸部CTでみられる所見はどれか。

- a 左気胸
- b 大動脈解離
- c 縦隔気腫の増加
- d 心嚢液貯留の増加
- e 左胸腔内液体貯留の増加

C67 行うべき対応はどれか。

- a 経過観察
- b β遮断薬投与
- c 気管挿管陽圧換気
- d 胸腔ドレーン挿入
- e 非侵襲的陽圧換気 (NPPV)

別冊  
No. 49, 50 A,B

119C68~70

臨床

□□□□□

次の文を読み、68～70の問いに答えよ。

75歳の男性。転びやすさを主訴に来院した。

**現病歴**：3年前から、就寝中に大きな声で寝言を言ったり、手足をバタバタ動かしたりしていることに妻が気付いていた。同時期から高度な便秘を自覚するようになった。1年前から、物忘れが多くなり、日付や予定を何度も妻に確認するようになった。同時期から、①壁の模様や汚れを見て、虫が這っていると言って殺虫剤を噴霧するようになった。②入浴はひとりで可能で、③尿失禁はないが、日によっては、妻が話しかけても反応が鈍く、友人に会っても④あいさつをしなくなった。また、⑤自分が無力だと考えるようになった。1ヵ月前からは、動作が遅くなり、転びやすくなったため心配した家族に付き添われて受診した。

**既往歴**：60歳から高血圧症で降圧薬を服用している。

**生活歴**：70歳の妻と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

**家族歴**：父は脳梗塞で70歳時に死亡。母は胃癌で65歳時に死亡。

**現 症**：意識は清明。身長170cm、体重65kg。体温36.5℃。脈拍68/分、整。血圧136/82mmHg。呼吸数16/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。改訂長谷川式簡易知能評価スケール16点(30点満点)、Mini-Mental State Examination (MMSE) 19点(30点満点)。脳神経に異常を認めない。四肢に筋力低下は認めない。四肢に軽度の筋強剛を認める。腱反射は正常で、Babinski徴候は陰性。歩行はやや前傾姿勢で、歩幅は小刻みである。

**C68** 下線部のうち、高齢者機能評価簡易版 (CGA7) の内容に含まれないのはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

**C69** この患者で認める可能性が高いのはどれか。

- a 失 語                      b 運動失調                      c 感覚障害  
d 項部硬直                      e 起立性低血圧

**C70** 診断に有用なのはどれか。

- a FDG-PET                      b 頸椎単純CT                      c 頸部超音波検査  
d 脳血管造影検査                      e ドパミントランスポーターシンチグラフィ

119C71～73

臨床

□□□□□

次の文を読み、71～73の問いに答えよ。

85歳の女性。悪心を主訴に来院した。

**現病歴**：3日前から悪心があり、症状が悪化したため息子に付き添われて来院した。自宅近くの診療所にて、10年前から脂質異常症の治療で①スタチンを服用していた。また、同時期から便秘症のため②酸化マグネシウムを服用していた。息子によると、最近は特に便が硬く③市販の下剤を追加で服用していたという。診療所での④最後の血液検査は1年前である。70歳過ぎから⑤「腎臓の数値が高め」と言われていたという。

**既往歴**：75歳時から脂質異常症と便秘のため自宅近くの診療所に通院している。

**生活歴**：息子と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

**家族歴**：父は75歳時に脳梗塞で死亡。母は85歳時に老衰で死亡。

**現症**：意識は清明であるが受け答えはやや緩慢である。身長151cm、体重35kg。体温36.9℃。脈拍32/分、整。血圧92/50mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。皮膚は乾燥しているが、色素沈着は認めない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺腫大を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部はやや膨満、軟。腸雑音はやや減弱。圧痛はなく、肝・脾を触知しない。四肢末梢は冷たいが、チアノーゼや浮腫を認めない。神経診察で異常を認めない。

**検査所見**：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)。血液所見：赤血球400万、Hb 11.5g/dL、Ht 35%、白血球6,300、血小板25万。血液生化学所見：総蛋白6.1g/dL、アルブミン4.1g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、直接ビリルビン0.2mg/dL、AST 28U/L、ALT 16U/L、LD 147U/L (基準124～222)、ALP 46U/L (基準38～113)、 $\gamma$ -GT 26U/L (基準9～32)、CK 42U/L (基準41～153)、尿素窒素38mg/dL、クレアチニン2.4mg/dL、尿酸6.9mg/dL、血糖76mg/dL、総コレステロール182mg/dL、トリグリセリド90mg/dL、Na 141mEq/L、K 4.5mEq/L、Cl 103mEq/L、Ca 9.5mg/dL、P 3.5mg/dL。CRP 0.9mg/dL。動脈血ガス分析 (room air)：pH 7.38、PaCO<sub>2</sub> 42Torr、PaO<sub>2</sub> 92Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 26mEq/L。

C71 追加検査では、血清Mg値が8.5mg/dL (基準1.7～2.2)であった。

下線部のうち、この患者の病態の誘因で考えにくいのはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

C72 次に行うべき検査はどれか。

- a 脳波検査                      b 頭部MRI                      c 心電図検査  
d 腹部超音波検査              e 胸部X線撮影

C73 まず投与すべきなのはどれか。

- a 生理食塩液                      b マニトール                      c アドレナリン  
d プレドニゾロン                  e 硫酸マグネシウム

**119C74**

臨床

□□□□□

73歳の男性。咳嗽と呼吸困難を主訴に来院した。6ヵ月前から労作時の息切れと咳嗽が出現し、徐々に増悪していた。喫煙歴はない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音に異常を認めない。呼吸音は両側肺下部にfine cracklesを聴取する。胸部X線写真で線状網状影を認めた。

動脈血ガス分析 (room air) の結果を示す。

pH 7.46, PaCO<sub>2</sub> 38Torr, PaO<sub>2</sub> 68Torr, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 25mEq/L

肺胞気-動脈血酸素分圧較差 (A-aDO<sub>2</sub>) を求めよ。

ただし、大気圧は767Torr, 37℃での飽和水蒸気圧は47Torr, 呼吸商は0.8とする。

また、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ② Torr

① 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

② 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

**119C75**

臨床

□□□□□

7歳5ヵ月の男児。太っていることを心配した母親に連れられて来院した。身長120cm, 体重28kg。

肥満度を求めよ。

ただし、7歳5ヵ月, 男児, 身長120cmの標準体重を22kgとする。

また、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ② %

① 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

② 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

◎指示があるまで開かないこと。

(令和7年2月9日 9時30分～12時15分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間45分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

- (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。  
(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医師免許を付与する

のはどれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのは

どれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「b」であるから答案用紙の**(b)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
101 (a) ● (c) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101 101  
(a) (a)  
(b) ●  
(c) → (c)  
(d) (d)  
(e) (e)

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の**(a)**と**(e)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
102 ● (b) (c) (d) ●

答案用紙②の場合、

102 102  
(a) ●  
(b) (b)  
(c) → (c)  
(d) (d)  
(e) ●

(2) (例3) では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3) の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e 都市部で勤務する義務

(例3) の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙のⒶとⒸとⒹをマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <p>103 Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>103 ● Ⓑ ● ● Ⓔ</p>	<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="border: none;"><tr><td style="padding-right: 20px;">103</td><td>103</td></tr><tr><td>Ⓐ</td><td>●</td></tr><tr><td>Ⓑ</td><td>Ⓑ</td></tr><tr><td>Ⓒ →</td><td>●</td></tr><tr><td>Ⓓ</td><td>●</td></tr><tr><td>Ⓔ</td><td>Ⓔ</td></tr></table>	103	103	Ⓐ	●	Ⓑ	Ⓑ	Ⓒ →	●	Ⓓ	●	Ⓔ	Ⓔ
103	103												
Ⓐ	●												
Ⓑ	Ⓑ												
Ⓒ →	●												
Ⓓ	●												
Ⓔ	Ⓔ												

119D1

一般

□□□□□

注意欠如多動性障害（注意欠如多動症）〈ADHD〉で正しいのはどれか。

- a こだわりが強い.      b 知能低下を伴う.      c 独り遊びが多い.  
d 衝動的行動を認める.      e 多動は次第に悪化する.

119D2

一般

□□□□□

心不全精査目的の心臓カテーテル検査の左右心室圧波形（別冊No.51）を別に示す。  
考えられる疾患はどれか。

- a 急性心筋炎      b 収縮性心膜炎      c 肥大型心筋症  
d 大動脈弁狭窄症      e 大動脈弁閉鎖不全症

別冊  
No. 51

119D3

一般

□□□□□

下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の周術期管理で誤っているのはどれか。

- a 手術前4週間以上の禁煙      b 術前日の非吸収性抗菌薬の内服  
c 術後72時間以上のベッド上安静      d 手術室搬入2時間前の浣腸排便処置  
e 手術室搬入3時間前までの経口補水液摂取

119D4

一般

□□□□□

食中毒の予防で加熱が最も有効なのはどれか。

- a *Bacillus cereus*      b *Campylobacter jejuni*      c *Clostridium botulinum*  
d *Clostridium perfringens*      e *Staphylococcus aureus*

119D5

一般

□□□□□

膀胱鏡検査をする体位で、最も適切なものはどれか。

- a 立位      b 座位      c 腹臥位      d 側臥位      e 砕石位

119D6

一般

□□□□□

大腿骨頭壊死症と関連が深い疾患はどれか。

- a 胃潰瘍      b 狭心症      c 全身性エリテマトーデス（SLE）  
d 糖尿病      e 肺結核

119D7

一般

□□□□

3歳児健康診査で難聴が疑われた児に実施する精密検査で適切なのはどれか。

- a 語音聴力検査                      b 自記オーディオメトリ                      c 純音聴力検査  
d 聴性脳幹反応〈ABR〉                      e ティンパノメトリ

119D8

一般

□□□□

出血症状と疾患の組合せで誤っているのはどれか。

- a 鼻出血 ————— von Willebrand 病  
b 過多月経 ————— ヘパリン起因性血小板減少症  
c 歯肉出血 ————— 急性前骨髄球性白血病  
d 点状出血 ————— 免疫性血小板減少症  
e 関節内出血 ————— 血友病

119D9

一般

□□□□

死後に移植のために眼球を提供できる疾患はどれか。

- a 乳 癌                                      b 敗血症                                      c 白血病  
d B型肝炎                                      e Creutzfeldt-Jakob 病

119D10

一般

□□□□

骨髄血塗抹May-Giemsa染色標本(別冊No.52)を別に示す。

この患者にみられる染色体異常はどれか。

- a t(4;14)                                      b t(8;21)                                      c t(9;22)  
d t(15;17)                                      e t(16;16)

別 冊  
No. 52

119D11

一般

□□□□

左下顎部腫脹を反復する患者の顎部単純CT(別冊No.53)を別に示す。

考えられる疾患はどれか。

- a Sjögren 症候群                                      b 顎下腺腫瘍                                      c 舌下腺腫瘍  
d 唾石症    e リンパ管腫

別 冊  
No. 53

119D12

一般

□□□□□

片頭痛で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 男性に多い。                      b 入眠中に多い。                      c 体動により増悪する。  
d 拍動性の痛みが多い。              e 発作予防にトリプタンを用いる。

119D13

一般

□□□□□

下部尿路機能に関わる神経はどれか。2つ選べ。

- a 陰部神経                              b 骨盤神経                              c 坐骨神経  
d 大腿神経                              e 腓腹神経

119D14

一般

□□□□□

ウイルスが原因となるのはどれか。2つ選べ。

- a 翼状片                                  b 咽頭結膜熱                              c 春季カタル  
d 巨大乳頭結膜炎                      e 急性出血性結膜炎

119D15

一般

□□□□□

僧帽弁閉鎖不全症の原因となるのはどれか。3つ選べ。

- a 高安動脈炎                              b 拡張型心筋症                              c 急性心筋梗塞  
d 感染性心内膜炎                      e 急性大動脈解離

119D16

臨床

□□□□□

72歳の女性。健康診断で胸部異常陰影を指摘され来院した。2年前から、毎年の健康診断でも胸部X線写真で同様の類円形の結節を認めていたが増大傾向はない。自覚症状はない。胸部X線写真(別冊No.54A)と胸部造影CT(別冊No.54B, 54C)を別に示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 肺過誤腫                                  b 肺分画症                                  c 原発性肺癌  
d 肺動静脈瘻                              e 転移性肺腫瘍

別冊  
No. 54 A～C

119D17

臨床

□□□□□

34歳の女性。労作時の息切れを主訴に来院した。数週間前から発熱、脱毛および両頬部の紅斑が出現し、3日前から労作時の息切れが出現したため受診した。身長155cm、体重52kg。体温38.2℃。脈拍96/分、整。血圧92/46mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。両頬部の紅斑を認める。眼瞼結膜はやや貧血様である。眼球結膜に異常を認めない。硬口蓋には痛みを伴わない潰瘍性病変を認める。頸静脈の怒張を認めない。心音でⅡ音の亢進を認める。呼吸音に異常を認めない。両手指の近位指節間関節、中手指節間関節および手関節の腫脹を認める。下肢に軽度の浮腫を認める。血液所見：赤血球346万、Hb 10.8g/dL、Ht 36%、白血球2,200、血小板13万。PT-INR 1.2 (基準0.9～1.1)、フィブリノゲン289mg/dL (基準186～355)、FDP 3.1 μg/mL (基準10以下)、Dダイマー0.6 μg/mL (基準1.0以下)。血液生化学所見：AST 28U/L、ALT 26U/L、LD 160U/L (基準124～222)、CK 42U/L (基準41～153)、クレアチニン0.5mg/dL、BNP 76pg/mL (基準18.4以下)、KL-6 322U/mL (基準500未満)。免疫血清学所見：抗核抗体640倍 (基準20以下)、抗dsDNA抗体325IU/mL (基準12以下)、血清補体値(CH<sub>50</sub>) 12U/mL (基準30～40)、C3 42mg/dL (基準52～112)、C4 3mg/dL (基準16～51)。心筋トロポニンT迅速検査陰性。入院時の心電図(別冊No.55A)と胸部X線写真(別冊No.55B)を別に示す。

息切れの原因はどれか。

- a 心外膜炎                      b 心筋梗塞                      c 間質性肺炎  
d 完全房室ブロック              e 肺動脈性肺高血圧症

別冊  
No. 55 A,B

119D18

臨床

□□□□□

83歳の男性。陰囊の皮疹を主訴に来院した。9ヵ月前から左陰囊に痛みや痒みを伴わない皮疹が出現し、自宅近くの医療機関で外用薬による治療をしていたが、次第に拡大してきたため紹介受診した。陰部の写真(別冊No.56A)と生検組織のH-E染色標本(別冊No.56B)とを別に示す。

診断はどれか。

- a Bowen病                      b 悪性黒色腫                      c 基底細胞癌  
d 脂漏性角化症                      e 乳房外Paget病

別冊  
No. 56 A,B

119D19

臨床

□□□□□

30歳の男性。健康診断で胸部X線写真の異常を指摘され来院した。自覚症状はない。意識は清明。体温36.2℃。脈拍56/分、整。血圧120/74mmHg。呼吸数14/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。下腿に浮腫を認めない。神経診察で異常を認めない。血液生化学所見：尿素窒素14mg/dL、クレアチニン0.8mg/dL、アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉37.4U/L (基準3.3～21.4)。12誘導心電図でI度房室ブロックを認める。胸部X線写真(別冊No.57)を別に示す。

この患者でグルココルチコイド内服治療の適応と判断する画像所見はどれか。

- a 頭部MRAでの脳動脈瘤                      b FDG-PETでの心筋への異常集積  
c 胸部造影CTでの両側縦隔リンパ節腫大      d 心エコー検査での心室中隔の非対称性肥大  
e Gaシンチグラフィでの両側肺門リンパ節への集積

別冊  
No. 57

119D20

臨床

□□□□□

26歳の男性。見え方の不安を主訴に来院した。焼肉の焼け具合が分からなかったり、買い物で水色を選んだつもりが友人にピンクだと指摘されたことがある。弟も同じような経験があるという。診断に有用な検査はどれか。

- a 色覚検査                                      b 視野検査                                      c 両眼視機能検査  
d 視覚誘発電位〈VEP〉                      e 網膜電図検査〈ERG〉

119D21

臨床

□□□□□

69歳の男性。生来右利き。立てないことを主訴に救急車で搬入された。今朝トイレで立ち上がれなくなったため、家族が救急車を要請した。40歳台から高血圧症で、降圧薬を服用中である。来院時の意識レベルはJCS I-1。身長172cm、体重67kg。体温36.6℃。心拍数84/分、整。血圧180/92mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。頭部単純CT水平断像(別冊No.58A)と冠状断像(別冊No.58B)とを別に示す。

この患者で認めるのはどれか。

- a 失算    b 対麻痺    c 視野障害  
d 手指失認                                        e 感覚性失語

別冊  
No. 58 A,B

119D22

臨床

□□□□□

28歳の女性。妊娠に関する相談のため来院した。3年前から全身性エリテマトーデス〈SLE〉で自宅近くの医療機関に通院しており、グルココルチコイドの内服で、病状は1年以上前から安定している。近い将来、挙児を希望しており相談のため紹介受診した。体温36.5℃。脈拍68/分、整。血圧108/62mmHg。顔面、体幹および四肢に皮疹を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。(持参した前医の検査データ)尿所見：蛋白(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球439万、Hb 12.0g/dL、白血球4,200、血小板15万。血液生化学所見：尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL。免疫血清学所見：CRP 0.1mg/dL、リウマトイド因子〈RF〉80IU/mL(基準20未満)、抗核抗体1,280倍(基準20以下)、抗dsDNA抗体23IU/mL(基準12以下)、抗Sm抗体陽性、抗RNP抗体陽性、抗SS-A抗体陽性、抗リン脂質抗体陰性、血清補体値(CH<sub>50</sub>)35U/mL(基準30~40)、C3 84mg/dL(基準52~112)、C4 29mg/dL(基準16~51)。診察の結果、妊娠は可能と判断された。

この患者でみられる自己抗体で妊娠の際に胎児に影響を与える可能性があるのはどれか。

- a 抗Sm抗体                      b 抗RNP抗体                      c 抗SS-A抗体  
d 抗dsDNA抗体                  e リウマトイド因子〈RF〉

119D23

臨床

□□□□□

32歳の女性。甲状腺の検査を希望して来院した。5ヵ月前に第2子を出産した。妊娠前に受けた検査で抗甲状腺ペルオキシダーゼ〈TPO〉抗体強陽性であったため、妊娠期間中にも定期的に甲状腺ホルモン検査を受けていたが、これまでに甲状腺機能の異常を指摘されたことはなく自覚症状もない。体温36.7℃。脈拍92/分、整。血圧126/86mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。びまん性のやや硬い甲状腺腫を触れるが圧痛はない。胸腹部に異常を認めない。尿所見：蛋白(-)、糖(±)、ケトン体(-)。血液所見：赤血球420万、Hb 12.3g/dL、Ht 40%、白血球6,700、血小板21万。血液生化学所見：アルブミン4.0g/dL、AST 13U/L、ALT 15U/L、クレアチニン0.4mg/dL、TSH 0.02 μU/mL未満(基準0.4~4.0)、FT<sub>4</sub> 2.3ng/dL(基準0.8~1.8)。CRP 0.1mg/dL。

この時点での方針で正しいのはどれか。

- a 抗甲状腺薬を投与する。                      b 甲状腺亜全摘術を行う。  
c 無機ヨウ素を投与する。                      d グルココルチコイドを投与する。  
e 2~4週間後に甲状腺機能を再検する。



119D27

臨床

□□□□□

87歳の男性。嘔吐と体重減少を主訴に来院した。1ヵ月前から食物の飲み込みにくさや悪心を自覚するようになった。徐々に食事摂取が困難となり、最近では1日に何度も嘔吐し、体重は1ヵ月で4kg減少したため受診した。喫煙は20本/日を60年間。飲酒は焼酎2合/日を50年間。意識は清明。身長170cm、体重48kg。体温36.4℃。脈拍80/分、整。血圧124/62mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。食道造影では水溶性造影剤の通過が遅延し、食道中部に高度の不整狭窄像を認めた。上部消化管内視鏡検査で胸部中部食道癌と診断したが、狭窄部は内視鏡での通過が不可能であった。

経口摂取を可能とするための適切な対応はどれか。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| a 口腔ケア        | b 食道ステント留置術   |
| c 内視鏡的筋層切開術   | d 嚥下リハビリテーション |
| e 経皮内視鏡的胃瘻造設術 |               |

119D28

臨床

□□□□□

63歳の女性。呼吸困難と意識障害を主訴に夫に連れられて夜間救急外来を受診した。2年前から右下肢が上がりやすく転倒するようになり、1年前には右上肢の筋力低下が出現した。線維束性収縮を伴う右優位の四肢の筋力低下と筋萎縮を認め、各種検査の結果、筋萎縮性側索硬化症(ALS)と診断され、病名の告知を受けた。この時点では肺活量、血液ガス分析の結果は正常であったが、将来の呼吸器の導入について本人、夫と主治医が話し合いを重ね、必要時には気管切開の後、人工呼吸器を装着する方針となった。6ヵ月前から食事に時間がかかり嚥下障害も目立つようになった。1ヵ月前の肺活量では%VCが58%であった。本日の朝から呼吸困難の訴えがあり、呼びかけへの反応が徐々に鈍くなったため夫に連れられて受診した。意識は傾眠状態。身長160cm、体重38kg。体温36.9℃。脈拍80/分、整。血圧172/76mmHg。呼吸数20/分。四肢の筋萎縮に加えて舌萎縮を認める。動脈血ガス分析(room air)：pH 7.37, PaCO<sub>2</sub> 67Torr, PaO<sub>2</sub> 58Torr, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 38mEq/L。主治医と以前に決定していた治療方針に関する意思決定に変わりがないことを救急外来担当医が夫に確認した。

適切な対応はどれか。

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| a 筋力増強訓練実施         | b エダラボン静注開始 |
| c 翌日の再受診を指示        | d リルゾール内服開始 |
| e 非侵襲的陽圧換気(NPPV)開始 |             |

119D29

臨床

□□□□□

47歳の男性。咽頭痛を主訴に来院した。3日前から咽頭痛があり、今朝から唾液の飲み込みが困難になり、息苦しさも感じるようになったため受診した。体温38.0℃。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub> 93%(room air)。含み声があり、頸部聴診で喘鳴を認める。喉頭内視鏡像(別冊No.60)を別に示す。

まず行うべき対応はどれか。

- |            |           |        |
|------------|-----------|--------|
| a NSAIDの投与 | b 胃管挿入    | c 気道確保 |
| d 抗菌薬の投与   | e 自宅安静の指示 |        |

別冊  
No. 60







119D37

臨床

□□□□□

3歳の男児。低身長を主訴に母親に連れられて来院した。3歳児健康診査で低身長(-3.0SD)を指摘されたため受診した。在胎37週1日、体重2,460g、身長45.0cmで出生した。既往歴に特記すべきことはない。家族の身長は、父親168cm、母親156cm、姉(6歳)110cm。本人は身長82.1cm、体重9.5kg、体温36.5℃。口腔内に異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。血液生化学所見:総蛋白7.3g/dL、アルブミン4.3g/dL、AST 31U/L、ALT 15U/L、LD 221U/L(基準190~365)、ALP 450U/L(基準420~1,200)、CK 60U/L(基準43~270)、尿素窒素12mg/dL、クレアチニン0.3mg/dL、総コレステロール178mg/dL、トリグリセリド53mg/dL、Na 137mEq/L、K 4.3mEq/L、Cl 106mEq/L、Ca 9.4mg/dL、P 4.5mg/dL、TSH 2.9  $\mu$ U/mL(基準0.2~4.0)、FT<sub>3</sub> 3.8pg/mL(基準2.3~4.3)、FT<sub>4</sub> 1.0ng/dL(基準0.8~2.2)、インスリン様成長因子-I(IGF-I) 69ng/mL(基準155~588)。頭部MRIで異常を認めない。成長曲線(別冊No.63A)と、アルギニンによるGH分泌負荷試験の結果(別冊No.63B)とを別に示す。グルカゴンによるGH分泌負荷試験の結果も同様であった。

診断はどれか。

- |   |                   |
|---|-------------------|
| a 軟骨無形成症                                | b 家族性低身長症         |
| c 甲状腺機能低下症                              | d 成長ホルモン分泌不全性低身長症 |
| e SGA (small-for-gestational-age) 性低身長症 |                   |

別冊  
No. 63 A,B

119D38

臨床

□□□□□

47歳の女性(2妊2産)。下腹部痛と発熱を主訴に来院した。2日前から38℃台の発熱があり、昨日から下腹部痛も出現したため受診した。最終月経は2週間前。38歳時に右卵巣子宮内膜症性嚢胞の診断で、右付属器摘出術を受けた。3年前に離婚し、現在は別のパートナーと同居している。身長155cm、体重52kg。体温38.3℃。脈拍84/分、整。血圧120/80mmHg。腹部は平坦、腸雑音は異常を認めない。触診で下腹部は硬く、左下腹部に圧痛と反跳痛を認める。内診では、子宮頸部の移動痛を認める。妊娠反応陰性。血液所見:赤血球430万、Hb 12.9g/dL、Ht 38%、白血球16,500(桿状核好中球12%、分葉核好中球75%、好酸球1%、単球3%、リンパ球8%)、血小板33万。血液生化学所見:AST 25U/L、ALT 10U/L、ALP 110U/L(基準38~113)、アミラーゼ49U/L(基準44~132)。CRP 9.5mg/dL。経陰超音波検査で左付属器領域に径6×3cmの2房性腫瘤を認める。受診時の腹部造影CT(別冊No.64)を別に示す。

診断はどれか。

- |         |         |       |
|---------|---------|-------|
| a 便秘    | b 大腸癌   | c 卵巣癌 |
| d 大腸憩室炎 | e 卵管留膿症 |       |

別冊  
No. 64

119D39

臨床

□□□□□

75歳の男性。腎機能低下のため来院した。20年前に高血圧症と糖尿病、10年前から糖尿病腎症と骨粗鬆症、2年前から腎性貧血を指摘され、自宅近くの診療所で複数の内服薬および皮下注射による治療を受けている。2週間前から全身倦怠感が出現し、血液検査で、クレアチニンが1ヵ月前の2.0mg/dLから3.0mg/dLへ上昇したため、紹介受診した。身長165cm、体重70kg。脈拍72/分、整。血圧146/80mmHg。両下肢に軽度の浮腫を認める。尿所見：蛋白3+、糖1+、潜血(-)。血液所見：赤血球320万、Hb 10.0g/dL、Ht 29%、白血球6,300。血液生化学所見：総蛋白5.8g/dL、アルブミン3.4g/dL、尿素窒素48mg/dL、クレアチニン3.2mg/dL、血糖138mg/dL、HbA1c 7.0% (基準4.9~6.0)、Na 142mEq/L、K 4.5mEq/L、Ca 12.1mg/dL、P 4.0mg/dL。動脈血ガス分析 (room air)：pH 7.41、PaCO<sub>2</sub> 36Torr、PaO<sub>2</sub> 90Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 21mEq/L。

この患者の治療薬で中止すべきなのはどれか。

- a ループ利尿薬                      b カルシウム拮抗薬                      c 重炭酸ナトリウム  
d エリスロポエチン製剤              e 活性型ビタミンD製剤

119D40

臨床

□□□□□

6歳の女兒。腰痛を主訴に母親に連れられて来院した。2週間前から腰痛が出現し、徐々に歩行困難となったため受診した。意識は清明。身長115cm、体重20kg。体温36.2℃。脈拍88/分、整。血圧88/60mmHg。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。眼瞼結膜は貧血様で、眼球結膜に黄染を認めない。咽頭に発赤を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。背部に発赤や腫脹を認めない。胸腰椎移行部に圧痛と叩打痛を認める。血液所見：赤血球298万、Hb 8.2g/dL、Ht 26%、網赤血球2%、白血球2,700 (分葉核好中球17%、好酸球1%、好塩基球1%、単球4%、リンパ球66%、芽球11%)、血小板5.9万。血液生化学所見：総蛋白6.7g/dL、AST 45U/L、ALT 19U/L、LD 465U/L (基準170~320)、ALP 680U/L (基準460~1,250)、尿素窒素19mg/dL、クレアチニン0.4mg/dL、尿酸6.8mg/dL、Ca 9.8mg/dL、P 4.7mg/dL。CRP 1.7mg/dL。脊椎X線写真 (別冊No.65) を別に示す。

基礎疾患の確定診断に有用な検査はどれか。

- a 骨髄検査                              b 腰椎MRI                              c 脳脊髄液検査  
d 骨シンチグラフィ                  e 腰椎骨塩定量検査

別冊  
No. 65

119D41

臨床

□□□□

26歳の男性。右膝関節の可動域制限を主訴に来院した。3ヵ月前にハンドボールの練習中に右膝を捻って痛みを感じたが、医療機関の受診はしなかった。約1週間で疼痛はなくなった。2ヵ月前から身体の向きを変える時や、しゃがんだ状態から立ち上がる時などに右膝がガクツとして曲がったまま伸ばせないことが頻発するようになった。身長168cm、体重62kg。入室時の歩容は右膝軽度屈曲位で、跛行を認める。右膝関節に腫脹を認める。発赤と熱感はない。右膝関節外側に圧痛を認める。右膝関節可動域：伸展 $-30^{\circ}$ 、屈曲 $130^{\circ}$ （健側は伸展 $0^{\circ}$ 、屈曲 $140^{\circ}$ ）。前方引き出しテスト陽性。右膝MRIの脂肪抑制T2\*強調冠状断像（別冊No.66A）と脂肪抑制プロトン密度強調矢状断像（別冊No.66B）とを別に示す。

適切な治療はどれか。

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| a ギプス固定               | b NSAID内服      |
| c 関節鏡下手術              | d 理学療法士による伸展訓練 |
| e ヒアルロン酸ナトリウム製剤の関節内投与 |                |

別 冊  
No. 66 A,B

119D42

臨床

□□□□

68歳の男性。血糖コントロール及び合併症の精査のため紹介受診した。糖尿病は55歳時に指摘され、自宅近くの医療機関で血糖降下薬を処方されており、3年前からは注射薬への変更を勧められていたが、内服薬を継続していた。眼科で単純網膜症を指摘されており、歯科で歯周病の治療を行っている。身長168cm、体重64kg。体温 $36.4^{\circ}\text{C}$ 。脈拍60/分、整。血圧132/80mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。四肢に浮腫を認めない。腱反射はアキレス腱反射のみ両側で減弱を認め、両下肢内顆の振動覚の低下を認める。血液所見：赤血球468万、Hb 13.9g/dL、Ht 42%、白血球12,300、血小板21万。血液生化学所見：アルブミン3.9g/dL、AST 28U/L、ALT 26U/L、 $\gamma$ -GT 62U/L（基準13~64）、尿素窒素12mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL、尿酸6.9mg/dL、血糖168mg/dL、HbA1c 7.8%（基準4.9~6.0）、総コレステロール216mg/dL、トリグリセリド160mg/dL、HDLコレステロール42mg/dL、Na 136mEq/L、K 4.4mEq/L、Cl 97mEq/L。心電図に異常を認めない。

この患者の腎合併症評価に必要な尿検査項目はどれか。

- |           |                           |         |
|-----------|---------------------------|---------|
| a 尿潜血     | b 尿比重                     | c 尿ケトン体 |
| d 尿中アルブミン | e 尿中 $\beta_2$ -マイクログロブリン |         |

119D43

臨床

□□□□□

33歳の女性(0妊0産)。下腹部痛と過多月経を主訴に来院した。5ヵ月前から月経血量の増加と下腹部鈍痛が増悪し、早期の挙児希望もあるため受診した。2年前から避妊はしていない。月経周期は28日型、整、持続7日間。20年前から月経痛で市販の鎮痛薬を服用している。身長158cm、体重53kg。体温36.0℃。脈拍76/分、整。血圧112/72mmHg。内診で子宮は弾性硬で約10cmに腫大し、両側付属器は触知しない。血液所見：赤血球340万、Hb 8.4g/dL、Ht 28%、白血球6,200、血小板27万。血液生化学所見：総蛋白6.3g/dL、AST 23U/L、ALT 20U/L、LD 175U/L(基準124~222)、CA125 46U/mL(基準35以下)。骨盤部単純MRIのT2強調矢状断像(別冊No.67)を別に示す。

適切な治療はどれか。

- a 子宮全摘出術                      b 子宮動脈塞栓術                      c 子宮内容除去術  
d 子宮頸部円錐切除術              e 腹腔鏡下子宮筋腫核出術

別冊  
No. 67

119D44

臨床

□□□□□

73歳の女性。発熱を主訴に来院した。自宅近くの医療機関で甲状腺機能亢進症と診断され、1ヵ月前から抗甲状腺薬を服用していた。5日前から37℃台の発熱と感冒様症状が出現し、2日前から39℃台の発熱が継続するため受診した。意識は清明。体温39.2℃。脈拍84/分、整。血圧108/62mmHg。呼吸数23/分。SpO<sub>2</sub> 94% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭に軽度の発赤を認める。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球370万、Hb 11.1g/dL、Ht 32%、白血球1,200(分葉核好中球1%、好酸球0%、好塩基球0%、単球21%、リンパ球78%)、血小板26万。血液生化学所見：AST 32U/L、ALT 26U/L、LD 147U/L(基準124~222)、 $\gamma$ -GT 37U/L(基準9~32)、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL、TSH 0.2  $\mu$ U/mL以下(基準0.2~4.0)、FT<sub>3</sub> 4.2pg/mL(基準2.3~4.3)、FT<sub>4</sub> 1.9ng/dL(基準0.8~2.2)。CRP 27mg/dL。

まず行うべき処置はどれか。

- a 顆粒球輸血                      b 抗菌薬の投与                      c 抗真菌薬の投与  
d 抗甲状腺薬の継続              e 抗ウイルス薬の投与

119D45

臨床

□□□□□

48歳の女性。頭痛を主訴に来院した。病歴、身体所見から緊張型頭痛と診断された。鼻茸があり、40歳ころに気管支喘息と診断され、血液検査で好酸球増多を認めている。2年前に鎮痛薬を内服して、重篤な発作を起こし、気管挿管されたことがある。現在は定期的に通院しておらず、呼吸困難時のみ気管支拡張薬を吸入している。

この患者の頭痛でまず投与すべき薬剤はどれか。

- a 塩酸モルヒネ                      b インドメタシン                      c メトトレキサート  
d アセトアミノフェン              e グルココルチコイド

119D46

臨床

□□□□

55歳の男性。息切れを主訴に来院した。2年前から階段を昇る際に息切れを自覚していたが、そのままにしていた。ここ1ヵ月は平地歩行でも息切れを自覚するようになった。喫煙は40本/日を35年。

この患者への説明で正しいのはどれか。

- a 「加熱式たばこに切り替えてください」    b 「禁煙するまで受診しないでください」  
 c 「すぐに入院して禁煙治療を開始します」    d 「たばこを1日20本までにしてください」  
 e 「たばこは息切れを起こす病気の原因になります」

119D47

臨床

□□□□

55歳の男性。胸痛と嘔吐を主訴に来院した。3日前から感冒様症状があり市販の総合感冒薬で様子を見ていたが、発熱と倦怠感が改善しなかった。本日午前中に15分程度の胸痛があり、その後2回嘔吐したため受診した。意識は清明。体温37.6℃。脈拍96/分、整。血圧106/58mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 94% (room air)。咽頭に軽度の発赤を認める。頸静脈の怒張を認める。心音に異常は認めない。呼吸音はcoarse cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音に異常を認めない。下腿に浮腫を認める。血液所見：赤血球460万、Hb 13.3g/dL、Ht 42%、白血球12,800、血小板21万。血液生化学所見：AST 35U/L、ALT 35U/L、LD 286U/L (基準124～222)、CK 488U/L (基準59～248)、尿素窒素12mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、血糖86mg/dL、BNP 1,289pg/mL (基準18.4以下)。免疫血清学所見：CRP 2.3mg/dL。心筋トロポニンT迅速検査陽性。12誘導心電図(別冊No.68A)と胸部X線写真(別冊No.68B)とを別に示す。

この患者の診断に必要な性が低い検査はどれか。

- a 心筋生検                                    b 心臓MRI                                    c 心エコー検査  
 d 冠動脈造影検査                            e MIBG交感神経心筋シンチグラフィ

別冊  
No. 68 A,B

119D48

臨床

□□□□

52歳の男性。疲れやすく、仕事に頭が回らないことを主訴に妻とともに来院した。5年前から、週に数回、就寝後約2時間すると大声をあげるようになり、起き上がって家具を倒すこともあった。3年前から疲れやすくなり、気分が憂うつになった。2年前から仕事に頭が回らず、集中できなくなり、職場の上司から仕事のミス指摘されるようになった。1年前から右手の震えに妻が気付いていた。日中に行動異常はない。薬は服用していない。身長163cm、体重56kg。Mini-Mental State Examination (MMSE) は29点(30点満点)。嗅覚が低下している。表情は乏しく、小声で、前傾姿勢が強い。右上肢に静止時振戦と筋強剛を認める。血液所見、血液生化学所見、脳波検査および頭部単純MRIに異常を認めない。

この患者にみられるのはどれか。

- a チック                                        b 常同行動                                    c 舞踏運動  
 d 複雑部分発作                                e レム(REM)睡眠行動障害

119D49

臨床

□□□□□

25歳の女性。突然の動悸、発汗、呼吸困難および窒息感の出現を主訴に来院した。1ヵ月前、車を運転中に主訴が出現したため病院を受診し、血液検査、心電図検査および胸部X線撮影を受けたが異常は指摘されなかった。その後も、自宅で静養中に同様の症状が5回あったため、外出を控えるようになっていく。受診時、意識は清明、受け答えもしっかりしている。仕事は在宅でしているという。

治療薬はどれか。

- a  $\alpha$ 遮断薬                      b 抗コリン薬                      c 抗ヒスタミン薬  
d ドパミン受容体遮断薬      e 選択的セロトニン再取込み阻害薬 (SSRI)

119D50

臨床

□□□□□

18歳の女子。初経がないことを心配して来院した。身長170cm、体重60kg。体温36.4℃。脈拍68/分、整。血圧118/70mmHg。呼吸数16/分。乳房発育はTanner IV度。腋毛を認めない。外性器は女性型で陰毛はTanner I度。内診で膣は4cmの盲端で子宮腔部を認めない。左側鼠径部に径2cmの腫瘤を触知する。血液生化学所見：LH 20mIU/mL (基準1.8~7.6)、FSH 8.2mIU/mL (基準5.2~14.4)、プロラクチン12ng/mL (基準15以下)、エストラジオール40pg/mL (基準25~75)、テストステロン820ng/dL (基準30~90)。

確定診断に最も有用な検査はどれか。

- a 頭部MRI                      b 染色体検査                      c LHRH負荷試験  
d 子宮卵管造影検査          e エストロゲン・プロゲステロン負荷試験

119D51

臨床

□□□□□

26歳の女性。血便と腹痛を主訴に来院した。1週間前に家族で焼き肉を食べた。3日前から血便と腹痛が出現し、自宅で様子を見ていたが改善せず、反応が乏しくなったことを心配した家族に連れられて来院した。健康診断で異常を指摘されたことはない。意識レベルはJCS I -2。身長163cm、体重52kg。体温38.2℃。脈拍96/分、整。血圧96/60mmHg。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。皮膚は乾燥している。腹部は平坦で、腸雑音は減弱している。下腹部正中に軽度の圧痛を認めるが、筋性防御は認めない。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体2+、潜血1+。血液所見：赤血球325万、Hb 9.4g/dL、白血球8,700、血小板5.2万。血液生化学所見：総蛋白7.2g/dL、アルブミン3.8g/dL、総ビリルビン1.0mg/dL、AST 19U/L、ALT 19U/L、LD 326U/L (基準124~222)、尿素窒素50mg/dL、クレアチニン4.2mg/dL、Na 138mEq/L、K 3.1mEq/L、Cl 102mEq/L。CRP 5.0mg/dL。末梢血塗抹標本で破碎赤血球を認める。

診断はどれか。

- a 感染後糸球体腎炎                      b 溶血性尿毒症症候群  
c 急速進行性糸球体腎炎                      d 播種性血管内凝固 (DIC)  
e 全身性エリテマトーデス (SLE)

119D52

臨床

□□□□□

60歳の男性。前立腺癌(T2N0M0)の診断で骨盤内リンパ節郭清を伴うロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術を予定している。

手術前の説明で正しいのはどれか。

- a 「骨盤底筋訓練は術後早期から行います」
- b 「膀胱カテーテルは術後1ヵ月目に抜去します」
- c 「抗菌薬投与は術直前から術後2週間まで行います」
- d 「深部静脈血栓症の予防は術後1日目から行います」
- e 「リンパ浮腫への対策は術後6ヵ月から開始します」

119D53

臨床

□□□□□

73歳の女性。意識障害のため救急車で搬入された。かかりつけ医に高血圧症と2型糖尿病で通院している。2ヵ月前に浮腫に対してサイアザイド系利尿薬を処方された。浮腫は改善したが、2週間前から倦怠感が強くなり、食事が減っていた。今朝から呼びかけへの反応が乏しくなったため、夫が救急車を要請した。意識レベルはJCS II -10。身長152cm、体重47kg。心拍数72/分、整。血圧146/80mmHg。胸腹部に異常を認めない。両下腿に浮腫を認めない。尿所見：蛋白+、潜血(-)。尿中Na 163mEq/L、尿中K 32mEq/L、尿中Cl 190mEq/L。尿浸透圧722mOsm/L(基準50~1,300)。血液所見：赤血球393万、Hb 11.9g/dL、Ht 35%、白血球6,300、血小板17万。血液生化学所見：尿素窒素22mg/dL、クレアチニン1.2mg/dL、血糖86mg/dL、HbA1c 6.6%(基準4.9~6.0)、Na 116mEq/L、K 3.3mEq/L、Cl 89mEq/L。血漿浸透圧240mOsm/L(基準275~288)。

まず行うべき治療はどれか。

- a 飲水制限
- b ループ利尿薬の内服
- c 5%ブドウ糖液の輸液
- d 高張(3%)食塩液の輸液
- e バソプレシンV2受容体拮抗薬の内服

119D54

臨床

□□□□□

日齢3の男児。腹部膨満と胆汁性嘔吐を認めたため産科診療所から紹介され受診した。在胎39週、体重3,300gで出生した。日齢1から母乳を開始し、日齢2から腹部膨満が出現し、夜間から胆汁性嘔吐を認めた。身長52cm、体重3,100g。体温37.2℃。脈拍112/分、整。血圧80/48mmHg。呼吸数30/分。大泉門の軽度陥凹を認めた。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は膨満している。立位の腹部X線写真(別冊No.69A)と注腸造影像(別冊No.69B)とを別に示す。

診断はどれか。

- a 鎖肛
- b 腸回転異常症
- c Hirschsprung病
- d 新生児壊死性腸炎
- e 先天性小腸閉鎖症

別冊  
No. 69 A,B

119D55

臨床

□□□□□

44歳の男性。下腹部痛を主訴に来院した。昨日落馬して会陰部を打撲した後から排尿を認めない。意識は清明。体温36.4℃。脈拍88/分、整。血圧142/86mmHg。会陰部の皮下に出血斑を認める。血液所見：赤血球348万、Hb 11.4g/dL、Ht 33%、白血球8,800、血小板20万。血液生化学所見：総蛋白6.8g/dL、アルブミン3.6g/dL、尿素窒素22mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL。CRP 0.4mg/dL。腹部超音波検査で多量の尿で拡張している膀胱を認める。逆行性尿道造影検査で膀胱は描出されなかった。

適切な対応はどれか。

- a 骨盤MRI                      b 膀胱鏡検査                      c 膀胱瘻造設  
d NSAID投与                      e 膀胱カテーテル留置

119D56

臨床

□□□□□

75歳の女性。急速に進行する認知機能の低下を主訴に来院した。1年前の認知症検診では改訂長谷川式簡易知能評価スケール29点(30点満点)であった。6週間前ごろに目の前にある眼鏡がないと騒ぐようになった。同時期から歩行が不安定となった。5週間前には自分の名前が言えなくなり、4週間前には自身の足から何かを払いのけるような動作がみられるようになった。3週間前には会話と歩行ができなくなった。1週間前からはほぼ寝たきりとなり、時々全身をぴくつかせる運動がみられるようになった。食事も摂れなくなったため家族とともに受診した。頭部単純MRIの拡散強調像(別冊No.70)を別に示す。

診断はどれか。

- a 結核性髄膜炎                      b 単純ヘルペス脳炎                      c Lewy小体型認知症  
d Creutzfeldt-Jakob病                      e 進行性多巣性白質脳症

別冊  
No. 70



119D59

臨床

□□□□□

53歳の女性。心窩部痛と食欲不振を主訴に来院した。1ヵ月前に心窩部痛が出現し、1週間前から食欲不振を伴うようになったため受診した。喫煙歴と飲酒歴はない。身長152cm、体重49kg。体温37.0℃。脈拍76/分、整。血圧116/68mmHg。眼球結膜に黄染を認める。心窩部に圧痛を認めるが、筋性防御は認めない。血液所見：赤血球388万、Hb 12.4g/dL、Ht 36%、白血球5,180、血小板16万。血液生化学所見：総蛋白6.6g/dL、アルブミン4.0g/dL、総ビリルビン6.0mg/dL、直接ビリルビン4.8mg/dL、AST 38U/L、ALT 36U/L、LD 176U/L（基準124～222）、ALP 2051U/L（基準38～113）、 $\gamma$ -GT 180U/L（基準9～32）、アミラーゼ63U/L（基準44～132）、CK 38U/L（基準41～153）、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.5mg/dL、尿酸3.9mg/dL、血糖103mg/dL、HbA1c 5.9%（基準4.9～6.0）。CEA 0.3ng/mL（基準5以下）、CA19-9 73U/mL（基準37以下）。免疫血清学所見：HBs抗原陰性、HCV抗体陰性。MRCP像（別冊No.72）を別に示す。

この患者の閉塞性黄疸の原因はどれか。

- a 胆嚢癌                                      b 肝細胞癌                                      c 膵頭部癌  
d 肝門部胆管癌                              e 十二指腸乳頭部癌

別冊  
No. 72

119D60

臨床

□□□□□

81歳の女性。右胸部痛を主訴に救急車で搬入された。自宅の階段で5段の高さから転落し、右胸部をぶつけ倒れているところを家族に発見された。痛みで立ち上がれないため、家族が救急車を要請した。意識は清明。体温36.6℃。心拍数88/分、整。血圧136/78mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub> 92%（room air）。動揺胸郭を認めない。心音に異常を認めない。右胸部の呼吸音が対側と比べ減弱している。右前胸部から側胸部にかけて皮下気腫を認める。胸部単純CT（別冊No.73）を別に示す。

まず行うべき治療はどれか。

- a 開胸止血術                                      b 肋骨固定術                                      c 胸腔ドレナージ  
d 人工呼吸器管理                                      e 心嚢ドレナージ

別冊  
No. 73





119D67

臨床

□□□□

53歳の男性。10日前からの発熱を主訴に来院した。海外渡航歴はない。意識は清明。体温38.4℃。脈拍96/分、整。血圧116/70mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で圧痛を認めないが、右季肋部に叩打痛を認める。血液所見：赤血球468万、Hb 13.9g/dL、白血球21,900、血小板28万。血液生化学所見：総ビリルビン1.2mg/dL、AST 125U/L、ALT 83U/L、LD 338U/L（基準124～222）、 $\gamma$ -GT 163U/L（基準13～64）。CRP 29mg/dL。腹部造影CT（別冊No.76）を別に示す。超音波ガイド下に穿刺し、得られた液体は無臭でアンチヨビペースト状であった。血液および穿刺液の培養で細菌は検出されなかった。

この患者の感染経路を確認する上で重要な質問はどれか。

- a 「覚醒剤を使ったことはありますか」      b 「キツネを触ったことはありますか」  
 c 「ダニに咬まれたことはありますか」      d 「同性間で性交渉をしたことはありますか」  
 e 「シカやイノシシなどの獣肉を食べたことはありますか」

別冊  
No. 76

119D68

臨床

□□□□

65歳の男性。徐々に増大する左頸部の腫瘍と嚥下障害を主訴に来院した。喫煙は20本/日を30年間。飲酒は日本酒4合/日を45年間。左頸部に径2.5cmのリンパ節を触知し、同部位の穿刺吸引細胞診で扁平上皮癌と診断された。喉頭内視鏡像（別冊No.77）を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 喉頭癌                                      b 上咽頭癌                                      c 中咽頭癌  
 d 下咽頭癌                                      e 頸部食道癌

別冊  
No. 77

119D69

臨床

□□□□

28歳の女性。動悸を主訴に来院した。午前10時ごろ、事務工作中に突然、動悸を自覚した。安静にしても症状が治まらないため受診した。過去に学校健診で心電図異常を指摘され、当院を受診したが経過観察となっていた。その時の12誘導心電図（別冊No.78A）を別に示す。既往歴に気管支喘息があり、吸入薬を使用しているが、年に数回発作を繰り返している。意識は清明。体温36.2℃。脈拍164/分、整。血圧120/82mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 99% (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。来院時の12誘導心電図（別冊No.78B）を別に示す。

まず最初に行うべき対応はどれか。

- a 電気ショック                                      b Valsalva手技  
 c ジゴキシン投与                                      d 硫酸マグネシウム投与  
 e アデノシン三リン酸投与

別冊  
No. 78 A,B



119D73

臨床

□□□□□

53歳の男性。右眼の視力低下を主訴に来院した。2ヵ月前から右眼が見えにくくなり、様子を見ていたが改善しないため来院した。多忙のため、20年来、医療機関を受診していない。意識は清明。身長172cm、体重68kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧162/90mmHg。視力は右が眼前手動弁（矯正不能）、左0.1（0.6×-3.0D）。眼圧は右18mmHg、左20mmHg。両眼の前眼部に異常を認めない。右の眼底は透見不能である。左の眼底写真（別冊No.81A）と蛍光眼底造影写真（別冊No.81B）とを別に示す。尿所見：蛋白2+、糖4+、ケトン体（-）、潜血（-）。血液生化学所見：総蛋白5.9g/dL、アルブミン3.3g/dL、尿素窒素20mg/dL、クレアチニン1.3mg/dL、血糖255mg/dL、HbA1c 11.4%（基準4.9～6.0）。

まず行うべき治療はどれか。2つ選べ。

- a 白内障手術                      b 汎網膜光凝固                      c 血糖コントロール  
d ステロイドパルス療法        e 副腎皮質ステロイド点眼

別冊  
No. 81 A,B

119D74

臨床

□□□□□

38歳の経産婦（4妊2産）。妊娠28週で周産期管理を目的に自宅近くの医療機関から周産期母子医療センターを紹介され受診した。30歳および33歳時に、それぞれ骨盤位および既往帝王切開の適応で選択的帝王切開術が施行され、36歳時に稽留流産に対し子宮内容除去術が施行されている。今回は、続発性不妊症に対し生殖補助医療が実施され、妊娠した。妊娠32週に行われた骨盤MRIのT2強調矢状断像（別冊No.82）を別に示す。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 前置血管                              b 前置胎盤                              c 癒着胎盤  
d 絨毛膜下血腫                        e 常位胎盤早期剝離

別冊  
No. 82

119D75

臨床

□□□□□

54歳の男性。健康診断で肝障害を指摘され来院した。自覚症状はない。喫煙は1年前まで加熱式たばこを20本/日。飲酒はビール350mL/日を週に2～3回。職業はデスクワークが主体の会社員で、午前7時に起床し自家用車で通勤している。昼食は麺類を好んで食べている。夕食は午後9時過ぎに自宅で食べ、午後11時ごろに就寝している。既往歴に特記すべきことはない。身長171cm、体重82kg、腹囲98cm。脈拍84/分、整。血圧134/80mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。健康診断時の血液生化学所見：AST 60U/L、ALT 82U/L、 $\gamma$ -GT 90U/L（基準13～64）、尿酸6.8mg/dL、血糖98mg/dL、トリグリセリド346mg/dL、HDLコレステロール42mg/dL、LDLコレステロール128mg/dL。免疫血清学所見：HBs抗原陰性、HCV抗体陰性。腹部超音波検査では肝腎コントラストの増強を認めた。

この患者に対する指導で正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 「体重を減らしましょう」
- b 「栄養指導を受けましょう」
- c 「身体活動量を増やしましょう」
- d 「もう少し早めに就寝しましょう」
- e 「まず中性脂肪を下げる薬を飲みましょう」



◎指示があるまで開かないこと。

(令和7年2月9日 13時35分～15時10分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

(1) (例1)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医師免許を付与するのはどれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

(例1)の正解は「b」であるから答案用紙の**(b)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)  
 ↓  
 101 (a) (b) (c) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	(c) →
(d)	(d)
(e)	(e)

119E1

一般

□□□□

症候と疾患の組合せで誤っているのはどれか。

- a 排尿障害 ————— 腰部脊柱管狭窄症
- b 歩行障害 ————— 頸椎性脊髄症
- c 腰背部痛 ————— 解離性大動脈瘤
- d 下肢の冷感 ————— 深部静脈血栓症
- e 膝関節腫脹 ————— 偽痛風

119E2

一般

□□□□

不当な差別，偏見その他の不利益が生じないように，その取扱いに特に配慮を要する個人情報とはどれか。

- a 学 歴            b 国 籍            c 病 歴            d 肌の色            e 職業的地位

119E3

一般

□□□□

医療倫理の4原則に含まれないのはどれか。

- a 正義            b 善行            c 無危害            d 自律尊重            e 共同意思決定

119E4

一般

□□□□

性感染症が疑われる患者に対して，性交渉歴に関する病歴聴取を行う場合に正しいのはどれか。

- a 初診時には聴取をしない。            b 性交渉相手の人数を確認する。
- c 未成年の患者では保護者を同席させる。            d 配偶者との性交渉については聴取しない。
- e 経口避妊薬を服用している患者には聴取しない。

119E5

一般

□□□□

ナルコレプシーの患者の訴えはどれか。

- a 「会議中に突然眠ってしまいます」
- b 「毎日，明け方になるまで眠れません」
- c 「毎晩，眠れないのではないかと不安になります」
- d 「眠っている間に足がぴくぴく動いていると妻に言われます」
- e 「夜中に知らないうちに冷蔵庫の中のもの食べているみたいです」

119E6

一般

□□□□□

腰椎穿刺法による脳脊髄液検査を行う。

成人患者への説明で誤っているのはどれか。

- a 「うつぶせの姿勢で行います」                      b 「事前に血液検査を行います」  
 c 「下肢に痛みが走ることがあります」              d 「事前に眼底検査か頭部画像検査を行います」  
 e 「検査後に立位で悪化する頭痛が起きることがあります」

119E7

一般

□□□□□

医師のプロフェッショナルリズムで誤っているのはどれか。

- a 科学的根拠を追究する。                              b 自己の利益を追求する。  
 c 社会のニーズに応える。                              d 患者の感情に共感を示す。  
 e 医療資源の有限性に配慮する。

119E8

一般

□□□□□

ある患者の採血結果で、血清K値が7.0mEq/Lであると検査室から連絡があった。

血液検査の再検に加えて、まず行うべき検査はどれか。

- a 血糖測定    b 腹部単純CT    c 心エコー検査  
 d 12誘導心電図検査                                      e 胸部X線撮影

119E9

一般

□□□□□

強迫性障害（強迫症）の患者にみられる強迫行為で正しいのはどれか。

- a 症状に日内変動がある。  
 b 強迫行為中の記憶がない。  
 c 患者は強迫行為を合理的であると考えている。  
 d 「手を洗いなさい」などの命令性幻聴に従って行われる。  
 e 強迫観念によって生じる不安を予防あるいは緩和する目的で行われる。

119E10

一般

□□□□□

チーム医療で正しいのはどれか。

- a 事務職員も参加できる。  
 b 医師の指示が最優先される。  
 c 医療機関の経営業績の向上が目的である。  
 d チーム全員の意見が一致する必要がある。  
 e 単一の医療機関内で完結することが推奨されている。

119E11

一般

□□□□

腎盂腎炎の診察に有用なのはどれか。

- a 振水音の聴診                      b Traube三角の打診                      c 鼠径リンパ節の触診  
d 腹部血管雑音の聴診              e 肋骨脊柱角の叩打診

119E12

一般

□□□□

手指のX線写真(別冊No.83①～⑤)を別に示す。

骨折を認めるのはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

別 冊  
No. 83 ①～⑤

119E13

一般

□□□□

症候と疾患の組合せで正しいのはどれか。

- a 嚙下障害 ————— 睪 炎  
b 黄 疸 ————— 腸閉塞  
c 吐 血 ————— 潰瘍性大腸炎  
d 腹部膨隆 ————— 胃食道逆流症  
e 便通異常 ————— 過敏性腸症候群

119E14

一般

□□□□

長時間の碎石位による合併症で誤っているのはどれか。

- a 視力障害                      b 下肢の神経損傷                      c 深部静脈血栓症  
d 接地部の圧迫性潰瘍              e 体位解除後の低血圧

119E15

一般

□□□□

喫煙と関連が乏しいのはどれか。

- a 歯周病                      b 大動脈瘤                      c 1型糖尿病  
d 冠動脈疾患                      e 慢性閉塞性肺疾患

119E16

一般

□□□□

小脳機能の評価に用いないのはどれか。

- a 膝踵試験                      b 指鼻試験                      c 鼻指鼻試験  
d 回内回外試験                      e 上肢Barré試験

119E17

一般

□□□□□

最も多くの遺伝子を含む染色体はどれか。

- a 1番染色体                      b 16番染色体                      c 18番染色体  
d 21番染色体                      e X染色体

119E18

一般

□□□□□

皮膚開放創の消毒に用いることができるのはどれか。

- a エタノール                      b グルタルアルデヒド                      c 次亜塩素酸ナトリウム  
d ポビドンヨード                      e ホルマリン

119E19

一般

□□□□□

幻覚を強く示唆する患者の発言はどれか。

- a 「(人から見られている場面で) とても緊張します」  
b 「(道を歩きながら) 知らない人が私を見て笑うのです」  
c 「(通常の食事をしながら) 砂を噛んでいるように感じます」  
d 「(天井のしみを見ながら) あれは私を殺そうとしているサインです」  
e 「(鳴っていない携帯電話を見せながら) 今もこの電話の着信音がやまないのです」

119E20

一般

□□□□□

鼠径部レベル以下の全感覚消失の脊髄損傷レベルはどれか。

- a 第4頸髄                      b 第5胸髄                      c 第10胸髄  
d 第1腰髄                      e 脊髄円錐部

119E21

一般

□□□□□

喀痰検体で質が低いのはどれか。

- a うがいをした後に採取した検体                      b 喀痰の膿性部分が入っている検体  
c 食塩水吸入で誘発して採取した検体                      d Gram染色の鏡検で白血球が多い検体  
e Gram染色の鏡検で上皮細胞が多い検体

119E22

一般

□□□□□

生活習慣の改善を促すために有効なアプローチはどれか。

- a 解釈モデルを確認する。                      b 行動目標は医師主導で設定する。  
c 患者が不安になる情報提供は控える。                      d 専門用語を積極的に用いて説明する。  
e 標準化された指導内容を画一的に行う。

119E23

一般

□□□□

ある検査における Receiver Operating Characteristic (ROC) 曲線 (別冊No.84) を別に示す。これを参考にカットオフ値を設定することとした。

偽陰性率が最も低いのはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

別冊  
No. 84

119E24

一般

□□□□

ある患者の処方箋 (別冊No.85) を別に示す。

この患者が1日に服用する錠剤の個数はどれか。

- a 1                      b 2                      c 3                      d 4                      e 5

別冊  
No. 85

119E25

一般

□□□□

薬物投与で皮疹が出現した場合に、添付文書でまず確認するのはどれか。

- a 効能又は効果                      b 用法及び用量                      c 相互作用  
d 副作用                      e 薬物動態

119E26

臨床

□□□□

42歳の男性。職場の健康診断で①高血圧を指摘され来院した。仕事は②事務職で、1年前から仕事が忙しく、③過食気味で体重が8kg増加した。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。飲酒はビール350mL/日。身長172cm、体重80kg。④脈拍72/分、整。血圧144/92mmHg。身体診察に異常を認めない。血液生化学所見：血糖72mg/dL、HbA1c 5.8% (基準4.9～6.0)、トリグリセリド190mg/dL、HDLコレステロール62mg/dL、⑤LDLコレステロール146mg/dL。体重の減量を目的に食事療法を行う。

下線部のうち、推定エネルギー必要量 (kcal/日) の算出に必要なのはどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

119E27

臨床

□□□□□

65歳の女性。右変形性膝関節症のため、右人工膝関節置換術が予定されている。術前評価のため受診した。6ヵ月前から右膝の痛みが出現し、徐々に悪化し、歩けなくなった。整形外科を受診し、手術適応となった。3ヵ月前に乳癌の手術を受け、薬物による抗癌治療中である。仕事は事務職でデスクワークが主体である。意識は清明。身長149cm、体重68kg。体温36.0℃。脈拍84/分、整。血圧150/70mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。右下肢に圧痕性浮腫を認める。血液所見：赤血球414万、Hb 11.3g/dL、Ht 36%、血小板23万、PT-INR 0.9 (基準0.9～1.1)、Dダイマー9.0 μg/mL (基準1.0以下)。血液生化学所見：尿素窒素30mg/dL、クレアチニン2.0mg/dL、血糖105mg/dL、Na 140mEq/L、K 4.6mEq/L、Cl 107mEq/L、Ca 9.2mg/dL。CRP 0.8mg/dL。

この時点で実施すべき検査はどれか。

- a 腹部単純CT                      b 腎シンチグラフィ                      c 下肢動脈造影検査  
d 下肢静脈超音波検査              e 足関節上腕血圧比〈ABI〉

119E28

臨床

□□□□□

80歳の男性。発熱、咳嗽および呼吸困難のため救急車で搬入された。既往歴に脳梗塞があり、右片麻痺と失語がある。体温38.6℃。心拍数108/分、不整。血圧142/100mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub> 90% (鼻カニューラ2L/分 酸素投与下)。右背側にcoarse cracklesを聴取する。検査の結果、肺炎と診断され、抗菌薬投与のため末梢静脈路確保を行うこととした。

この患者の末梢静脈路確保に最も適切な静脈はどれか。

- a 左肘正中皮静脈                      b 右肘正中皮静脈                      c 左橈側皮静脈  
d 右橈側皮静脈                      e 右大伏在静脈

119E29

臨床

□□□□□

65歳の男性。背部痛を主訴に来院した。肺癌の骨転移で治療を受けている。疼痛コントロール目的で入院となった。外来ではモルヒネ徐放製剤を内服していたが、指導医と相談の上、投与経路を皮下注射に変更することになった。塩酸モルヒネ注製剤と生理食塩液を混合して5mg/mLの溶液を調整した。1日投与量を24mg/日としたい。

この注射薬を持続皮下注射する場合の投与速度はどれか。

- a 0.1mL/時間                      b 0.2mL/時間                      c 0.4mL/時間  
d 0.5mL/時間                      e 0.8mL/時間



119E34

臨床

□□□□□

72歳の男性。食道癌で訪問診療を受けている。3年前に食道癌の手術を受けた。6ヵ月前に肺と骨に多発転移が見つかり、余命数ヵ月と告知を受けた。本人の強い希望で積極的な治療はせず、自宅で在宅療養をしている。ここ1ヵ月で嚥下障害が進行し、体重が著しく減少した。本人は訪問診療に訪れた医師に「尊厳死宣言文書」を提示して「痛みがつらくて寝られないから早く死なせて欲しい」と訴えている。家族は本人の意向を尊重したいと言っている。

行うべき対応はどれか。

- a 胃瘻造設                      b 経過観察                      c 筋弛緩薬静注  
d 高カロリー輸液              e 疼痛コントロール

119E35

臨床

□□□□□

①57歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。3日前から咳嗽があり、昨日から発熱、本日から呼吸困難が出現した。②同居家族にも発熱と咳嗽を認める。既往歴に特記すべきことはない。意識レベルはJCS I -3。③体温38.2℃。脈拍104/分、整。血圧110/68mmHg。呼吸数28/分。④SpO<sub>2</sub> 90% (room air)。口腔内と皮膚は乾燥している。⑤右胸部にcoarse cracklesを聴取する。胸部X線写真で右中肺野に浸潤影を認めた。

下線部のうち、意識レベルと口腔内・皮膚所見に加えて入院が必要と判断する要素はどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

119E36

臨床

□□□□□

1歳の男児。灯油を誤飲したため救急車で搬入された。父親が石油ストーブの給油タンクに灯油を入れる準備中に、灯油吸引用ポンプを舐めてしまった。一緒にいた父親が救急車を要請した。意識は清明。体温36.5℃。心拍数120/分、整。血圧90/50mmHg。呼吸数30/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。口腔内から灯油臭がしている。呼吸音に異常を認めない。

父親への説明で適切なのはどれか。

- a 「吐かせましょう」                      b 「胃洗浄をしましょう」  
c 「牛乳を飲ませましょう」              d 「人工呼吸管理にしましょう」  
e 「入院して経過をみましょう」

119E37

臨床

□□□□□

53歳の女性。脂質異常症と診断され、食事療法と運動療法を行っている。本日の外来までに2ヵ月で体重は1kg減ったものの脂質異常は改善せず、担当医は患者と相談し脳血管障害を予防するために内服薬を開始することとした。患者は「脳卒中にはなりたくない。でも治療費はなるべく低く抑えたい。」と言っている。

脂質異常症に対する内服薬の脳血管障害発症予防効果および年間薬剤費の表を示す。なお、脂質異常症に対する効果はいずれの内服薬も同程度とする。

内服薬	脳血管障害の発症率	年間薬剤費
①	10%減らす	20,000円
②	10%減らす	12,000円
③	10%減らす	4,000円
④	不変	20,000円
⑤	不変	4,000円

費用対効果の視点を踏まえて、この患者に開始する内服薬はどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

119E38

臨床

□□□□□

1歳の男児。全身の皮疹を主訴に母親に連れられて来院した。2週間前に感冒様症状があり、その後、感冒様症状は改善したが、1週間前から下肢の皮疹が出現した。2日前から全身に皮疹を認めるようになったため受診した。腹痛および関節痛は認めない。関節内出血や筋肉内出血の既往はない。家族歴に特記すべきことはない。身長80cm、体重10kg。体温36.5℃。脈拍120/分、整。呼吸数32/分。顔色良好、眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭に発赤を認めない。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。皮疹は上からガラス板で圧迫しても退色しない。頬部、腹部および左下腿の皮疹の写真(別冊No.87A～C)を別に示す。

予想される血液検査値はどれか。

- a PT延長                      b APTT延長                      c 血小板数低値  
d Dダイマー高値                      e フィブリノゲン低値

別冊  
No. 87 A～C

119E39

臨床

□□□□□

65歳の女性。めまいを主訴に来院した。今朝、起床時に寝返りを打ったところ天井がぐるぐる回り、悪心を伴ったため、ベッド上で安静にしていた。めまいと悪心は1分程度で消失した。その後、朝食の準備中に振り向いた際に同様のめまいと悪心が再び出現したため、心配になり受診した。安静時のめまいはない。頭痛、耳鳴および難聴はない。意識は清明。体温36.5℃。脈拍72/分、整。血圧122/76mmHg。神経診察で異常を認めない。

良性発作性頭位めまい症の診断予測スコアを表1に、その診断スコア合計点別の尤度比を表2に示す。

表1 良性発作性頭位めまい症の診断予測スコア

項目	スコア
めまいの持続時間2分以内	1
寝返りで誘発される	2
安静時にめまいがある	-1

表2 診断スコア合計点別の尤度比

スコア合計	陽性尤度比
-1点	0.1
0点	0.2
1点	1.3
2点	2.8
3点	6.8

この患者における良性発作性頭位めまい症の事前確率が40%である場合、この患者における良性発作性頭位めまい症の事後確率に最も近いのはどれか。

- a 8%      b 19%      c 47%      d 65%      e 82%

119E40

臨床

□□□□□

48歳の女性。腰痛と両下肢痛を主訴に来院した。昨日の朝、ごみ出しをした後から腰痛が出現し、両下肢にも痛みとしびれがみられた。市販の鎮痛薬を内服して様子を見ていた。今朝①ベッドから起き上がるときに痛みが増強した。また、②今朝から尿が出にくくなった。③最近顔がほてったりする。④8年前に子宮頸癌に対する手術を受けた。喫煙歴はない。飲酒は夫と週にワイン1本を飲む。⑤この1年間で体重が4kg増加した。意識は清明。身長152cm、体重68kg。体温36.8℃。脈拍80/分、整。血圧124/76mmHg。呼吸数22/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。頭頸部と胸腹部に異常を認めない。肛門括約筋の収縮は減弱している。両側足関節底屈筋力の低下を認める。会陰部に知覚障害がある。腰部に強い痛みがあり、両臀部から大腿後面にかけて強い痛みとしびれを認める。上肢腱反射は正常。下肢では両側のアキレス腱反射が減弱している。

下線部の病歴のうち、緊急性が高いのはどれか。

- a ①      b ②      c ③      d ④      e ⑤

119E41~42

臨床

□□□□

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

52歳の女性。腹部造影CT検査のために来院した。

**現病歴**：2週間前の健康診断で実施された腹部超音波検査で肝臓の結節性病変を指摘されたため、精査目的で受診した。医師から造影CT検査について説明を受け、静脈路確保後に腹部造影CT検査が施行された。造影CT検査前の意識は清明で、バイタルサインに異常は認めなかったが、検査を終了してから5分後に息苦しさで気分不快が出現した。

**既往歴**：脂質異常症で食事療法を行っている。

**生活歴**：会社で事務職をしている。夫と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。ペットは飼育していない。

**家族歴**：父が肺癌。

**現症**：意識レベルはJCS II -10。身長160cm、体重56kg。体温35.0℃。脈拍112/分、整。血圧76/48mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。毛細血管再充満時間は3秒である。冷感と皮膚の湿潤を認める。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。顔面に浮腫、胸腹部に発赤と腫脹を認める。心音に異常を認めない。発声は可能であるが、吸気性喘鳴を認める。

**E41** 直ちに投与すべき薬剤はどれか。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| a アドレナリン    | b アトロピン      |
| c グルココルチコイド | d グルコン酸カルシウム |
| e ジアゼパム     |              |

**E42** 経過観察のために入院となったが、症状は消失し、翌日に退院した。入院中に病歴を再度聴取したところ、以前にヨード造影剤を静注した際に気分不快が出現したことが判明した。

この患者における有害事象の再発防止に必要なのはどれか。

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| a クリニカルパスを作成する。            | b 医療事故調査制度を利用する。     |
| c 医療安全支援センターを利用する。         | d 使用した造影剤の製薬会社に報告する。 |
| e 患者の診療録上の所定の位置に有害事象を記録する。 |                      |

119E43~44

臨床

□□□□□

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

74歳の女性。感冒様症状を主訴に来院した。

現病歴：現在、医療機関に通院していない。2週間前から、微熱と咳嗽が続き、①食欲が低下している。市販の感冒薬を服用したが、改善しないため受診した。

既往歴：小学生の時に気管支喘息、22歳時に虫垂炎、54歳時に胆石症、68歳時に脊椎圧迫骨折、70歳時に悪性リンパ腫。

生活歴：喫煙歴と飲酒歴はない。

家族歴：母は乳癌で死亡。

現 症：意識は清明。身長160cm、体重58kg。体温36.3℃。脈拍84/分、整。血圧120/78mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 86% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。②頸静脈の怒張を認める。頸部リンパ節を触知しない。心音に異常を認めない。③両肺野にcoarse cracklesを聴取する。腹部は腸雑音に異常を認めない。④肋骨弓下に肝を1cm触知する。⑤両下肢に圧痕性の浮腫を認める。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)、潜血(-)、沈渣に異常を認めない。血液所見：赤血球454万、Hb 13.2g/dL、Ht 42%、白血球7,000、血小板18万、Dダイマー2.6 μg/mL (基準1.0以下)。血液生化学所見：アルブミン3.9g/dL、総ビリルビン1.2mg/dL、AST 24U/L、ALT 18U/L、LD 182U/L (基準124~222)、CK 62U/L (基準41~153)、尿素窒素14mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL、尿酸6.9mg/dL、血糖84mg/dL、HbA1c 5.8% (基準4.9~6.0)、トリグリセリド74mg/dL、HDLコレステロール36mg/dL、LDLコレステロール76mg/dL、Na 132mEq/L、K 4.0mEq/L、BNP 356pg/mL (基準18.4以下)。CRP 0.3mg/dL。心電図に異常を認めない。胸部X線写真で心胸郭比56%、軽度のうっ血を認める。心エコー検査で左室駆出率32%であった。

E43 下線部のうち、左心不全に特徴的な徴候はどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

E44 薬剤性の心筋障害を疑った場合、既往歴のうち特に詳細に聴取すべき病歴はどれか。

- a 気管支喘息                      b 虫垂炎                      c 胆石症  
d 脊椎圧迫骨折                      e 悪性リンパ腫

119E45~46

臨床

□□□□

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

32歳の男性。腹痛を主訴に来院した。

**現病歴：**本日起床時から腹痛が出現した。悪心を伴い朝食を食べられなかった。出社時間となっても症状が改善しないため受診した。

**既往歴：**小学生時に気管支喘息のため吸入薬を使用していた。

**生活歴：**広告会社で勤務している。喫煙は10本/日を10年間。飲酒は機会飲酒。4年前に結婚し、妻と1歳の男児の3人暮らし。3年前から猫を2匹飼っている。海外渡航歴はない。

**家族歴：**父が60歳時に胃癌で手術。母が糖尿病で服薬治療中。

**現 症：**身長178cm、体重68kg。体温37.3℃。脈拍72/分、整。血圧132/78mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。甲状腺と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦。腸雑音はやや亢進している。肝・脾を触知しない。腹部正中に軽度の圧痛を認める。下腿に浮腫を認めない。

**検査所見：**尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体1+、潜血(-)、沈渣に白血球を認めない。血液所見：赤血球488万、Hb 14.6g/dL、Ht 44%、白血球12,300、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.6g/dL、アルブミン3.9g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、AST 28U/L、ALT 16U/L、LD 177U/L (基準124~222)、ALP 83U/L (基準38~113)、 $\gamma$ -GT 32U/L (基準13~64)、アミラーゼ50U/L (基準44~132)、CK 60U/L (基準59~248)、尿素窒素19mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL、尿酸6.2mg/dL、血糖98mg/dL、Na 134mEq/L、K 4.4mEq/L、Cl 98mEq/L。CRP 1.6mg/dL。

**E45** 検査結果を説明後に、患者から「幼い子供がいるので、うつる病気かどうか心配です」と発言があった。

この発言に対する適切な問診はどれか。

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| a 「夜は眠れますか」        | b 「便秘はありますか」     |
| c 「おなかの張りはありませんか」  | d 「手足のしびれはありますか」 |
| e 「周りに同じ症状の人はいますか」 |                  |

**E46** 外来受診後、自宅で安静にしていたが、夕方になり腹痛が増悪したため再受診した。腹痛の部位が移動し、右下腹部に圧痛を認めた。

この患者に認める可能性の高い所見はどれか。

- |      |      |      |       |       |
|------|------|------|-------|-------|
| a 黄疸 | b 下血 | c 波動 | d 金属音 | e 反跳痛 |
|------|------|------|-------|-------|

119E47~48

臨床



次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

75歳の女性。呼吸困難を主訴に救急車で搬入された。

**現病歴：**8年前に認知症と診断され、現在は直前の出来事も記憶していない。1週間前から咳嗽が増加し、市販の咳止めを内服したが改善しなかった。昨夜から呼吸困難が強くなり、喘鳴が家族にも聴取できるようになった。かかりつけ医に処方されていた吸入薬を使用した今朝になっても改善しないため、家族が救急車を要請した。

**既往歴：**認知症のほかに、40歳時から気管支喘息で発作時の吸入薬を処方されている。

**生活歴：**喫煙歴と飲酒歴はない。

**家族歴：**父が80歳時に脳梗塞で死亡。母が65歳時に胃癌で死亡。

**現症：**ベッド上で仰臥位となっている。会話は可能だが見当識に関連する質問には回答できない。身長143cm、体重46kg。体温36.6℃。心拍数92/分、整。血圧146/68mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 99%（マスク5L/分 酸素投与下）。頸静脈の怒張を認めない。口腔内と咽頭とに異常を認めない。両側全肺野で呼吸時にwheezesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に浮腫を認めない。

**検査所見：**尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球452万、Hb 13.8g/dL、Ht 41%、白血球5,440（好中球43%、好酸球12%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球38%）、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.3g/dL、アルブミン3.7g/dL、総ビリルビン0.5mg/dL、直接ビリルビン0.1mg/dL、AST 19U/L、ALT 10U/L、LD 230U/L（基準124~222）、CK 40U/L（基準41~153）、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、尿酸5.3mg/dL、血糖98mg/dL、Na 139mEq/L、K 4.2mEq/L、Cl 106mEq/L、Ca 8.9mg/dL、P 4.0mg/dL。CRP 0.4mg/dL。動脈血ガス分析（マスク5L/分 酸素投与下）：pH 7.46、PaCO<sub>2</sub> 31Torr、PaO<sub>2</sub> 92Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 21mEq/L。心電図で異常を認めない。胸部X線写真で異常を認めない。

E47 この患者の前腕から静脈投与を行う。

静脈留置針の自己抜去を防ぐために行う対応で適切なのはどれか。

- a 薬剤は持続点滴で投与する。
- b 両上肢を抑制帯で固定する。
- c できるだけ太い留置針を用いる。
- d 夜間も患者周囲の照明をできるだけ明るくする。
- e 患者から見えないうように寝衣の袖の中に点滴ルートを通す。

E48 β<sub>2</sub>刺激薬の吸入を行ったが呼吸困難と喘鳴が改善しない。

次に静脈内投与すべき薬剤はどれか。

- a アトロピン
- b ジアゼパム
- c フロセミド
- d アドレナリン
- e グルココルチコイド

119E49~50

臨床

□□□□□

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

17歳の男子。胸痛を主訴に来院した。

**現病歴：**昨日午後、高校の授業中に左胸部痛と呼吸困難を自覚し、当院を受診し、胸部X線撮影を施行された。一旦帰宅したが、本日朝になっても軽度の左胸痛が持続するため、再度受診した。

**既往歴：**特記すべきことはない。

**生活歴：**両親、大学生の兄と同居。アレルギー歴はない。

**現症：**意識は清明。身長182cm、体重66kg。体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧110/78mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。心音に異常を認めない。

**検査所見：**血液所見：赤血球500万、Hb 14.9g/dL、Ht 45%、白血球8,300、血小板29万。血液生化学所見：AST 21U/L、ALT 18U/L、LD 180U/L (基準124~222)。本日来院時の胸部X線写真(別冊No.88A)と胸部単純CT(別冊No.88B)とを別に示す。

E49 この患者でみられる所見はどれか。

- a 奇異呼吸                      b 胸部握雪感                      c 左上肢浮腫  
d 左頸静脈怒張                  e 左呼吸音減弱

E50 昨日と本日の胸部X線写真を比較して、大きな変化は認められなかった。

適切な治療方針はどれか。

- a 抗菌薬投与                      b 昇圧薬投与                      c 外来で経過観察  
d 気管支拡張薬吸入              e 緊急胸腔鏡下手術

別冊  
No. 88 A,B

◎指示があるまで開かないこと。

(令和7年2月9日 16時00分～18時30分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

- (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。  
(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医師免許を付与する

のはどれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのは

どれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「b」であるから答案用紙の**(b)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
101 (a) (b) (c) (d) (e)

答案用紙②の場合、

101 101  
(a) (a)  
(b) (b)  
(c) → (c)  
(d) (d)  
(e) (e)

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の**(a)**と**(e)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102 (a) (b) (c) (d) (e)  
↓  
102 (a) (b) (c) (d) (e)

答案用紙②の場合、

102 102  
(a) (a)  
(b) (b)  
(c) → (c)  
(d) (d)  
(e) (e)

(2) (例3) では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3) の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e 都市部で勤務する義務

(例3) の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙のⒶとⒸとⒹをマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ
			↓		
103	●	Ⓑ	●	●	Ⓔ

答案用紙②の場合、

103	103
Ⓐ	●
Ⓑ	Ⓑ
Ⓒ	→ ●
Ⓓ	●
Ⓔ	Ⓔ

(3) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9

(例4)の正解は「90」であるから①は答案用紙の⑨を②は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104 ① ⑨ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ●  
② ● ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

答案用紙②の場合、

104  
① ②  
⑨ ●  
① ①  
② ②  
③ ③  
④ ④  
⑤ ⑤  
⑥ ⑥  
⑦ ⑦  
⑧ ⑧  
● ⑨

119F1

一般

□□□□

世界保健機関〈WHO〉の目的で正しいのはどれか。

- a 疾病の国際的伝播を最大限防止する。
- b 人道的かつ秩序ある移住を推進する。
- c 開発途上国の経済・社会の発展，生活水準を持続的に発展させる。
- d 世界中の子供たちが「子供の基本的人権」を享受できるようにする。
- e 人々が健全で活発な生活を送るために十分な量・質の食糧を供給する。

119F2

一般

□□□□

大腿静脈の周辺臓器の解剖で誤っているのはどれか。

- a 鼠径靭帯は坐骨結節に付着する。
- b 鼠径靭帯の頭側には後腹膜腔がある。
- c 縫工筋は大腿三角の一辺を構成する。
- d 大腿静脈は大腿動脈の内側を走行する。
- e 大腿神経は大腿動脈の外側を走行する。

119F3

一般

□□□□

正常新生児で正しいのはどれか。

- a 7頭身である。
- b 胸式呼吸が主体である。
- c 大泉門は生後1ヵ月ごろ閉鎖する。
- d 生理的体重減少は10%以下である。
- e 生理的黄疸のピークは生後1～2日である。

119F4

一般

□□□□

抗精神病薬の作用と関連しているのはどれか。

- a ドパミン受容体
- b セロトニン受容体
- c モノアミンオキシダーゼ
- d アセチルコリンエステラーゼ
- e ノルアドレナリントランスポーター

119F5

一般

□□□□

遺伝子-環境交互作用の説明で正しいのはどれか。

- a 遺伝子と環境の影響が交互に出現する。
- b 環境中の有害物質で遺伝子変異が起こる。
- c 遺伝子組み換えの生物が環境に影響を与える。
- d 遺伝子と環境のそれぞれが原因の疾患がある。
- e 遺伝子の違いにより環境の健康への影響が異なる。







119F22

一般

□□□□

わが国の最近5年間の年間総出生数に対する、母体年齢40歳以上の出生数の割合に最も近いのはどれか。

- a 1%                      b 6%                      c 16%                      d 26%                      e 36%

119F23

一般

□□□□

求心性視野狭窄をきたす疾患はどれか。

- a うっ血乳頭                      b 頭蓋咽頭腫                      c 加齢黄斑変性  
d 球後視神経炎                      e 開放隅角緑内障

119F24

一般

□□□□

精神運動興奮状態の患者に対して、精神保健指定医が行うことのできる行動の制限で誤っているのはどれか。

- a 隔離                      b 身体拘束                      c 退院の制限  
d 面会の制限                      e 処遇改善請求の制限

119F25

一般

□□□□

The constitution of the world health organization (WHO) is shown below.

"Health is a state of complete physical, ( ) and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity."

Select the correct answer from below to complete the sentence.

- a mental                      b spiritual                      c emotional  
d psychiatric                      e psychological

119F26

一般

□□□□

早朝空腹時の主な血糖調節機構はどれか。

- a 肝臓でのブドウ糖放出                      b 腎臓でのブドウ糖再吸収  
c 脳でのブドウ糖取り込み                      d 骨格筋でのブドウ糖取り込み  
e 副腎での糖質ステロイド合成

119F27

一般

□□□□

地域包括支援センターの業務はどれか。

- a 高齢者虐待の防止                      b 発達障害児の相談  
c 地域住民のがん検診                      d へき地医療対策の企画  
e 通所リハビリテーションの提供

119F28

一般

□□□□□

成人期に低身長をきたすのはどれか。2つ選べ。

- a Marfan 症候群                      b Turner 症候群                      c Kallmann 症候群  
d Prader-Willi 症候群                  e アロマターゼ欠損症

119F29

一般

□□□□□

顔貌の特徴と疾患の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 下顎突出 ————— 先端巨大症  
b 仮面様顔貌 ————— Parkinson 病  
c 眼球突出 ————— Sheehan 症候群  
d 眉毛脱失 ————— Cushing 病  
e 満月様顔貌 ————— Basedow 病

119F30

一般

□□□□□

正期産児で、日齢0より日齢28で高値となるのはどれか。2つ選べ。

- a IgA                      b IgG                      c IgM                      d 白血球                      e ヘモグロビン

119F31

一般

□□□□□

医療計画において二次医療圏単位で基準病床数が設定されるのはどれか。2つ選べ。

- a 一般病床                      b 結核病床                      c 精神病床  
d 療養病床                      e 感染症病床

119F32

一般

□□□□□

肝生検が診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a Gilbert 症候群                      b 肝外門脈閉塞症                      c 自己免疫性肝炎  
d Budd-Chiari 症候群                  e 非アルコール性脂肪性肝炎

119F33

一般

□□□□□

高齢者の入院時の栄養評価で低栄養が疑われるのはどれか。2つ選べ。

- a 褥瘡                      b 難聴                      c 腰痛                      d 高血圧                      e 体重減少

119F34

一般

□□□□□

アニオンギャップが開大する病態はどれか。3つ選べ。

- a 下痢                                      b 糖尿病ケトアシドーシス                      c 乳酸アシドーシス  
d 尿細管性アシドーシス              e 尿毒症

119F35

一般

□□□□□

医療機関での感染性廃棄物の処理で正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 収納容器を満杯まで使用する。                      b 収納容器を運搬する際は密閉する。  
c 注射針を段ボール容器に廃棄する。              d 発生したその場で容器に収容する。  
e 使用した舌圧子は処理の対象となる。

119F36

臨床

□□□□□

73歳の女性。左手関節痛を主訴に来院した。2時間前に自宅の玄関で転倒し、左手をついた際に痛みが出現した。左手関節に腫脹と圧痛を認める。左母指と示指の掌側にしびれと知覚鈍麻を認める。左手関節のX線写真(別冊No.89)を別に示す。

障害されている神経はどれか。

- a 筋皮神経                                      b 後骨間神経                                      c 尺骨神経  
d 正中神経                                      e 橈骨神経

別冊  
No. 89

119F37

臨床

□□□□□

35歳の女性。挙児希望のため来院した。これまでに3回の妊娠歴があるが、いずれも胎児心拍確認後、妊娠6週、8週、7週で心拍が消失し流産した。不正性器出血はない。初経は13歳、月経周期28日型、整、持続5日間。内診で子宮は正常大で付属器を触知しない。

次回妊娠に向けた検査で適切でないのはどれか。

- a 甲状腺機能検査                                      b 子宮頸管長測定  
c 子宮卵管造影検査                                      d 抗リン脂質抗体測定  
e カップルの染色体検査





119F43

臨床

□□□□□

78歳の男性。右臀部周辺の痛みを主訴に来院した。1年前から前立腺癌に対しホルモン療法施行中である。3日前に旅行から帰宅後に右臀部の痛みと腫れを自覚した。痛みは徐々に右臀部全般に広がった。意識は清明。体温36.2℃。脈拍96/分、整。血圧102/68mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。右大腿から腰部にかけて紫斑を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。右臀部は硬く腫脹し、圧痛を認める。血液所見：赤血球391万、Hb 9.8g/dL、Ht 32%、白血球7,950 (好中球72%、好酸球1%、単球9%、リンパ球18%)、血小板35万。PT-INR 1.0 (基準0.9～1.1)、APTT 72.4秒 (基準対照32.2)、フィブリノゲン433mg/dL (基準186～355)、FDP 14 μg/mL (基準10以下)。血液生化学所見：総蛋白7.4g/dL、AST 24U/L、ALT 40U/L、LD 218U/L (基準124～222)、尿素窒素10mg/dL、クレアチニン0.7mg/dL。CRP 0.8mg/dL。

臀部痛の原因はどれか。

- a 筋肉内出血                      b 坐骨神経痛                      c 腸腰筋膿瘍  
d 大腿骨頭壊死症                  e 変形性股関節症

119F44

臨床

□□□□□

15歳の女子。定期受診で来院した。10歳時に全身性エリテマトーデス (SLE) と診断され、小児科に通院している。少量グルココルチコイド、ミコフェノール酸モフェチル及びヒドロキシクロキンを内服し病状は安定している。13歳時にひとりで薬の管理をさせたところ、処方数と残薬数が合わないことから怠薬が判明した。以後、母親が薬の管理をしている。発達に問題はなく、学校の成績は良好で、今春、志望校に合格した。高校生になると忙しくなるので、本人を連れて受診できるか、母親が心配している。患者は質問に答えるのみで、自らの発言はない。高校進学を前に将来的な内科への移行を見据え、今後の管理を話し合うことにした。

適切な対応はどれか。

- a 以前の怠薬歴を注意する。  
b 本人のみに薬の自己管理をさせる。  
c 自宅での内服管理は引き続き母親に任せる。  
d 母親のみに通院してもらい処方箋を発行する。  
e 本人に自身の病気をどれくらい理解しているか確認する。



119F48

臨床

□□□□□

34歳の男性。会社員。昼休みに、屋上で下を覗き込んでいるところを、上司が見かけて、上司に付き添われて健康管理室に来室した。産業医が面談したところ、この社員が現在取り組んでいる仕事は難航しており、当面の間、解決のめどが立ちそうにないとのことであった。体調面では、ここ1ヵ月の間、体の疲れが取れず、眠れていない。また、気分の落ち込みが激しく、食事もほとんど摂れていないようである。面談中に「自分など会社のお荷物だ。いっそのこと死んでしまいたい。昨日、練炭を買ってきました」と発言があった。直近3ヵ月の月の残業時間は100時間、110時間、120時間であった。産業医から精神科を受診するように伝えたが、忙しくて時間が取れないと言っている。この社員は一人暮らしをしている。

面談実施後に、産業医から上司に対する発言で適切なのはどれか。

- a 「配置転換をしてください」
- b 「労災を申請してください」
- c 「疲れているので、今日は一人で早退させてください」
- d 「残業をさせる時は、夕食をきちんととらせてください」
- e 「今から会社の人が付き添って、精神科を受診させてください」

119F49

臨床

□□□□□

52歳の男性。腎機能低下を指摘され妻とともに来院した。1年前から下腿の浮腫を自覚していた。2週間前から浮腫が悪化したため、自宅近くの医療機関を受診したところ腎機能低下を指摘され、腎臓専門医を紹介受診した。30歳から高血圧症と糖尿病を指摘され、内服治療中であったが、通院は不定期であった。5年前に大腸ポリープで内視鏡的切除術を受けている。身長172cm、体重75kg。脈拍84/分、整。血圧156/92mmHg。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。胸部に異常を認めない。両下腿に軽度の浮腫を認める。尿所見：蛋白3+、潜血(-)、1日尿蛋白6.5g/日。血液所見：赤血球316万、Hb 9.8g/dL、Ht 31%、白血球5,700、血小板17万。血液生化学所見：総蛋白5.7g/dL、アルブミン3.4g/dL、尿素窒素68mg/dL、クレアチニン6.5mg/dL、eGFR 8.1mL/分/1.73m<sup>2</sup>、HbA1c 6.3% (基準4.9~6.0)、Na 144mEq/L、K 5.4mEq/L、Cl 102mEq/L。腎代替療法として腹膜透析もしくは妻をドナーとした生体腎移植を希望している。

この患者に対する腹膜透析の説明で適切なのはどれか。

- a 「週3回の通院が必要です」
- b 「糖尿病があるため適応はありません」
- c 「腹膜透析開始後に食事制限は必要ないです」
- d 「腹膜透析を行ってからでも腎移植はできます」
- e 「内視鏡的切除術の治療歴があるため適応はありません」

119F50

臨床

□□□□□

45歳の男性。2ヵ月前から生じた右腋窩の皮疹を主訴に来院した。被覆皮膚と癒着し波動を触れる径20mmの皮疹を認める。腋窩の写真(別冊No.92A)と皮疹部の超音波像(別冊No.92B)とを別に示す。

この皮疹の種類はどれか。

- a 丘疹      b 苔癬      c 嚢腫      d 膿疱      e 膨疹

別冊  
No. 92 A,B

119F51

臨床

□□□□□

1歳6ヵ月の男児。1歳6ヵ月児健康診査のため母親に連れられて来院した。在胎40週、身長50cm、体重2,900g、正常分娩で出生した。来院時の身長81cm、体重10.5kg。1歳で離乳食から幼児食に移行し、1日3回の食事や間食のリズムはついてきたが、同じものしか食べない。

適切な指導はどれか。

- a 「生卵かけご飯を食べさせてみてはどうですか」  
b 「大人の食事と同じくらい味つけを濃くしてみましょう」  
c 「今は食事を楽しむことが大事ですからゆっくり進めていきましょう」  
d 「ミニトマトやブドウはのど越しがよいのでそのまま食べさせましょう」  
e 「口をあけたタイミングで食べさせたいものを口に押し込んでみましょう」

119F52

臨床

□□□□□

68歳の女性。骨粗鬆症を心配して来院した。若いときよりも身長が約2cm低くなり、娘からは背中が丸くなっていると指摘されている。腰痛の訴えはない。2年前に腰椎圧迫骨折の既往がある。立位姿勢は軽度の前屈位。腰部に圧痛や叩打痛を認めない。下肢の運動障害や知覚障害を認めない。腰椎X線写真では第1腰椎の圧迫骨折を認めた。骨密度検査(DXA)では、腰椎は若年成人平均値(YAM)85%、大腿骨頸部はYAM82%であった。

骨粗鬆症治療薬の開始時期で適切なのはどれか。

- a 現時点      b 腰痛が出現した時  
c 再度骨折を生じた時      d 下肢の神経障害が出現した時  
e 腰椎または大腿骨の骨密度がYAM70%以下となった時



119F55

臨床

□□□□

35歳の男性。頭部を打撲したため救急外来を受診した。約1時間前に運動中に転倒し後頭部を打撲した。受傷時に意識消失は認めなかった。来院時、意識は清明。①軽度の頭痛と②後頸部痛を訴えている。身長168cm、体重65kg。③体温37.3℃。脈拍76/分、整。血圧124/78mmHg。呼吸数20/分。神経診察で脳神経系に異常を認めず、四肢の麻痺も認めないが、④打撲時から現在までの記憶がない。⑤打撲部位の圧痛を認めたが、同部位に肉眼的な異常は認めなかった。

下線部のうち、頭部CTを行うべき所見はどれか。

- a ①                      b ②                      c ③                      d ④                      e ⑤

119F56

臨床

□□□□

78歳の女性。左季肋部痛を主訴に来院した。6年前から脾臓原発の悪性リンパ腫に対して薬物による抗癌治療を継続しているが再発を繰り返しており、薬物による抗癌治療を行わない方針となった。1週間前から悪性リンパ腫による癌性疼痛に対してモルヒネの経口投与を開始したが疼痛が強くなり入院した。意識は清明。体温36.8℃。脈拍74/分、整。血圧132/78mmHg。呼吸数14/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。左季肋下に脾を4cm触知し、圧痛を認める。腹部CTで再発による脾臓の腫大を認めている。入院後、嚥下障害が出現し内服が困難となったためモルヒネ経口投与を中止し、モルヒネ皮下注射を開始した。

注意すべき症状や徴候はどれか。2つ選べ。

- a 発熱                      b 便秘                      c 口内炎  
d 皮膚潰瘍                      e 呼吸数低下

119F57

臨床

□□□□

38歳の褥婦。産後1ヵ月の健診のため来院した。初めての児を1ヵ月前に経陰分娩した。体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧126/76mmHg。子宮復古は良好で、悪露は正常であった。母乳哺育を行っているが、うまくできているか心配でよく眠れない。本人、夫ともに兄弟姉妹はおらず、両親は他界している。最近、転居したため、周囲に親しい友人はいない。エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS) は14点 (基準8点以下) であった。児は、出生体重3,096g、発育は順調である。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 抗精神病薬を処方する。  
b 精神科への受診を提案する。  
c 児と分離することを目的に本人を入院させる。  
d 本人の同意を得て市町村に患者情報を伝える。  
e 母乳哺育を中止し人工乳哺育するように指導する。

119F58

臨床

□□□□□

76歳の男性。倦怠感を主訴に来院した。2ヵ月前から食事をとってもおいしくなく、倦怠感が出現した。趣味にしていた野球観戦をしなくなり、気分が落ち込んでいる。外出頻度が減り、1日のほとんどを自宅内で過ごしている。身長168cm、体重62kg。体温36.1℃。脈拍64/分、整。血圧138/88mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢の筋力は保たれており、起立と歩行に異常を認めない。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは30点(30点満点)。血液所見：Hb 14.2g/dL、白血球6,700。血液生化学所見：総蛋白6.9g/dL、アルブミン4.2g/dL、尿素窒素18mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL。

この患者の状態で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 低栄養                                      b うつ状態                                      c 閉じこもり  
d 認知機能低下                                      e ロコモティブシンドローム

119F59

臨床

□□□□□

56歳の男性。左下腿の挫創を主訴に来院した。5日前に発生した地震で、倒れた家具が接触して受傷したが治療できずそのままにしていた。2日前から創部の痛みが悪化し膿性浸出液を認めるようになった。来院時の創部の写真(別冊No.94)を別に示す。

創部を消毒する前に行うのはどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬外用                                      b 洗 浄                                      c 創部培養  
d ドレーン留置                                      e 縫 合

別 冊  
No. 94







119F69～71

臨床

□□□□□

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

60歳の男性。激しい胸痛と息苦しさを主訴に救急車で搬入された。

**現病歴**：7日前から10分程度の平地歩行で前胸部の絞扼感と息苦しさを自覚していたが、5分程度の休息で症状は消失していた。本日午後10時に勃起不全の治療薬としてPDE5〈phosphodiesterase5〉阻害薬を服用した。午後10時30分から突然の強い胸痛を自覚し、30分以上持続したため妻が救急車を要請した。

**既往歴**：10年前から糖尿病で経口糖尿病薬、1年前から勃起不全に対してPDE5〈phosphodiesterase5〉阻害薬を服用中である。

**生活歴**：喫煙は10本/日を40年間。飲酒は機会飲酒。妻と2人暮らし。

**家族歴**：母が糖尿病。

**現 症**：胸痛で苦悶様の顔貌をしているが呼びかけには応じる。身長169cm，体重72kg。体温36.3℃。心拍数56/分，整。血圧80/46mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。冷汗を認め、四肢末梢に冷感を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦，軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。12誘導心電図でⅡ，Ⅲ，aVFのST上昇を認める。右側胸部誘導でもST上昇を認める。心エコー検査では下壁の壁運動低下に加えて右室の壁運動低下も認める。

F69 次に行うべき処置で誤っているのはどれか。

- a ヘパリンの静注
- b アスピリンの経口投与
- c ドブタミンの点滴静注
- d ニトログリセリンの舌下
- e 生理食塩液の急速点滴静注

F70 緊急カテーテル検査の準備中に突然うめき声をあげてその後動かなくなった。心電図モニター波形(別冊No.96)を別に示す。

直ちに行うべき処置はどれか。

- a 気管挿管
- b 電気的除細動
- c 心室ペーシング
- d リドカイン静注
- e アミオダロン静注

F71 洞調律に復帰後、緊急冠動脈造影検査のためカテーテル室に移動した。平均血圧60mmHg以上の維持が困難で、心拍数も120/分を超えて不穏状態となった。

次に行う治療で適切なものはどれか。

- a 植込み型除細動器
- b 永久ペースメーカー
- c 補助人工心臓〈VAD〉
- d 大動脈内バルーンパンピング〈IABP〉
- e ECMO〈Extracorporeal membrane oxygenation〉

別 冊  
No. 96

119F72~74

臨床

□□□□

次の文を読み、72～74の問いに答えよ。

82歳の女性。発熱と呼吸困難を主訴に来院した。

**現病歴：**3日前から発熱と乾性咳嗽が出現、2日前から労作時の呼吸困難も出現したため受診した。同居している家族を含め、周囲で上気道炎症状のある人はいない。

**既往歴：**2年前から特発性間質性肺炎と診断され、3ヵ月前の急性増悪の際にステロイドパルス療法が行われ、その後漸減しながら現在プレドニゾン25mg/日と抗線維化薬を内服している。その他の薬は副作用のため中断している。

**生活歴：**喫煙歴はない。自宅で夫と息子夫婦の4人暮らし。ADLは自立。毎日近所を散歩している。室内で犬を1匹飼っている。3ヵ月前にインフルエンザワクチンと新型コロナウイルスワクチンを接種している。

**家族歴：**父が82歳時に肺癌で死亡。

**現 症：**意識は清明。身長155cm、体重60kg。体温37.8℃。脈拍84/分、整。血圧130/76mmHg。呼吸数28/分。SpO<sub>2</sub> 88% (room air)。心音に異常は認めない。呼吸音は両側下肺背側にfine cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

**検査所見：**尿所見：蛋白(-)、糖3+、ケトン体2+、潜血1+。血液所見：赤血球412万、Hb 12.3g/dL、Ht 38%、白血球11,400(分葉核好中球89%、単球1%、リンパ球10%)、血小板24万、Dダイマー1.0 μg/mL(基準1.0以下)。血液生化学所見：総蛋白5.1g/dL、アルブミン3.0g/dL、総ビリルビン0.7mg/dL、AST 25U/L、ALT 21U/L、LD 549U/L(基準124～222)、ALP 39U/L(基準38～113)、γ-GT 30U/L(基準9～32)、尿素窒素17mg/dL、クレアチニン0.5mg/dL、血糖144mg/dL、HbA1c 6.1%(基準4.9～6.0)、Na 135mEq/L、K 3.9mEq/L、Cl 94mEq/L、KL-6 4.482U/mL(基準500未満)。免疫血清学所見：CRP 4.7mg/dL、β-D-グルガン210pg/mL(基準10以下)。インフルエンザウイルス迅速抗原検査陰性、新型コロナウイルス〈SARS-CoV-2〉抗原定性検査陰性、サイトメガロウイルス抗原陰性。胸部X線写真(別冊No.97A)と胸部単純CT(別冊No.97B)とを別に示す。

F72 気管支鏡検査を行い、気管支肺胞洗浄液を採取した。

確定診断に有用な染色法はどれか。

- a Gram染色                      b Grocott染色                      c Congo-Red染色  
d Papanicolaou染色              e Ziehl-Neelsen染色

F73 想定される疾患のリスクファクターはどれか。

- a 性別                                  b 年齢                                  c 耐糖能異常  
d ワクチン接種                      e プレドニゾン内服

F74 入院して治療を行ったが、呼吸状態が悪化し、マスク5L/分の酸素投与でもSpO<sub>2</sub>が90%を維持できない状態となり、本人の呼吸困難も悪化した。終末期における医療について、患者本人から侵襲的な処置を希望しないこと、「苦しくないように、痛くないようにしてほしい」という希望があることを家族が聞いており、家族から本人の意思を尊重して治療を進めて欲しいと話があった。また今回の入院時にも、同様のことを本人が主治医をはじめ医療スタッフに話しており、診療録にもこの意向が記載されていた。

オピオイドの投与とともに行うのはどれか。

- a 気管切開                              b 気管挿管  
c 輪状甲状靱帯切開                  d ネーザルハイフローによる酸素投与  
e ECMO〈Extracorporeal membrane oxygenation〉

別 冊  
No. 97 A,B

119F75

臨床

□□□□□

10ヵ月の男児。嘔吐と下痢を主訴に母親に連れられて来院した。診察時の体重は10kg。血清Na濃度は132mEq/Lであった。

正常血清Na濃度を140mEq/Lとして、Naの欠乏量を求めよ。

ただし、患児の体重に対する細胞内液の割合を30%、細胞外液の割合を20%とする。

また小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ② mEq

① 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

② 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9